四番水　平水時ノ貨物積量ヨリ四分ノ二ヲ減スヘシ

五番水　平水時ノ貨物積量ヨリ四分ノ一ヲ減スヘシ

三番水以上ニハ乘客ノ搭載ヲ禁ス

本條ノ制限ハ出船所ノ水量標ニ依ルモノナレハ若シ下流若クハ上流ノ改船所ニ於テ水量ノ增減ノ爲メ危險ト認ムルトキハ臨機積量ヲ減セシメ又減水ノ場合ニハ積量ヲ增加セシムルヲ得

第十三條　夜間又ハ危險ノ虞アルトキハ出船スルヲ得ス又平水時ト增水時ニ拘ハラス乘客ニ於テ危險ト認メ上陸ヲ望ミタルトキハ之レニ應スヘシ（三十五年縣令第七號ヲ以テ第十三條ヲ削除シ以下繰上改正）

第十四條　上リ船ハ二俣ノ內南口、大井ノ內西渡ノ改船所ニ下リ船ハ大井ノ內西渡、二俣ノ內南口ノ改船所ニ乘客員數書貨物ノ送狀ヲ差出シ積荷ノ檢査ヲ受クヘシ但買切船等ニシテ直航スルモノハ二俣ノ內南口改船所ノ外檢査ヲ受クルヲ要セスト雖トモ發船地ヨリ次ノ改船所ニテ直航ノ徽章ヲ受ケ之ヲ船首ニ立ツヘシ

第十五條　直航ノ徽章ハ左ノ雛形ニ依リ之レヲ調製シテ改船所ニ備フヘシ

第十六條　客船ニハ看護人ナキ瘋癲者又ハ亂醉者若シクハ火藥其他劇發物又ハ臭氣ヲ發スル汚穢物若シクハ牛馬羊豕又ハ病アル猫犬等ヲ乘載スルヲ得ス但乘客ナキトキハ此限リニアラス

第十七條　船艇「筏トモ」二艘以上連行若クハ併行スルトキハ相當ノ距離ヲ保チ又行逢トキハ互ニ避讓スヘシ（三十五年縣令第七號ヲ以テ改正）

第十八條　航運中故ナク停船シ又ハ强テ乘船ヲ勸メ若シクハ名義ノ何タルヲ問ハス定額外ノ金錢ヲ要求スルヲ得ス

第十九條　船艇休泊中水夫長以下水夫悉皆上陸スルコトヲ得ス少ナクモ一名以上ヲ殘シ置キ貨物ノ保護ヲナサシムヘシ但シ空船ノトキハ此限リニアラス

第二十條　營業者ハ乘客ノ賃錢貨物ノ運賃ヲ一定シ所轄警察官署ニ届出ヘシ但乘客ノ賃錢及貨物ノ運賃額ハ判明ニ記シ出船場及回漕店ヘ掲示スヘシ（三十五年縣令第十號ヲ以テ改正）

第二十一條　營業者ニアラサルモノハ客ヲ乘船セシムヘカラス（三十五年縣令第七號ヲ以テ追加）

第二十二條　通船ノ妨害トナルヘキ場所ニ筏其他ノ物件ヲ置クヘカラス（仝上）

第二十三條　警察官署ハ營業者ニシテ公安風俗ヲ紊スノ虞アルカ又ハ本則ニ違背シ改悛ノ情ナキモノト認ムルトキ及水夫ニシテ第三條ノ事由ヲ生シ又ハ航運術ニ乏シキモノト認メタルトキハ營業ノ認可ヲ取消シ鑑札ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ（仝上）

第二十四條　營業上ニ關スル規約ヲ設ケ又ハ變更セントスルトキハ所轄警察官署ヲ經山シテ當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ（三十五年縣令第七號ヲ以テ改正）

第二十五條　營業者ハ取締一名副取締若干名ヲ撰定シ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ヘ届出ヘシ改選

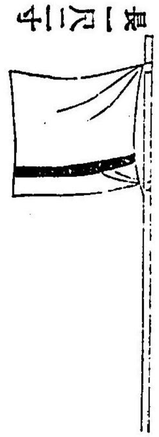
シタルトキ亦同シ

取締人若クハ副取締人ハ營業者ノ願届書等ニ連印スヘシ(仝上)

第二十六條　取締人ヲ不適當ト認メタルトキハ改撰ヲ命スルコトアルヘシ(仝上)

第二十七條　第二條第一項第三條乃至第二十二條第二十四條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス(仝上)

直航徽章雛形



幅一尺　黑ノ幅一寸五五分

◉縣令第三十四號　(明治三十二年六月二十四日)

狩野川木材取締規則左ノ通相定ム

狩野川木材取締規則

第一條　本則ハ狩野川本支川ノ水流ヲ利用シテ木材ヲ運搬又ハ造材スル者ニ適用ス

第二條　本支川ノ水流ヲ利用シテ運搬又ハ造材スル木材ニハ一定ノ極印ヲ打チ若クハ切判ヲ刻入スヘシ

前項ノ極印若クハ切判ノ字體形狀ハ所轄警察官署ニ届出置クヘシ

第三條　川敷堤敷其他流失ノ虞アル場所ニ木材ヲ出シ置クヘカラス

第四條　沿岸ニ木材ヲ積置カントスル者ハ其場所ヲ定メ(官有地ニ係ルトキハ其所轄管廳ノ使用許可證竹其他ハ地主承諾書ヲ添ヘ)所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　木材ノ流失ヲ防禦スルニ必要ナル工作物ヲ川敷又ハ堤敷内ニ建設セントスル者ハ地元町村長ノ奥書ヲ受ケ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　流域ヲ分ツコト左ノ如シ

第一流域　田方郡上狩野村湯ケ島字宿猫越川合流口ヨリ上流

第二流域　仝上合流口ヨリ下流仝郡下狩野村本立野字中島堤防マテ

第三流域　仝上中島堤防ヨリ下流仝郡隅南村南條字河東大澱マテ

第四流域　仝上上大澱ヨリ下流

第七條　第一流域ハ木材ヲ散流スルコトヲ得但期限ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテトス第二流域以下ハ筏組ト爲スニアラサレハ木材ヲ運搬スルコトヲ得ス

第八條　木材ヲ散流スルトキハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　宰領人ヲ定メ置クコト
二　人夫ヲ配置シ流域外ニ流下セシメサル樣防備ヲナスコト
三　出水ノ際流失ノ虞アルトキハ速ニ人夫ヲ出シ陸揚ケスルコト
四　堰留ヲ爲シタルトキハ流下ノ後原形ニ復スルコト

第九條　木材ヲ散流セントスルトキハ着手前其期日木種數量及宰領人ノ氏名幷人夫ノ員數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條　板ヲ筏組トシ運搬スルトキハ左ノ制限ニ從フヘシ
第二流域ハ幅壹間長十五間以内乘込人夫三人以上
第三流域ハ幅壹間長十五間以内乘込人夫二人以上
第四流域ハ幅貳間長十五間以内乘込人夫三人以上但幅壹間長十五間以内ノモノナルトキハ乘込人夫一人ヲ減スルコトヲ得

第十一條　丸太又ハ角材ヲ筏組トシ運搬スルトキハ左ノ制限ニ從フヘシ
第二第三流域ハ幅壹間長八間以内乘込人夫二人以上
第四流域ハ幅貳間長八間以内乘込人夫二人以上

第十二條　筏組ハ鐵線其他金屬製ノ線條ヲ用ヰ木材ヲ連接スヘカラス

第十三條　筏ヲ乘下クルトキハ橋梁堤防水刎水閘其他ノ建物ニ衝突セシムヘカラス

第十四條　第二第三流域ニ於テハ平水ヨリ五尺以上第四流域ニ於テハ平水ヨリ壹尺以上出水シタルトキハ筏ヲ乘下クルコトヲ得ス

第十五條　筏ハ二艘以上連續シテ乘下クルコトヲ得ス

第十六條　筏ハ左ノ繫留所外又ハ定數ヲ超過シテ繫留スルコトヲ得ス
一　田方郡下狩野村本立野字中島堤防ヨリ約五間ノ下流六艘以内
一　仝郡韮山村南條字河東大澱、十艘以内

第十七條　筏ハ二日以上繫留シ置クコトヲ得ス但第十四條ノ場合ハ此限ニアラス

第十八條　筏ヲ繫留スルトキハ金屬製ノ線條又ハ麻繩等强靭ノモノヲ用ヰ流失セサル樣防備スヘシ

第十九條　筏繫留所ニハ管理人ヲ定メ置キ出水ノ際防備ノ手配ヲナサシムヘシ

第二十條　前條管理人ノ族籍氏名ハ所轄警察官署ニ届出置クヘシ

第二十一條　積置又ハ繫留中ノ木材ニシテ流失ノ虞アリト認ムルトキハ所轄警察官署ハ相當ノ設備若クハ其位置ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　沿岸其他ノ場所ニ於テ流失ノ虞アル木材ヲ認メタルトキハ所轄警察官署ハ日時ヲ限

リ取片付ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條　天變其他ノ事故ニ因リ川敷内ニ入リタル木材ハ三日以内ニ流失ノ虞ナキ場所ニ取片付クヘシ

第二十四條　木材ヲ流失シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二十五條　第二條乃至第五條第七條乃至第十八條第二十三條第二十四條ニ違犯シタルモノ及第二十一條第二十二條ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

◉縣令第四十一號　（明治二十八年六月二十七日）

舟筏賦金取締規則左ノ通相定ム

舟筏賦金取締規則

第一條　目的ノ何タルニ拘ハラス事業又ハ組合等ニ要スル費用トシテ港灣及河湖通過ノ舟筏若クハ積荷ヨリ金錢物件等ヲ徴收セントスル者ハ其方法及理由ヲ詳記シ地元市町村長ノ奥書ヲ受ケ所轄警察官署ヲ經由シテ願出テ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　從來前條ノ金錢物件等ヲ徴收スル者ハ七月三十一日迄ニ更ニ前條ノ手續ニ依リ願出テ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　第一條第二條ニ違犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◉縣令第六十一號　（明治二十九年九月九日）

艀舟營業取締規則左ノ通相定ム

艀舟營業取締規則

第一條　本則ハ艦船其他水上ニ於ケル物件縦覽人ヲ乘載スル艀舟營業者ニ適用ス

第二條　前條ノ營業ニ供セントスル艀舟ノ持主又ハ管理人ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄警察官署ヘ届出檢査ヲ受ケ其證ヲ船内見易キ處ヘ釘付スヘシ

檢査證ノ有効期限ハ滿一年トス但期限内ト雖トモ所轄警察署長又ハ分署長ハ必要ニ從ヒ之レカ修理ヲ命シ若シ其命ニ應セサルトキハ之カ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

一　船種及定繫場

一　乘客及乘組水夫ノ定員

一　使用ノ區域及目的

第三條　艀舟乘組ノ水夫ト爲ラントスルモノハ所轄警察官署ヘ届出鑑札ヲ受クヘシ

第四條　左ノ事項ノ一ニ當ルモノハ前條鑑札ヲ交付セサルモノトス但第一項ヲ除クノ外定員外ノ

水夫トシテ乘組場合ハ此限リニアラス

一　瘋癲及白痴者

一　十五年未滿ノ幼者

一　從來水夫ノ業ニ從事シタルコトナキ者

第五條　舟舟水夫ノ定員ハ長サ四間以上(自舳梁至艫梁)ハ水夫四人同三間以上四間未滿ハ水夫三人同三間未滿ハ水夫二人以上トス但四間以上ノ船ハ乘客定員三分ノ一ヲ減スルトキハ水夫一人三分ノ二ヲ減スルトキハ水夫二人ヲ減シ又三間以上ノ船ハ乘客定員三分一ヲ減スルトキハ水夫一人ヲ減スルコトヲ得

第六條　乘客ノ定員ハ貨物一艘ノ總積量十分ノ三ヲ減シタルモノヲ以テ定度トス

第七條　縱覽人乘載賃ハ營業者ニ於テ之レヲ一定シ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ之レヲ變更シタルトキハ亦同シ

第八條　名義ノ何タルヲ問ハス定額外ノ賃錢ヲ求ムルコトヲ得ス

第九條　客引ニ類似スル所爲ハ之レヲ禁ス乘船切符ノ類ハ乘船場ノ外賣捌クヲ得ス

第十條　廢業シタルトキハ十日以內ニ届出ヘシ又轉居改氏名又ハ鑑札檢査證ヲ亡失シタルトキハ五日以內ニ届出書換又再渡ヲ請フヘシ

第十一條　營業人組合ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受ケ又組合ヲ廢止スルトキハ五日以內ニ届出ヘシ

第十二條　第一條ノ營業ヲナスモノニシテ第二條ノ檢査ヲ受ケス又ハ檢査證使用停止中之レヲ使用シ又ハ第八條第九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス第二條ノ檢査證ヲ釘付セス若クハ乘客定員外ノ客ヲ搭載シ又ハ第三條ニ違犯シ若クハ第五條ノ水夫定員ヲ缺キ又ハ第七條第十一條ノ認可ヲ受ケサル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

◉縣令第六十二號　(明治二十八年十一月十四日)

伊豆漁船及漁船問屋營業取締規則左ノ通相定ム

伊豆漁船及漁船問屋營業取締規則

第一條　本則ハ下田、松崎、戸田、沼津、其他附近ノ港灣ヲ定繫場トナシ乘客又ハ貨物運送ノ目的ヲ以テ其近海ヲ航海スル漁船及漁船問屋營業ニ適用ス

第二條　漁船營業ヲ爲サントスル漁船ノ持主ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳記スルノ外船舶檢査證及船長機關手、運轉手ノ免狀寫ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ差出免許ヲ受クヘシ

一　發着地及寄航場ノ地名

二　航海期日

三　乘客定員及上中下等ノ區別

四　一時間ノ速力

無定期航海ノ瀧船ハ其時々航海日取ヲ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ

第三條　船主ヲ異ニスル瀧船二隻以上同一ノ航路ヲ進航スル目的ヲ以テ同一ノ港灣又ハ寄港場ヲ發航スルトキハ左ノ割合ヲ以テ發航時間ニ間隔ヲ置クヘシ

一　航路五海里未滿ハ三十分間以上

二　同　十海里未滿ハ一時間以上

三　同　十海里以外ハ五海里毎ニ三十分間以上ヲ增スヘシ

港口若クハ河中ニアリテハ干潮ニ際シ前記ノ間隔ヲ置クノ遑ナキ時ハ其港口及河中ニ限リ前記ノ時限ニ拘ハラス發進スルヲ得ト雖モ此場合ニ於テハ後進ノ瀧船ハ前船ヲ距ルコト二百間以上ノ距離ヲ保持シテ進行スヘシ

第四條　同一ノ航路ヲ同一定度ノ速度ヲ有スル瀧船二艘以上同時ニ進行スルトキハ後進船ハ前進船トノ中間三百間以上ノ距離ヲ保持シテ進行スヘシ

若シ後進船前進船ノ速力常用定度ニ滿タス全ク徐行スルモノト認メ之レヲ乘越ヘ先進セントスルトキハ信號ヲ以テ前進船ニ其旨ヲ告知シ双方避讓ノ用意整ヒタル上其位置ヲ前後スヘシ前進船航海中徐行スルノ必要ヲ生シ速力ヲ減セントスルトキモ亦同一ノ手續ヲ以テ其位置ヲ後進船ニ讓ルヘシ

第五條　同一ノ航路ニ於テ進航速度ノ勝レタル瀧船前進船ヲ乘越ヘ先行セントスルトキハ信號ヲ以テ其旨ヲ前進船ニ告知シ双方避讓ノ用意整ヒタル上其位置ヲ前後スルコト第四條第二項ノ如クスベシ

位置ヲ前後セントスル爲メ信號ヲ揚ケントスルトキハ總テ瀧笛ヲ以テ相呼應スヘシ其應答ハ各五秒時以内ノ瀧笛二聲トス

第六條　瀧船ノ甲板ニハ周圍ニ高サ一尺五寸以上ノ扶欄ヲ設ケ客室ニハ見易キ所ニ左ノ事項ヲ掲示スヘシ

一　乘船ノ定員及賃錢

二　瀧關室其他乘客ノ出入スヘカラサル場所但其場所ノ入口ニハ標札ヲ掲クヘシ

三　本則第十條ノ全文

第七條　火藥其他劇發物又ハ六傳染病ノ患者看護者ナキ瘋癲者ハ客船ニ乘載スヘカラス看護者アル瘋癲者乘客ノ厭忌スヘキ疾病者及亂醉者ハ客室ヲ異ニスルニアラサレハ乘載スヘカラス禽畜

ハ客ヲ入ルヘキ室ニ搭載スヘカラス

第八條　乘客疾病ニ罹リタル時ハ懇切ニ介抱スヘシ若シ其病症六種傳染病（虎列刺、腦窒扶斯、發疹窒扶斯、赤痢、痘瘡、實布垤利亞）ノ疑ヒアルトキハ其吐瀉物等相當ノ消毒ヲナシ且他ノ乘客ト離隔スル等臨機適應ノ措置ヲ爲シ置キ發見後最初ノ寄港地及着舩シタル地ノ警察官吏ニ屆出其指揮ヲ受クヘシ但其指揮ヲ遵行シ終ラサル間ハ發舩スルコトヲ得ス各漁舩ニハ前項消毒ノ用ニ充ツル爲メニ豫テ相當ノ消毒藥及消毒器具ヲ備付ケ置クヘシ

第九條　乘客變死スルカ又ハ乘客ノ金錢物品等ノ紛失シタルトキハ覺知後最初ニ着舩シタル地ノ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第十條　乘客ニシテ銃砲ヲ携帶スル者ハ乘舩ノ際之ヲ舩長ニ預クヘシ但軍人ハ此限ニアラス

舩長ハ乘客ヨリ預リタル銃砲ヲ舩內安全ノ場所ニ保管スヘシ

第十一條　警察官吏ハ航海ノ狀況其他主管ニ屬スル事項調査ノ爲メ臨時乘舩スルコトヲ得

第十二條　漁舩ノ發着又ハ寄航スル港灣ニハ漁舩取扱所ヲ設ケ乘客ノ上陸乘舩及貨物ノ揚卸ニ關スル取締ヲナスヘシ

第十三條　乘客ニハ總テ其氏名ヲ記入シタル乘舩切符ヲ交附シ舩長ハ其一半（氏名アル方）ヲ保存スヘシ

第十四條　航海ヲ廢シ又ハ舩長、機關手、運轉手、其他乘組人員ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ屆出スヘシ

第十五條　漁舩問屋營業ヲ爲サントスルモノハ願書ニ住所氏名及屋號營業所ノ地名番號ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ營業所ヲ移轉セントスルトキ亦同シ廢業又ハ營業人死亡シタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ヘ屆出ヘシ

第十六條　漁舩問屋ニ乘客ヲ宿泊セシムルトキハ總テ宿屋營業取締規則ヲ遵守スヘシ

第十七條　强テ客ニ乘舩ヲ勸メ又ハ客引ヲ出スコトヲ得ス又名義ノ何タルニ拘ハラス定額外ノ金錢ヲ求ムルコトヲ得ス

第十八條　乘客ノ運賃額ハ之ヲ一定シ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ屆出認可ヲ受クヘシ增減變更シタルトキモ亦同シ

第十九條　本則ニ依ル願書ハ所轄町村役場ノ檢印ヲ受ケ差出スヘシ

第二十條　第三條第四條第五條第八條ニ違犯シ又ハ過度ノ速力ヲ用ヒテ他舩ト競爭シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス第二條ノ免許ヲ受ケス又ハ第七條ニ違犯シ及第十一條ノ乘舩ヲ拒ミ又ハ第十五條第十七條ニ違犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス第六條ノ掲示ヲ爲サス

又ハ第九條第十條第十三條第十四條第十八條ニ違犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第二十一條　從來ノ營業者ハ明治二十九年一月十五日マテニ總テ本則ノ手續ヲナスヘシ

第十九　漂流物及難破船

◉乙第七十五號　（明治十一年五月十五日）　區長　戶長

漂流物取扱ニ付テハ豫テ一般ノ規則モ有之候處從來沿海傍河ノ人民タル一朝降雨ノ際競テ漂流物ヲ拾取シ私ニ自己ノ所有トナスノ惡習有之開明ノ今日ニ於テモ此弊風ヲ洗滌セス往々法憲ニ觸レ刑科ノ慘苦ヲ嘗ムルノミナラス貴重ノ榮譽ヲ毀損候モノ不尠候處多クハ成法ノ如何ヲ辨知セサルヨリ偶然相犯シ候哉ニ相聞ヘ憫惻ノ事ニ候抑漂流物取扱ニ付テハ明治八年第六十六號ヲ以テ委詳公布有之拾得物ヲ私擅ニ處置候者ハ律ニ照シ處刑セラルヽハ勿論ノ義ニ付以來該公布ノ趣厚ク遵守シ必ス心得違無之樣河海近傍ノ人民ヘ懇切諭示可致此段更ニ相達候事

第二十　外國艦船等

◉警甲訓第五號　（明治三十年九月二十四日）　郡役所　警察官署　町村役場

外國艦艇港灣出入報告心得別紙之通規定相成候條若シ該艦艇出入シタルトキハ直ニ郡長警察署長分署長又以上ノ官吏アラサル地ハ町村長若クハ駐在所巡査訪問使トナリ總テ該報告心得之通リ不都合無之樣取扱其旨警察部ヘ詳報スヘシ但二十八年五月保訓第一號訓令ハ廢止ス

外國艦艇發着報告心得

第一條　帝國港灣（軍港要所在地並澎湖島ヲ除ク）ニ外國軍艦若クハ水雷艇ノ入ルモノアルトキハ所在地方官ハ速ニ訪問使ヲ遣シ艦艇名及去來ノ兩地名ヲ確メ之ヲ海軍大臣及所管鎮守府司令長官（臺灣澎湖島ヲ除ク）ニ在テハ臺灣總督）ニ直接電報シ且ツ海軍省ヨリ配布ノ報告用紙ノ各項ヲ塡記スルノ外仍ホ必要ト認ムル見聞事項ヲ詳記シ前諸官ニ郵報スヘシ

前項ノ艦艇出港スルトキハ又其旨前諸官ニ電報スヘシ

第二條　前條ノ港灣開港場ナルトキハ所在地方官ハ單ニ出入ノ艦艇名ヲ電報スルノミニ止メ其他ハ一切省略スヘシ從テ前條ノ訪問使ヲ出スニ及ハサルモノトス

第三條　第一條ノ港灣ニシテ現ニ帝國軍艦（水雷艇ヲ含マス）碇泊スルトキハ所在地方官ハ第一條及第二條ノ手續ヲ爲スニ及ハス

（報告用紙譯文省略ス）

◉訓令丙第三八六號　（明治三十五年九月二十六日）　郡役所（沿海）

明治三十年九月警甲訓第五號ヲ以テ外國艦艇發着報告心得訓達ノ處爾今右ノ場合ニハ警察署長及分署長ニ於テ直ニ知事名ヲ以テ海軍大臣並ニ横須賀鎮守府司令長官ヘ報告シ若シ其不開港地ナルトキハ該取調諸項ヲ署長ヨリ當廳ヘ報告セシムルコトヽ定メタルニ依リ其所ヨリハ別段大臣及司令長官ヘ報告ニ及ハサル義ト心得ヘシ

右訓令ス

◉保乙第八三九號　（明治三十年十月十二日）　警察署長　分署長

去ル九月四日警甲訓第五號訓令外國艦艇發着報告方第一條ニ依リ發セラルヘキ電報ハ簡約ナラシメン爲メ左ノ諸項ニ從ヒ取扱不苦趣其筋ヨリ通牒有之候間右ニ準據取扱フヘシ

一　艦艇所屬國名ハ記載スルニ及ハス

一　報告ハ勉メテ速ニ發セラルヘキ筈ナルヲ以テ發電時刻ヲ以テ凡ソ出入港ノ時刻ト斷定スヘキカ故ニ電信報告中ニ時刻ノ記入ヲ要セス但シ事故アリ出入港ノ翌日ニ及ヒ發電スルトキハ昨晝又ハ昨夕等ヲ加フヘシ

一　「バーミヤットアゾバ」ヲ單ニ「アゾバ」ニ「プリンスウヰリヘルム」ヲ單ニ「ウヰリヘルム」ニ略スル類ハ差支ナキノミナラス勉メテ用フルコトヽスヘシ

一　入港ノ艦艇ハ其何地ヨリ來着セシヤハ報告スルニ及ハス

一　入港ヲ「着」トシ出港ヲ艦艇ノ行先地名ニ合シ「何地ヘ」トスル總テ差支ナシ但シ行先不明ナルトキハ單ニ「去」ト記ス

一　左ニ例ヲ示ス

（例一）「英國軍艦グラフトン昨夜入港ス」

グラフトンサクヤツク

（例二）魯國軍艦「ドミトリドンスコイ」號出港シ

行先不明獨逸國軍艦カイザー芝罘ヘ向ケ出港セリ

ドンスコイサルカイザーターフーヘ

以上

警察署長　仝分署長

◉內訓第四號　（明治三十五年九月五日）

爾今外國艦艇入出港ノ場合ニハ如事名ヲ以テ直ニ海軍大臣及横須賀鎮守府司令長官ヘ報告シ一面其電文寫ヲ警部長ヘ即報シ若シ不開港地ナルトキハ兼テ配布セシ取調諸項ヲ速ニ報告スヘシ

右内訓ス

第二十一　質屋及古物商

◉縣令第四十九號　（明治二十八年八月二十三日）

質屋取締法及質屋取締法細則施行規則左ノ通相定ム

質屋取締法及質屋取締細則施行規則

第一條　質屋取締細則第一條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ所轄警察署長分署長ニ委任ス但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限リニアラス

第二條　質屋營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄警察官署ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ

一　族籍住所氏名年齡

二　他管下ヨリ移住シタル者ハ前住地及現住地ニ移轉シタル年月又族籍氏名ヲ變更シタル者ハ其舊族籍又ハ舊氏名

但住所ヲ移轉シ族籍氏名ヲ變更スルコト再三ニ及フ者ニシテ必要ヲ認メタルトキハ本人ノ寫眞ヲ出サシムルコトアルヘシ

營業者死亡シ相續人繼續シテ營業セントスルトキハ死亡届ト同時ニ營業願ヲ差出シ免許ヲ受クヘシ

營業上ノ都合ニ依リ代理人ヲ使用セントスルトキハ其者ノ住所氏名年齡ヲ記載シテ届出ツヘシ

本條第一項第一第二ノ規定ハ代理人、後見人及支店管理人届ニモ適用ス

第三條　質屋ノ帳簿ハ質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫帳ノ三種トシ其書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

質物臺帳書式

明治何年何月何日　　住所

第何號　　氏名

一　何色何々紋付男小袖

一　何色何々女小袖

一　何々

〆何品

貸金何圓

受出シ流質ハ朱書ニテ左ノ如ク記入スヘシ

明治何年何月何日受出シ又ハ流質（若シ流質ノ後自用ニ供シタルトキハ其旨ヲ記載スルモノトス）

證人ヲ要シタルトキハ其住所氏名ヲ記シ警察官吏ノ認可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ記スベシ質札通帳モ亦同シ

前書式ハ其一班ヲ示シタルモノニ付其質物ニ依リ種類大小色合地質、生産地ノ分明ナルモノハ其生産地名、番號アルモノハ番號、金具其他ノ屬具アルモノハ其金具及屬具、筆者アルモノ（書畫ノ如キ）ハ筆者ノ名號、破損又ハ幾部ノ手入アルモノハ其破損又ハ幾部ノ手入アルコト等ヲ詳記スヘシ

流質物賣拂帳書式

明治何年何月何日第何號又ハ第何號ノ内一又ハ二又ハ一二三（以下倣之其第何號ノ内一二ハ初筆ノ分ヨリ順次附數ス）

一　何々々品

一　何々々品

一　何々

此賣拂帳ニハ買主ノ住所氏名、賣却ノ年月日ヲ詳細記載スヘシ

品觸寫帳書式

明治何年何月何日觸出シ何月何日到達

一　何々

一　何々

品觸寫帳ニハ總テ品觸書ニ記載アル儘ヲ增減スルコトナク謄寫スヘシ

第四條　質札通帳ノ製方及書式ヲ定ムルコト左ノ如シ但番號ハ質物臺帳ノ番號ヲ記載スルモノトス

質札製方

切紙但寸法適宜

同　書式

明治何年何月何日質入

一　何々（總テ質物臺帳ト同一ニ書ス）

一　何々

〆何品

貸金何圓

住所

營業者又ハ管理人　氏　名　㊞

住所

何ノ某殿

質物通帳

製方横帳

同　書式

明治何年何月何日質入

第何號

一　何々（總テ質物臺帳ト同一ニ書ス）

一　何々

〆何品

貸金何圓

通帳ノ表紙ニハ營業者又ハ管理人記名捺印スヘシ

第五條　質物臺帳、流質物賣拂帳、品劃寫帳ハ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　質屋營業者ハ警察官署ノ所轄内ヲ以テ一組合ヲ作リ取締人一名副取締人一名乃至數名ヲ公撰シテ届出テ所轄警察官署長又ハ分署長ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　取締人副取締人ノ任期ハ滿四年トス但滿期ノ後再撰スルモ妨ケナシ

第八條　取締事務所ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ヘ届出テ左ノ標札ヲ掲クヘシ

木質寸法適宜

何郡市質屋營業組合事務所

數郡又ハ郡市ヲ併セ一組合ヲナスモノハ其郡市名ヲ併記シ一郡中數組合アルモノハ郡ノ下ヘ某組合ト其地名ヲ冠スヘシ

第九條　質屋營業者ハ利子ノ割合、流質期限、質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方、質物出入時間等ヲ定メ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキモ亦同シ但組合ニ於テ之ヲ定メタルトキハ取締人ヨリ届出ツヘシ

第十條　前條營業者ノ定メハ質札及通帳ニ於テ便宜ノ箇所ニ記載スヘシ

第十一條　質屋營業者ハ一定ノ帳簿ヲ製シ質札又ハ通帳ヲ渡シタル者ノ住所氏名ヲ記載シ置キ警察官吏ノ求メアリタルトキハ其檢閲ニ應スヘシ

第十二條　質屋營業者ハ流質物ヲ市場ニ出シテ販賣シ又ハ店頭ニ陳列シ若クハ賣シ又ハ廣告シテ購買者ヲ募リ或ハ行商セントスルトキハ古物商營業ノ免許ヲ受クヘシ

第十三條　第三條第四條ノ書式ヲ遵守セス又ハ第五條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十四條　質屋取締條例ニ依リ許可ヲ受ケ現ニ營業中ノ者引續キ營業セントスルトキハ質屋取締法施行ノ日マテニ本則第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　前條ノ營業者ニ於テ現ニ使用中ノ帳簿質札通帳ハ質屋取締法及質屋取締法細則並ニ此規則ニ抵觸セサルモノハ其儘使用スルヲ得

第十六條　質屋營業者ノ願屆等ハ取締人連署ノ上市ニ在リテハ市役所町村ニ在リテハ其町村役場ノ檢印ヲ受ケ差出スヘシ

◉縣令第五十號　（明治二十八年八月二十三日）

古物商取締法及古物商取締法細則施行規則左ノ通リ相定ム

古物商取締法及古物商取締法細則施行規則

第一條　古物商取締法細則第一條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ所轄警察署長分署長ニ委任ス

但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限リニアラス

第二條　古物商營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ物品ノ種類ヲ記載スルノ外左ノ事項ヲ記シ所轄警察官署ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ物品ノ種類ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　族籍住所氏名年齡

一　他管下ヨリ移住シタル者ハ前住地及現住地ニ移轉シタル年月又族籍氏名ヲ變更シタル者ハ其舊族籍又ハ舊氏名

但住居ヲ移轉シ族籍氏名ヲ變更スルコト再三ニ及フ者ニシテ必要ヲ認メタルトキハ本人ノ寫眞ヲ出サシムルコトアルヘシ

營業者死亡シ相續人繼續シテ營業セントスルトキハ死亡屆ト同時ニ營業願ヲ差出シ免許ヲ受クヘシ

營業上ノ都合ニ依リ代理人ヲ使用セントスルトキハ其者ノ住所氏名年齡ヲ記載シテ屆出ヘシ

本條第一項第一第二ノ規定ハ代理人後見人及管理人屆ニモ適用ス

第三條　物品ノ種類ハ左ノ名稱ニ依リ之レヲ記載スヘシ

古着　古道具　古本　古書畫　古銅鐵　潰金銀

古物商取締法細則第二條ニ該當スル營業者ハ亦本條ノ例ニ依リ同條ニ列記スル種類ノ名稱ヲ記

載スヘシ

第四條　左ノ營業ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルトキハ古物商取締法古物商取締法細則及此ノ規則ヲ遵守スヘシ

・箔打商　煙管商　鍛冶商　鑄銅鐵商

第五條　古物商ノ帳簿ハ物品買受讓受明細帳物品賣渡讓渡明細帳物品預リ帳及品觸寫帳ノ四種トシ其書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

物品買受讓受明細帳書式

明治何年何月何日　　住所

第何號　　氏名

一　何色何品紋付男小袖

一　何色何々女小袖

一　何々

〃何品

此代金何圓何拾錢

若シ物品交換ニ係ルトキハ物品賣渡讓渡明細帳何年何月何日第何號ノ物品ト交換スト書シ過

不足ヲ金員ニテ取引シタルトキハ其金高ヲ記スヘシ

證人ヲ要シタルトキハ其住所氏名ヲ記シ警察官吏ノ認可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ記スヘシ

前書式ハ其一班ヲ示シタルモノニ付其物品ニ依リ種類大小色合地質、生産地名ノ分明ナルモノハ其生産地名、番號アルモノハ番號、金具其他ノ屬具アルモノハ其金具及屬具、筆者アルモノハ（書畫ノ如キ）其筆者ノ名號、破損又ハ幾部ノ手入アルモノハ其破損又ハ幾部ノ手入アルコト等ヲ詳記スヘシ

物品賣渡讓渡明細帳書式

明治何年何月何日第何號又ハ第何號ノ内一又ハ二又ハ一二三（以下倣之又其第何號ノ内一二トハ初筆ノ分ヨリ順次附數ス）　　住所氏名

一　何々品

一　何々品

一　何々

此代金何圓何拾錢

若シ物品交換ニ係ルトキハ物品買受讓受明細帳何年何月何日第何號ノ物品ト交換スト書シ過

不足ヲ金員ニテ取引シタルトキハ其金高ヲ記スヘシ

物品預リ帳書式

明治何年何月何日何縣何郡(市)何町村大字何々番地何某ヨリ預リ

一　何々品

一　何々品

一　何々

〆何品

種類大小色合地質生産地番號筆者金具屬具其他破損又ハ手入等アルモノハ總テ物品買受讓受明細帳ト同一ニ詳記スヘシ

若シ物品ヲ返還シタルトキハ朱書ニテ左ノ如ク書スヘシ

明治何年何月何日本人又ハ其使某ナル者ニ返還ス

品觸寫帳書式

明治何年何月何日觸出シ何月何日到達

一　何々

一　何々

品觸寫帳ニハ總テ品觸書ニ記載アル儘ヲ增減スルコトナク謄寫スヘシ

第六條　前條ノ諸帳簿ハ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第七條　店舗又ハ營業所ヲ有セス單ニ行商ノミヲ爲ス者(家族又ハ同居雇人ノ行商ヲ除ク)ハ不在中營業ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ留守引受人ヲ定メ届出ツヘシ

留守引受人ニハ營業者在宅中ト雖トモ其願届ニ連署セシムヘシ(三十二年縣令第五十四號ヲ以テ第七條ヲ削除シ本條以下繰上改正)

第八條　古物商ニシテ露店ヲ出ス者及行商スル者ハ左ノ雛形ニ依リ鑑札ヲ調製シ所轄警察官署ヘ差出シ營業ノ種類住所氏名番號等ノ記入及烙印ヲ受クヘシ

若シ紛失遺失盜難又ハ毀損シ若シクハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以內ニ前項ノ手續ヲ以テ書換又ハ再記入ヲ受クヘシ

長サ七寸

横三寸

第何號

何々商露店營業

住所

氏

名

警察官署烙印

裏　明治何年何月何日

警察官署烙印

長一寸八分

横一寸三分

第何號

○何々行商

住所

氏名

裏　同斷

第九條　古物商市場ニハ看板ヲ掲クヘシ其寸法書式左ノ如シ

長二尺八寸

幅七寸

何々市場

警察官署ノ烙印

第十條　露店營業ノ鑑札ハ店頭見易キ所ニ出シ置クヘシ

第十一條　古物商營業者ハ其警察官署ノ所轄内ヲ以テ一組合ヲ作リ取締人一名副取締人一名乃至數名ヲ公撰シテ屆出テ所轄警察署長又ハ分署長ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　取締人副取締人ノ任期ハ滿四年トス但滿期ノ後再撰スルモ妨ケナシ

第十三條　取締事務所ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ヘ屆出テ左ノ標札ヲ掲クヘシ

木質寸法適宜

何郡市古物商營業組合事務所

數郡又ハ郡市ヲ併セ一組合ヲナスモノハ其郡市ヲ併記シ一郡中數組合アルモノハ郡ノ下ヘ某組合ト其地名ヲ冠スヘシ

第十四條　第五條ノ書式ヲ遵守セス又ハ第六條第七條第八條第九條第十一條ニ違犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十五條　古物商取締條例ニ依リ許可ヲ受ケ現ニ營業中ノ者引續キ營業セントスルトキハ古物商取締法實施ノ日マテニ本則第二條ノ手續ヲナスヘシ

第十六條　前條ノ營業者現ニ使用中ノ帳簿ハ其用紙ノ存在スル限リ其儘使用スルヲ得

第十七條　古物商營業者ノ願屆等ハ取締人連署ノ上市ニ在リテハ市役所、町村ニ在リテハ其町村役場ノ檢印ヲ受ケ差出スヘシ

第二十二　印判

◉甲第七十二號　（明治十六年八月十日）

印判取締規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

（別紙）　印判取締規則

第一條　印判彫刻ノ業ヲ營ムモノハ其住所氏名ヲ所屬警察署又ハ分署ヘ屆出ツ可シ

但住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業ノ節ハ其旨屆出可シ

第二條　官廳外ヨリ官印ノ彫刻ヲ乞フモノアルトキハ其者ノ住所氏名ヲ聞取リ該官廳ヘ伺出指揮

ヲ受クヘシ

第三條　權利義務ニ關シ證憑トナルヘキ印章ノ彫刻ヲ乞フ者アルトキハ其年月日及依囑者ノ住所氏名ヲ帳記シ竣工ノ上ハ印譜ニ印形ヲ存シ且依囑者ヘ渡シタル年月日ヲ記載シ置クヘシ

但本文ノ簿冊ハ廢業後ト雖トモ最終記載ノ日ヨリ滿十ケ年間保存シ置ク可シ

第四條　磨滅欠損等ニテ舊印ノ如ク彫刻ヲ乞フカ若クハ控印ヲ注文スル者アルトキハ必ス後證ニナルヘキ爲メ字畫又ハ邊緣ノ內幾分ヲ變更シ置ク可シ

第五條　印面上半又ハ下半或ハ左右半面ノ類總テ印面ノ全躰ヲ欠キタル印章ノ彫刻ヲ乞フ者アルトキハ所屬警察署分署若クハ派出所交番所又ハ巡行ノ警察官吏ヘ密告スヘシ（明治二十年縣令第七十四號ヲ以テ第五條以下改正）

第六條　第一條第三條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七條　第二條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第二十三　渡航及移住

◉告示第四十二號　（明治二十四年八月二十六日）

自今海外旅券下付證明願ハ市ニ在リテハ市役所ヲ經町村ニ在リテハ其町村役場及郡役所ヲ經テ差出スヘシ

◉　（明治二十七年十二月十日）　郡役所　市役所　町村役場

海外渡航旅券下付願取扱手續自今左ノ通リ心得ヘシ

但從前施行ノ手續ニシテ本達ニ抵觸スルモノハ消滅スルモノトス

海外渡航旅券下附願取扱手續

第一條　海外ヘ渡航セントスル者ハ其目的ヲ明記シ書式第一號（分働目的ノ者ハ第一號書式其二ニ依ラシムルモノトス）及第二號ノ願書ヲ當廳ヘ差出スヘキモノトス但別ニ書式ヲ示サヽル件ニ付テハ適宜調成セシムヘシ（三十三年甲第四號ヲ以テ割註改正）

第二條　願書（第一號書式）本人ノ姓名ヘハ必ス傍訓ヲ付セシムヘシ

第三條　本人非戶主ナル時ハ戶主本人戶主ナルモ未丁年ナル時ハ後見人並ニ親戚ノ連署ヲ要ス

第四條　願書ヘ戶籍寫ヲ添フヘシ

第五條　旅券ハ當廳ヨリ順次郡市役所町村役場ヲ經由シテ下付シ市役所又ハ町村役場ニ於テハ手數料ニ充ツル金五拾錢ノ登記印紙ヲ貼用消印シタル書式第四號ノ請書ト引換ニ之ヲ交付シ該請書ヲ市役所ハ直ニ町村役場ハ郡役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ但時宜ニ依リ本人ヘ直接交付スル

コトアルヘシ（三十三年甲第四號ヲ以テ俱書追加）

第六條　勞働目的ノ者ハ直接國稅五圓以上ヲ納ムル者二人以上勞働ニ非ラサル者ハ一人以上ノ身元引受人ヲ要ス（三十三年甲第四號ヲ以テ改正）

第七條　身元引受人ハ本縣原籍者ニシテ現住ノ者ニ限ルヘシ

第八條　身元引受人ハ渡航者ニ關スル諸費ノ負擔ハ勿論其渡航中該家族ニ於テ飢餓ニ迫ルトキハ之カ救助ノ責ニ當ルモノトス

第九條　身元引受人ニハ書式第三號ノ身元引受證ヲ出サシムヘシ

第十條　身元引受人ハ渡航者一名ノ外ハ引受ヲ許サスト雖モ其引受人ノ資産ニヨリテハ特ニ三名迄ノ引受ヲ許スコトアルヘシ（三十三年甲第四號ヲ以テ改正）

第十一條　（仝上削除）

第十二條　旅券下附願ニ關スル特達ニシテ本達ニ抵觸セサルモノハ該達ニ依ルヘシ（三十三年甲第四號ヲ以テ本號及四號中改正）

（書式第一號）　其一

旅券下付願

私儀何々ノ爲何國何地ヘ渡航（往來）致度ニ付旅券御渡方奉願候也

何府縣何郡（市）町（村）番地族籍職業戸主（雛子弟等）

年　月　日

（寄留ノ者ハ靜岡縣郡（市）町（村）番地寄留ト列記スヘシ以下同之）

姓　名　印

何年何月何日生

靜岡縣知事宛

右之通相違無之候也

年　月　日

市町（村）長　姓　名　印

（書式第一號）　其二（三十三年甲第四號ヲ以テ追加）

渡航許可並旅券下付願

私義何々ノ爲メ何國何地ヘ渡航致度ニ付渡航御許可ノ上旅券御渡方奉願候也

縣郡（市）町（村）番地族籍職業戸主（雛子弟等）

姓　名　印

何年何月何日生

年　月　日

縣郡（市）町（村）番地族籍職業

身元引受人　姓　名　印

縣郡（市）町（村）番地族籍職業

同　姓　名　印

靜岡縣知事宛

右之通リ相違無之候也

年　月　日

市町（村）長　姓　名　印

（書式第二號）

證明願

私義何々ノ目的ヲ以テ何國何地ヘ渡航ノ爲海外旅券下付願差出候ニ付御證明被下度左記各項ヲ具シ（戸主連署）（戸主及身元引受人連署）（身元引受證書相添身元引受人連署）（身元引受證書相添戸主及身元引受人連署）此段奉願候也

一　本人ノ財産　何　圓

但地價何圓、家屋見積代價何圓、船舶見積代價何圓、公債證書額面何圓、其他不動産何圓、合計何圓、所得稅何圓納付

二　願人非戸主ニシテ戸主又ハ仝戸籍内父兄等ノ引受補助ニ依リ渡航セントスルモノハ其補助者ノ財産ヲ爰ニ記セシムヘシ

但仝前

三　滯在年限　何年間

但何年間何地滯在何年間何國旅行

四　費用　何　圓

但本邦何港ヨリ何國何地迄旅費何圓滯在費何圓非常豫備費何圓

五　徵兵關係

但何年國民軍、豫備、後備等編入（免除又ハ猶豫等ヲ記入スヘシ）

六　犯罪

但重罪及破廉恥罪又ハ禁錮一ヶ年以上ノ刑ヲ受ケタルコトナク賭博犯罪ヲ受ケシコトナシ

年　月　日

何府縣何郡（市）町（村）番地族籍職業戸主（誰子弟等）

本　人　姓　名　印

仝府縣仝郡（市）町（村）番地族籍職業

戸　主　姓　名　印

靜岡縣何郡（市）町（村）番地族籍職業

身元引受人　姓　名　印

仝　前　仝　姓　名　印

靜岡縣知事宛

本願（及添付書）ニ記載事項ノ正確ナルコトヲ證明ス

年　月　日　市町村長　姓　名　印

本願ノ調査ヲ遂ケ確實ナルヲ證明ス

郡　長　姓　名　印

（書式第三號）（三十三年甲第四號ヲ以テ奥書改正）

身元引受證

登錄印紙

一　地租何圓又ハ所得稅何圓

今般何郡（市）町（村）某何國何地ヘ渡航御許可ノ上ハ本人（及在鄉家族）ニ關シ如何ナル儀出來候共私引受支辨致シ御救助ヲ仰キ候等ノ儀決シテ爲致間敷且本人身元ニ付テハ渾テ御命令ニ相背キ申間敷依テ身元引受證書如斯候也

年　月　日　　静岡縣何郡（市）町（村）番地族籍職業
静岡縣知事宛　　身元引受人　姓　名　印

右取調候處事實申立ノ通相違無之且本人ヲ併セ三人以下ノ引受人ニ有之候此段證明候也

年　月　日　　市町（村）長　姓　名　印

右調査候處相違無之候也

郡　長　姓　名　印

（書式第四號）

五拾錢登記印紙

海外旅券領收證

何號何年月日付

一　何國渡航旅券　一　葉

右正ニ領收致候也

年　月　日　　何府縣何郡（市）町（村）番地族籍職業戸主（誰子弟等）
静岡縣知事宛　　姓　名　印

◉告示第十六號　（明治二十三年三月二十日）

海外渡航セシ者歸朝ノ節ハ本人又ハ戸主ヨリ死亡者ハ市町村長ヨリ直ニ届出ヘシ

◉告示第三十七號　（明治二十五年六月二十六日）

北米合衆國ニ於テハ千八百八十五年二月二十六日外國人契約勞働者移住禁止條例ナル者ヲ發布シ右ニ違犯ノ徒ハ何國人ニ不拘上陸拒絶ノ制規ニ候處昨二十四年三月十三日ニ至リ該條例ノ追加ヲ制定シ契約勞働者ノ移住禁止ヲ一層嚴重實施及ヒタル義ハ既ニ仝年六月十六日仝二十九日官報外報欄内ニ掲載相成候得共右ヲ心得サルニヤ往々上陸拒絶セラレ空シク歸國シタルモノ有之然ルモ猶近來渡航者ノ數多キヲ加フルニ付該國ニ於テハ猶一段嚴密ナル檢査ヲ施行シ違犯者ヲ送還セントスルノ狀況有之趣ニ候右ハ畢竟渡米者カ該條例ヲ熟知セサルニ基因スルモノニシテ其弊ヤ單ニ自身カ上陸ヲ拒マルヽノ不幸ニ陷リ進退窮スル而已ナラス終ニハ我カ帝國ノ名譽ヲモ毀傷スルノ

虞ナシトモ云ヒ難シ就テハ今後渡米セント欲スル者ハ該條例ノ要項タル白痴瘋癲及ヒ貧困者若クハ公共ノ扶助ヲ受クルノ虞アル者嫌惡スヘキ疾病又ハ危險ナル傳染病者重罪又ハ破廉恥罪ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ始メ直接又ハ間接ニ契約ヲ結ヒ一定ノ給料又ハ就役ノ場所ヲ定メ又ハ豫約ヲ爲シ書面或ハ口頭ノ勸誘ニ依リ渡米シタル者ハ上陸ヲ拒絶セラルヽコト可有之候條前述ノ主意ヲ熟知シ漠然渡航ヲ企テ一身ノ不幸ハ勿論我國躰ニモ關係ヲ來タスカ如キ不都合ヲ生セサル樣致スヘシ

◉告示第六十五號　（明治三十一年五月十九日）

移民保護法ニ關スル願書等ハ自今所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

◉告示第五十七號　（明治二十九年八月二十二日）

露國所領地內ヘ渡行スル本邦人ハ凡テ在本邦同國領事館ニ就キ自己ノ旅券ニ査證ヲ受クヘキ制規ニ候處往々其手續ヲ怠リ候者有之候趣就テハ來ル千八百九十七年一月一日以降ヨリ右ノ手續ヲ履行セサルモノハ薩哈島漁業場ニ雇ハルヽ職工ヲ除クノ外凡テ同領內ヘ入ルコトヲ許サヽル旨本邦駐劄同國臨時代理公使ヨリ外務省ヘ通知アリタリ

◉告示第百三號　（明治三十五年五月二日）

米領布哇行自由移民（勞働契約ニ因ラサルモノ）ハ現ニ全國ニ業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシムル移民取扱人ニ依ルニアラサレハ渡航ヲ許可セス

但該地ニ勞働セル移民ノ家族ニシテ其下ニ赴ントスルモノニ付テハ許可スルコトアルヘシ

◉告示第百五十七號　（明治三十三年八月十日）

北米合衆國及英領加奈陀行移民ハ當分ノ內一切其渡航ヲ差止ム

但北米合衆國行移民ニシテ同國帝國領事又ハ帝國領事分館主任ノ英領加拿陀行移民ニシテ在晩香坡帝國領事ノ發給セル在留證明書ヲ有スル者及其妻子ニ限リ其渡航ヲ許可スルコトアルヘシ（三十五年告示第百四十六號追加）

◉告示第五十八號　（明治三十年六月四日）

北海道國有未開地處分法施行規程左ノ通リ相定メタル旨北海道廳ヨリ通知アリタリ

北海道國有未開地處分法施行規程

第一條　處分法第三條ニ依リ貸付スヘキ土地ハ區畫ヲ施設シ告示スヘシ

前項區畫外ノ土地ト雖モ特ニ區域ヲ指定シテ貸付スルコトアルヘシ

第二條　左ニ掲記シタル土地ハ前條ニ拘ラス貸付スルコトアルヘシ

一　宅地又ハ牧畜ニ供セントスル土地

二　沿海ノ土地

三　接續地主ニ於テ要スヘキ土地

第三條　處分法第三條ニ依リ土地ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ起業方法書圖面及戸籍證明書ヲ添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ

但シ財産調書ヲ徵スルコトアルヘシ

第四條　處分法第四條第六條第七條第八條ニ依リ土地ノ賣拂付與貸付若クハ交換ヲ受ントスルトキハ第二號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第五條　處分法第十五條ノ許可ヲ得ントスルトキハ當事者連署ノ上願書ヲ北海道廳長官ニ差出ヘシ

第六條　貸付中ノ土地ヲ返還セントスルトキハ第三號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ

但シ着手以前ニ於テ全地ノ返還ヲ爲サントスルトキハ届出ヘシ

第七條　土地ノ貸付ヲ受ケタル者ニシテ死亡又ハ失踪シタルトキハ其家督相續者若クハ管理者ヨリ戸籍證明書ヲ添ヘ北海道廳長官ニ届出ヘシ

第八條　處分法第三條ニ依リ貸付シタル土地ノ付與ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ北海道廳長官ニ差出スヘシ

但シ區劃地ニシテ異動ヲ生セサルモノハ圖面ヲ要セス

第九條　處分法第三條第三項ニ依リ付與スル場合ハ左ノ標準ニ依ル

貸付地三萬坪未滿	一回	
同　十萬坪未滿	二回	
同　十萬坪以上	三回	

第十條　處分法第三條ニ依ル貸付地ノ貸付期間ハ左ノ標準ニ依ル

五千坪未滿	三年以内
一萬五千坪未滿	五年以内
三萬坪未滿	六年以内
六萬坪未滿	八年以内
十萬坪未滿	九年以内
十萬坪以上	十年以内

處分法第九條第二項ニ依リ特別ノ期間ヲ以テ貸付スルノ必要アリト認ムル場合ハ前項ノ限ニアラス

第十一條　開墾ヲ目的トスル貸付地ニ於テ風防風致又ハ薪炭用等トシテ其地積ノ十分一以内ヲ存置スルコトヲ得

第十二條　處分法第五條ニ依リ競爭賣拂ヲ爲ントスルトキハ少クトモ十五日以前ヨリ公告ヲ爲スヘシ

第十三條　土地ノ賣拂付與貸付交換ノ處分其他其土地調査ニ關シ現場ニ當事者ノ立會ヲ要スル爲當該官吏ヨリ通知ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ立會スヘシ

第十四條　土地ノ賣拂付與貸付交換ヲ受クントスル者ニシテ前條ノ通知ヲ受タルトキハ立會前ニ於テ其土地ノ境界ニ假標ヲ建設スヘシ

但第一條ニ依ル區畫地ハ此限ニアラス

處分法第十條ニ依リ點檢ノ際ハ其成功區域ニ標木ヲ建設スヘシ

前二項ノ標木ハ其土地ノ賣拂付與貸付交換ノ處分ヲ了ル迄存置スヘシ

第十五條　土地ノ賣拂付與貸付交換ノ許可ヲ受タル者ハ許可書受領ノ日ヨリ三十日以内ニ第五號樣式ニ依リ土地ノ境界ニ標木ヲ建設スヘシ

積雪ノ爲前項ノ期間内ニ標木ヲ建設スルコト能ハサルトキハ期間ヲ定メ願出許可ヲ受ヘシ

第十六條　前條ノ標木ハ左ノ期間内存置シ毀損亡失シタルトキハ更ニ建設スヘシ

一　貸付地ハ貸付期間内

二　賣拂付與交換地ハ十箇年

第十七條　土地ノ賣拂付與貸付交換其他ノ處分ニ際シ隣接地ノ境界調査ヲ要スル爲當該官吏ヨリ隣接地ノ所有者又ハ借地人ニ現場立會ノ通知ヲ爲シタルトキハ其所有者又ハ借地人ハ之ニ立會スヘシ

第十八條　第十三條第十七條ノ場合ニ於テ立會ヲナサヽル爲メ生スル損害ハ官廳ニ於テ其責ニ任セス

第十九條　處分法第十條第一項ニ依リ貸付地ヲ返還セシムル場合ニ於テ主タル事業ヲ成功セスシテ之ニ附隨スル道路堤塘濠渠建造物等ノミヲ設營シ又ハ其地點檢後ニ於テ成功シタル土地ハ未成功トシテ之ヲ處分ス

第二十條　處分法第三條ニ依ル貸付地ニシテ當初點檢ヲ爲シタルモノト雖モ其地付與ニ際シ荒廢ニ屬シタルトキハ其部分ハ未成功トシテ之ヲ處分ス

第二十一條　處分法ニ於ケル貸付其他ノ期間起算方ハ左ノ如シ

一　處分法第三條ニ依ル貸付地ノ期間ハ許可ノ翌年ヨリ起算ス

二　處分法第四條及第七條ニ依ル貸付地ノ期間ハ許可ノ翌月ヨリ起算ス

三　處分法第十三條ノ期間ハ賣拂付與貸付ノ處分ヲ爲シタル翌日ヨリ起算ス

第二十二條　處分法第三條ニ依ル貸付地ノ成功程度ハ一年ヲ以テ一期トシテ配當スルモノトス但

シ特ニ其期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第二十三條　左ノ場合ニハ其出願ヲ無効トス

一　土地ノ賣拂付與貸付交換ノ處分ニ際シ第十三條第十四條第一項ニ違背シタルトキ

二　土地ノ賣拂付與貸付交換ニ際シ本人若クハ代人ノ所在不詳ニシテ六十日ヲ過ルモ尚ホ許可書ヲ下付スルニ由ナキトキ

三　願書ノ訂正ヲ命シタル後六十日ヲ過ルモ訂正願書ヲ差出サヽルトキ

第二十四條　第三條第一號書式ノ願書ニ既ニ貸付ヲ受タル土地ヲ掲記セスシテ貸付ノ許可ヲ得タルモノアルトキハ其許可ノ處分ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條　土地ノ賣拂付與貸付交換出願ノ者若クハ土地ノ貸付ヲ受タル者ニシテ地元區役所若クハ戸長役場部内ニ居住セサルトキハ其部内ノ居住者ヲ以テ代人ニ定メ所屬郡區役所若クハ殖民部課派出所ニ屆出ヘシ

第二十六條　處分法第十條第十一條ニ依リ土地ノ返還ヲ命シ又ハ同法第十二條ニ依リ賣拂付與貸付ノ取消ヲ爲シタルトキ本人若クハ代人ノ所在不詳ニシテ六十日ヲ過ルモ尚ホ命令書ヲ下付スルニ由ナキ者ハ其返還又ハ取消ヲ命シ了リタルモノトス

第二十七條　貸付地ノ貸付期間ハ其目的及方法ノ變更ヲ爲ス場合ト雖モ伸長スルコトヲ得ス

但シ其貸付期間第十條ノ標準迄ニ達セサル者ニ限リ特ニ其標準迄伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十八條　處分法第十一條ノ評定價格及同法第十三條ノ樹木代價ハ北海道廳長官又ハ所轄郡區長ノ撰定シタル評價委員ノ評定ニ依ル

同法第十一條ノ直接費用ヲ辨償スルニ際シ本人ノ申立ヲ不當ト認ムルトキハ前項評價委員ノ評定ニ依ル

第二十九條　處分法第十五條第三ニ依リ擔保又ハ賣買讓與スルヲ得ル場合ハ左ノ如シ

一　相續又ハ分家シタルトキ

二　天災其他避クヘカラル原因ニ基ク故障アルトキ

三　轉居轉業又ハ疾病ニ依リ當初ノ目的ヲ達シ難キトキ

四　貸付期間内全地成功シタルトキ

第三十條　本則ニ依ル願屆ハ出願地所屬ノ郡區役所若クハ殖民部殖民課派出所ヲ經由差出スヘシ

但シ特別ノ規定ヲ爲シタルトキハ此限ニアラス

第三十一條　左ニ掲ル事項ニ該當スル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一　土地ノ賣拂付與貸付交換ヲ受タル者ニシテ第十三條ニ違背シタル者
二　第十四條第二項第十五條第十六條第十七條ニ違背シタル者
三　第十四條第十五條ノ標木ヲ移轉又ハ撤去毀損シタル者若クハ境界ヲ變更シテ其標木ヲ建設シタル者

（書式略ス）

◉告示第四十八號　（明治三十年五月三十日）

北海道國有未開地處分法第三條ニ依リ土地貸付ヲ受ケントスル者ニシテ府縣知事ノ證明ヲ得タル者ニ對シ特ニ左ノ取扱ヲ爲スコトアルヘキ旨北海道廳ヨリ通知アリタリ

一　他ノ出願者ニ先タチ土地ノ貸付ヲ爲ス事

但シ同一ノ者二人以上アルトキハ出願ノ先後ニ依ル

二　二十戸以上團結シテ三年以内ヲ以テ移住セントスル者ハ其移住ヲ完了スル迄未移住者ニ貸付地ヲ豫定存置スル事

但シ豫定存置期間二年ナルトキハ初年ニ總戸數ノ二分一以上三年ナルトキハ初二年ニ總戸數ノ三分一以上宛移住スル者ニ限ル

三　二十萬坪以上ヲ以テ自作農ヲ爲ス者ハ前號ノ移住者若クハ前號ト同一ノ配當ヲ以テ二十戸以上ノ小作人ヲ移住セシメントスルモノハ貸付停止中ノ土地ト雖モ貸付地ヲ豫定存置スル事

四　二號三號ノ移住期限又ハ二十萬坪以上ヲ以テ自作農ヲ爲ス者ノ起業方法ハ特ニ變更セシムルコトアルヘシ

◉告示第六十四號　（明治三十一年五月十日）

北海道移住民ニシテ北海道内ノ一港ニ上陸後二ケ月以内ニ於テ更ニ移住目的地ニ到ラントスル者ノ爲メ北海道廳ニ於テハ本年二月内務省告示第九號第二條ニ掲クル濫船ノ外全管下ノ船主ト特約ヲ爲シ全廳又ハ支廳ハ右目的地ニ到ル者ニ對シテ該濫船賃割引券ヲ下附ス

第三章　違警罪

◉縣令第七十一號　（明治三十一年十二月二十八日）

明治二十年九月縣令第七十五號本縣違警罪左ノ通リ改正ス

違警罪

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 紙幣ニ紛ラハシキ印刷物ヲ所持シタル者
二 水火震災其他ノ事變ニ際シ當該官吏ノ制止ヲ肯ンセス防禦又ハ救護ノ妨害ヲ爲シタル者
三 御獵場ニ於テ狩獵法第一條規定外ノ方法ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲シタル者（三十五年縣令第四十二號ヲ以テ追加シ以下條下）
四 中毒ノ方法ヲ用ヒ禽獸ヲ捕フル者（三十二年縣令第四十八號改正）
五 卑猥ノ繪畫及狂句等ヲ記シタル軒燈ヲ掲ケタル者
六 興行場其他群集ノ場所ニ於テ制止ヲ肯ンセス喧噪シ又ハ卑猥ノ言語形容ヲ爲シタル者
七 路上其他ノ場所ニ於テ人ニ悪戯ヲ爲シタル者
八 祭祀其他ノ儀式ニ妨害ヲ爲シタル者
九 電線ニ障害ノ虞アル場所ニ於テ紙鳶ヲ揚ケタル者
十 生河豚又ハ病死ノ鳥獸肉ヲ食料ニ販賣若クハ授與シタル者
十一 私ニ堤塘河岸寄洲河原地ヲ使用シ又ハ其土石ヲ堀取リ若クハ草木ヲ採取シタル者
十二 濫リニ河川汐除ノ堤腹護岸水制蛇籠ニ上リ又ハ妨害ヲ爲シタル者
十三 測量ニ關スル標識ヲ毀損シタル者
十四 最水標ヲ毀損シ又ハ其附近ニ於テ漁業游泳ヲ爲シ若クハ舟筏流木ヲ繫キタル者
十五 正當ノ事由ナク官署公署ノ召喚ニ應セサル者
十六 官署ヨリ榜示セル禁制ヲ犯シタル者
十七 人ノ門戸ニ就キ金品ヲ請求シ又ハ物品ノ購買ヲ迫リタル者
十八 塵芥又ハ禽獸ノ死屍其他汚穢物ヲ溝渠水路池沼河川ニ投擲シタル者
十九 鷄ヲ鬪ハシタル者
二十 路上ニ於テ讀賣ヲ爲シタル者
廿一 卑猥ノ歌舞又ハ異樣ノ扮裝ヲ爲シ物品ヲ行商シタル者
廿二 族籍氏名ヲ詐稱シタル者
廿三 路上若クハ見隱シ無キ場所ニ於テ袒裼裸體シ又ハ股脚ヲ露ハシタル者
廿四 夜間十二時後日出前歌舞音曲ヲ爲シ又ハ喧噪シタル者

第四章　雜

◉告諭　（明治十四年十二月八日）

近來萬年青ノ類各地ニ流行ヨリ彼ノ一時浮利ヲ追フ投機者ニ甘誘セラレ本業ヲ抛棄スルノミナラス饑々危險ノ金融等ヲナス者有之趣相聞響ニ兎豚ノ流行セシカ其結果果シテ如何ソヤコレマタ一時ノ流行ニシテ結局產ヲ破リ身ニ禍シテ一般ノ衰微ヲ招キシ耳依リテ能ク往時ヲ顧ミ將來ヲ考ヘ

屹度反省シ如此捕影ノ浮利ニ眩惑セラレ各自正業ノ家産ヲ破ラサル樣致スヘシ此旨告諭候事

◉號外　（明治十八年八月十三日）　郡　町　村

近來途上ニ露宿候乞丐體ノ者增殖候ニ付テハ警察官ニ於テ一應取調ヘノ上其原籍町村ヘ可引渡候條不都合無之樣取計將來生計上適宜ノ方法等注意可致此旨相達候事

◉告示第七十二號　（明治二十年九月二十日）

自今無主ノ犬ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ便宜撲殺セシメ候條飼犬ハ飼主ニ於テ頸輪又ハ木札ヲ付シ其住所氏名等ヲ明記シ置クヘシ

◉號外達　（明治十九年一月二十八日）　戸　長

法衙ハ勿論警察署ヨリ被告人原籍取調方照會有之節回答遲延候テハ治罪上差支不勘候條精々注意ヲ加ヘ迅速回答候樣可致此旨內達候事

◉縣令第四十六號　（明治三十四年六月七日）

寄附金募集取締規則左ノ通リ相定ム

寄附金募集取締規則

第一條　神社寺院祠宇佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスルニアラスシテ金錢物品ノ寄進惠與若クハ義捐ヲ勸誘募集セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ願出許可ヲ受クヘシ但他管下ノ者ニ在リテハ直ニ當廳ヘ差出スヘシ

一　住所氏名年齡

一　募集ニ從事スル者ノ住所氏名年齡

一　募集ノ金額

一　募集ノ目的及方法

一　募集ノ區域及期限

一　現金領收並ニ保管方法

第二條　前條各號ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第三條　本規則ニ違背シ又ハ募集ニ關シ不都合ノ行爲アリト認メタルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　第一條及第二條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第五條　明治二十九年二月縣令第十一號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

◉縣令第四十五號　（明治二十八年七月十三日）

名義ノ何タルニ拘ラス金品ヲ得又ハ得ルノ契約ヲ以テ八年未滿ノ幼兒ヲ貰受ル者ハ其兒ノ年齡及實父母ノ住所氏名ヲ記シ幼兒ヲ引受リシ日ヨリ七日以內ニ所轄警察官署ヘ屆出ヘシ

養育料ヲ得又ハ得ルノ契約ヲ以テ前項同齡ノ幼兒ノ寄托ヲ受ケ養育セントスルモノ亦同シ

第一項第二項ニ該當スル幼兒ヲ現ニ貰居又ハ養育スル者ハ本令發布ノ日ヨリ二十日以內ニ第一項ノ手續ヲナスヘシ

幼兒ノ實父母若クハ親戚其他緣故アルモノハ保護ノ目的ヲ以テ其幼兒ノ住所氏名ヲ記シ貰主養育主所在ノ警察官署ニ屆出ルコトヲ得

第一項第二項第三項ニ違犯シタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◉諭告第五號　（明治三十四年十二月二十七日）

近來往々各種ノ商品、商品容器、封皮引札廣告看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、宮內省御用其他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スル者有之右ハ明治元年三月太政官布告ニ違背シ穩ナラサル儀ニ付心得違ノ者ナキ樣注意スヘシ

◉諭告第一號　（明治三十三年十月九日）

菊御紋章ノ儀ニ就テハ明治元年三月同四年六月太政官布告ヲ以テ禁止セラレ居ルニモ拘ハラス近時濫用ノ弊漸ク滋ク之カ取締上或ハ行政執行法第五條第一項ニ依リ處分セサルヲ得サル儀モ可有之候ニ就テハ今後左記各項ニ準據シ心得違無之樣注意スヘシ

一　印刷描出其他方法ノ如何ニ拘ハラス商品容器封皮引札廣告看板建築物又ハ其他ノ物件ニ菊御紋章若クハ御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ又ハ之ヲ發賣頒布シ若ハ之ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス

二　帝室若ハ政府ノ授與ニ係ル賞牌賞狀褒狀免狀ノ類ヲ節略摸寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ前項ノ物件ニ摘出私用スルコトヲ得ス

三　私著ノ文書圖書ニ在リテハ御陵ノ圖御系譜御歷代ノ尊號ヲ揭クル場合ト雖モ菊御紋章類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス

四　帝室若ハ政府ノ所有又ハ授與ニ係ル物件ノ形狀ヲ複寫撮影摸圖等ニ依リテ表出シタルモノ例ハ御料ノ物件ノ摸圖若ハ官廳ノ建設物等ニシテ菊御紋章ノ附着セルモノヲ複寫等ニ依リ表出シタルモノ又ハ明治二十三年十月三十日ノ敎育ニ關スル勅語ヲ出版スルニ當リ菊御紋章ヲ表記スルモノハ前各項ノ限ニ在ラス

右諭告ス

第五章　司法警察

◉號外　（明治二十六年十月九日）　郡役所　市役所　町村役場

今般司法警察官執務心得別紙之通司法大臣ヨリ訓令相成候條此旨心得ヘシ

但海船ノ船長ヘハ町村役場ニ於テ通達スヘシ

司法警察官執務心得

第一編　總則

第一條　司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以ヲ其職務トス

第二條　左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キモノトス

一　警視、警部長、警部

二　憲兵、將校、下士

三　島司

四　郡長

五　市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員

六　林務官

七　北海道集治監ノ典獄

八　海船ノ船長

第六以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

第三乃至第五ニ記載シタル者ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ル可ク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ讓ル可シ

第三條　警視總監、府縣知事（東京府知事ヲ除ク）ハ其管轄地内ニ於テ犯罪捜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ讓ル可シ

第四條　司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ緻密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス

第七條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅、人心動搖ノ弊ナカラシメ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

第八條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス

又濫ニ人ノ隱微ヲ訐クコトナキヲ要ス

第九條　司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ス

第十條　司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲ササル可カラス

第十一條　司法警察官ハ專ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クコトニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉スルコトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條　奸惡ノ徒ハ巧ミニ法網ヲ脫スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯情ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條　司法警察官ハ搜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事每ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ着手セサル可カラス

第十四條　司法警察官被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警察官ニ讓ル可シ

第十五條　司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ證票ヲ携帶スヘシ若シ請求スル者アルトキハ之ヲ示スヘシ

第十六條　司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察署憲兵屯營ニ照會シテ巡査憲兵上

等兵ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條　司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域內ニ於テ職務ヲ行フヲ例トス但假豫審處分ヲ除ク外時宜ニ依リ他ノ管轄區域內ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條　司法警察官搜査ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルコトナシ

第十九條　司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄區域內ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ス可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條　司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ

一　刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪

二　高等官、華族、有位、帶勳者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪

三　外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪

四　重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

第二十一條　陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪處分例ニ從ヒ處分ス可シ但歸休兵及豫備、後備ノ軍籍ニ在リテハ召集中ニ在ラサル者幷ニ在官、現役又ハ召集中罪ヲ犯

シ免官、免役若クハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ依ル

（參照）

陸軍治罪法

第四十二條　司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作リ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條　豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

海軍治罪法

第四十二條　憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十九條　憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調査ヲ作リ海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條　陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

海軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條　海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條　外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

（參照）

明治七年太政官第百二十八號達

司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條　外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴張スル時ハ其家族並ニ公使館屬員（書記官隨員及ヒ書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隷等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ）及ヒ其家屋車馬迄モ同樣ナリト思料スヘシ

第二條　內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ傭ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隷ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糺問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條　內國人各公使館及書記官ニ傭ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ屆出

外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置ス可シ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條　外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條　右公使館書記官ノ住宅ニ在ル内外屬員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲ス可シ

外國公使屬員罪ヲ犯シ幷犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條　外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火强姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシ難キ

時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可カラス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條　犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルトキハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡ヲ要求シ其人ヲ受取リテ後チ之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムトキハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第二十三條　本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用ス可ラス

第二十四條　司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ

又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀ミ得可キ爲メ其字體ヲ存ス可シ

凡テ書類ハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ要ス

第二十五條　被告人、證人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル書類ハ之ヲ本人ニ讀聞カセ署名捺印セシムル可シ若シ本人署名捺印スルコト能ハサルトキ又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ拇印若クハ捺印セシメタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編　捜査

第二十六條　捜査ハ犯罪ノ證憑及ヒ犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第一章　捜査着手

第二十七條　捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第二十八條　告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモ之ヲ受ケ宜シク實ニ從テ處分ス可シ

第二十九條　告訴告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ着手スヘキ事件ナルト否トニ拘ハラス之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條　書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十一條　口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ調書ヲ作ル可シ

第三十二條　告訴、告發ニ付キ增減變更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシメ又ハ其調書ヲ作ル可シ

第三十三條　告訴、告發ヲ受クルトキハ成ル可ク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人ノ住所、氏名其他證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキコトヲ申立テシメ調書ヲ作ル可シ

第三十四條　被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其經罔ニ出ツルナキヤ否ニ注意スヘシ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第三十五條　告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シタルカ爲メ後難ヲ畏ル、摸樣アルトキハ其氏名ヲ顯サヽルコトニ注意ス可シ

第三十六條　代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシム可シ但法律上代理人告訴ヲ爲ストキハ此限ニアラス

第三十七條　告訴、告發ノ取下アルモ其書面ハ返附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印シタル取下申立書ヲ差出サシム可シ

口述ヲ以テ取下ヲ爲ストキハ其申立ニ付キ調書ヲ作ル可シ

第三十八條　官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲ス可キモノナリト雖モ急速ヲ要スル事件ニ付キ一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ搜査ニ着手ス可シ

第三十九條　犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其陳述ヲ錄取ス可シ

第四十條　自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ輕ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡不盡ニ注意ス可シ

第四十一條　新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風說アルトキハ其出所、原因等ヲ取調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條　變死、創傷者アリタルトキ又ハ隱匿、埋藏物等ヲ發見シタルトキハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ニ注意ス可シ

第二章　搜查處分

第四十三條　搜查處分ハ犯罪ノ原由、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被告人ノ氏名、年齡、職業、出生ノ地、住所、本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證人ノ誰タルコト其他證憑ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ摸樣ニ注意ス可シ

第一節　證憑及ヒ犯人ノ搜查

第四十四條　犯罪ノ場所又ハ證憑物件所在ノ場所ニ就キ搜查ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ爲スコトヲ得但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルトキハ其戶主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取ス可シ

第四十五條　犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目錄ヲ作リ所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條　前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハルヘキ者ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第四十七條　搜查上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ル可シト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若クハ其所在ニ就キ陳述ヲ聞クコトヲ得但呼出ヲ爲スニハ書面又ハ口頭ヲ以テ報知スヘシ

又其承諾ヲ得テ犯所其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第四十八條　前條ノ場合ニ於テハ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取スヘシ

事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面ヲ差出サシムルモ妨ケナシ

第四十九條　搜查上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ爲サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ之

ヲ差出サシム可シ

第九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條　物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシム可カラス但腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラサルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條　鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受クヘシ其解剖ハ必要ナル部分ノ外之ヲ爲サシムヘカラス

（參照）明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事（檢事派出ナキ地ハ其地方長官）ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

第二節　被告事件送致

第五十二條　被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致ノ手續ヲ爲スヘシ但送致後ト雖モ必要ナルトキハ仍ホ搜査ヲ爲スヘシ

被告事件ヲ送致スルトキハ證憑物件及ヒ意見書ヲ添ヘ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スヘシ

第五十三條　重罪、輕罪ノ搜査ヲ爲シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所檢事局ニ送致シ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ送致スヘシ

第五十四條　本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯罪ニ付テハ搜査ヲ爲シタル者ヨリ其事件ヲ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スヘシ但急速ヲ要スルトキハ直チニ管轄領事廳所在地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ其旨ヲ報告スヘシ

第三編　假豫審

第五十五條　司法警察官重罪、輕罪ノ現行犯、準現行犯ニ付キ刑事訴訟法第百四十七條ノ處分ヲ爲スヲ假豫審トス

第五十六條　現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハス假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　準現行犯ニ付テハ成ルヘク被告人ヲ逮捕シタル後假豫審處分ヲ爲スヘシ但數人共犯ノ場合ニ於テハ他ノ正犯從犯未タ捕ニ就カスト雖モ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

家宅內ノ犯罪ニ付キ戶主又ハ戶主ニ代ハルヘキ者ノ請求ニ依リ檢證處分ヲ爲シタルトキハ被告人ヲ逮捕スト雖モ其他ノ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　假豫審ニ着手シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條　假豫審ニ着手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲナサントスルトキハ速ニ

之ヲ讓ルヘシ

第六十條　假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル證憑ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ヲ爲ルヘキ摸樣ニ付テモ亦其取調ヲ爲スヘシ

第六十一條　假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ルヘシ但時宜ニ因リ巡査、憲兵、上等兵等ヲシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

第六十二條　假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲナスヘシ

第六十三條　假豫審ニ着手シタル後其取調ヲ繼續スヘキモノニ非スト思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ放免シ其旨檢事局ニ通知スヘシ

第六十四條　罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除ク外現行犯ノ場合ト雖モ搜査處分ニ止ムヘシ

第一章　檢證、搜索及物件差押

第六十五條　假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スヘシ

第六十六條　假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　前條ノ處分ヲナスニハ戶主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ルヘク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトナキヲ要ス

第六十八條　事實ヲ證明スヘキ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ルヘク住居、身體又ハ物件ニ就キ搜索ヲ爲サス本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシムヘシ

第六十九條　被告人ニ非サル者ノ住居、身體又ハ物件ヲ搜索スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ルヘシ

第七十條　住居內ノ檢證、搜索、物件差押ニ付テハ戶主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴、瘋癲、幼年者ナルトキハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七十一條　官署、公署ニ於テ檢證、搜索、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハルヘキ者ノ立會アルコトヲ要ス

第七十二條　檢證、搜索ノ場所ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ摸樣ヲ知ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押フ可シ

官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ所持スル物件ニシテ其職務上默祕ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得ス

醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業ノタメ委託ヲ受ケタル物件ニシテ默祕ス可キ義務アル事情ニ關スルモノニ付テモ亦同シ

第七十三條　檢證、搜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條　住居內ノ檢證、搜索、物件差押ハ日出前、日沒後之ヲ爲スコトヲ得ス但急速ヲ要スル場合ニ於テ戶主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十五條　旅店割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間內ニ限リ何時ニテモ檢證、搜索物件差押ヲナスコトヲ得

第七十六條　住居內ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ何時ニテモ其現場ニ限リ檢證搜索物件差押ヲナスコトヲ得

第七十七條　住居內ノ檢證、搜索物件差押ヲナスニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶牆壁器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類物件ノ紛失、毀損ヲ防クタメ相當ノ處置ヲナスヘシ

第七十八條　檢證、搜索物件差押中雜沓、喧噪其他妨害ヲナス者アルトキハ之ヲ制止スヘシ又何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條　檢證、搜索物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事故アリテ之ヲ停止スルトキハ證憑湮滅ヲ豫防スルタメ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

第八十條　住居搜索ヲナスニハ其目的トスル所ノ書類物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘシト思料スル場所ニ限ルヘシ

第八十一條　檢證、搜索物件差押ヲナシタルトキハ其調書ヲ作ルヘシ差押ヘタル物件ハ其品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ立會人又ハ所有者ニ其拔書又ハ謄本ヲ渡スヘシ

第八十二條　差押ヘタル物件ハ散佚毀損ヲ防クタメ認印若クハ封印ヲ爲シ且其差押ヘヲ爲シタル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付ス可シ

又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ付スル等便宜ノ處置ヲ爲ス可シ

第八十三條　事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコ

トヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラス

書類、電報、物件ヲ受取タルトキハ其證書ヲ渡ス可シ

第八十四條　差押ヘタル物件ト雖トモ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命シ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章　證人訊問

第八十五條　假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲナスコトヲ得

證人檢證、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　證人ニハ先ツ其氏名、年齡、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條　證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第八十八條　證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁討論ヲ爲ス可カラス若シ其陳述他岐ニ渉ルトキハ之レヲ止メ齟齬アルトキハ之ヲ質スヘシ

第八十九條　證人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ルヘク被告人又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問スヘシ但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條　證人ヲシテ證據物件ニ付キ說明セシムルコトヲ要スルトキハ成ルヘク其物件ヲ示スヘシ

第九十一條　證人ヲシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條　證人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムヘシ

聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命スヘシ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十三條　證人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其調書ヲ作ル可シ

證人其陳述ヲ變更、增減センコトヲ申立タルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ調書ヲ作ルヘシ

第三章　鑑　定

第九十四條　假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスルトキハ醫師、穩婆、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條　第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條　鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干渉ス可ラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條　鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ

數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシムヘシ

鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ每葉ニ契印セシムヘシ

第九十八條　鑑定書ニ不明不備ノ點アルトキハ更ニ其說明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添假クヘシ

第四章　被告人逮捕

第九十九條　禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕スヘシ但被告人身分又ハ事件ノ模樣ニ因リ其逮捕ヲ必要トセサルトキハ此限ニアラス

第百條　現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡セル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前、日沒後ハ戶主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ非サレハ他人ノ家宅內ニ進入スヘカラス

第百一條　被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フヘシ

被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衞ノ區域ヲ踰ユヘカラス

第百二條　假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

被告人他ノ管轄地內ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託スヘシ

若シ其事件急速ヲ要スルトキハ巡査、憲兵、上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第百三條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間內ハ留假場ニ入レ置クコトヲ得

第百四條　勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限內ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲナスヘシ

勾引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第百五條　常人ニ於テ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第百六條　現行犯、准現行犯ニ付キ巡査、憲兵、上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調書ヲ作ルヘシ

逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤ取調ヘ之ヲ調書ニ添假クヘシ

第百七條　勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名職業、住所年月日時ヲ記載スヘシ其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示スヘシ

第百八條　勾引狀ハ巡査、憲兵、上等兵ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第五章　被告人訊問

第百九條　假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問スヘシ但檢證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第百十條　被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問スヘシ

一　氏名、年齡、身分、職業、住所、出生ノ地

二　有位又ハ勲勞者ナルヤ否

三　前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑名、裁判言渡ヲ爲シタル廳名及ヒ其年月日

第百十一條　被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齡、身分、性質等ヲ斟酌シ一樣ノ訊問ヲ爲スヘカラス

第百十二條　訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フヲ可カラス又簡明ヲ旨トシ勉メテ疑似ニ涉ルコトヲ避クヘシ

第百十三條　被告人ニハ自由ニ發言セシムヘシト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意スヘシ

第百十四條　訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同時ニ數事項ヲ訊問スヘカラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ルヘク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フ可シ

第百十五條　數人共犯ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防ク可シ且輙ク事實ヲ得可シト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲ス可シ

第百十六條　證憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲナサシム可シ

第百十七條　事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對質セシム可ラス

第百十八條　第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第百十九條　被告人ノ擧動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其言語、氣色等ニ注意ス可シ

第百二十條　被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ眞實ト做ス可カラス其白狀ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意ス可シ

第百二十一條　訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作リ問答ノ始末及ヒ被告人ノ擧動等遺漏ナク記載ス可シ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第六章　衛生

第一　衛生事項

◉甲第二十六號　（明治二十六年七月十八日）　郡役所　市役所　町村役場

明治十八年十月本縣丙第八十四號達死亡者調樣式別紙ノ通リ改正候條市町村長ニ於テ甲號樣式ニ依リ月別ニ一ヶ年分取調ヘ市長ハ翌年二月末日迄ニ當廳ヘ町村長ハ同月十日迄ニ郡役所ヘ差出シ郡役所ニ於テハ乙號樣式ニ照準製表シ同月末日迄ニ當廳ヘ差出スヘシ

但此達ニ牴觸スル從前ノ諸達ハ總テ廢止

甲號

何市、何郡町村死亡者調　明治何年自一月至十二月

市町村字名	病名及事故	男ノ別女	氏名	年齢	
何市何町	何々	男	何某	何年	
何町村	何々	女	何某	何年	
何村何	何々	女	何某	生年不詳	
市町村字名	原因	男ノ別女	年齢		
何々	何々	男	何年		
何々	何々	女	何年位		

明治何年所轄內死亡者調前記ノ通リニ有之候也

明治年月日　何市長（何町村長）何　某印

知事（郡長）宛

解釋

一　死亡者ハ其埋（火）葬認許證ヲ附與シタル土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ但在監死亡者ハ記入ニ及ハス

一　死亡者中行倒人ニシテ氏名病名及事故不明ナレハ不明ト記シ年齢不明ナレハ推測ヲ以テ記スヘシ

一　死躰ノ檢見ノ年齢不明ナレハ推測ヲ以テ記スヘシ

一　年齢ノ調査ハ滿一年迄ノモノヲ一年ト記シ一年一月以上滿二年迄ノモノヲ二年ト記入スヘシ以下之レニ倣フ

死躰ノ檢見

乙號

乙號　死亡者年齡區別表　（明治何年）　何郡市役所

年齡	第一類 傳染性病	第二類 發育及營養的病	第三類 皮膚及筋病	第四類 骨及關節病	第五類 血行器病	第六類 神經系及五官病	第七類 呼吸器病	第八類 消化器病	第九類 泌尿及生殖器病	第十類 外傷性變死	第十一類 中毒症	第十二類 原因不詳	合計	第七類ノ內 肺病
一年 男														
一年 女														
二年 男														
二年 女														
三年 男														
三年 女														
四年 男														
四年 女														
五年 男														
五年 女														
六年 男														
六年 女														
七年 男														
七年 女														
不詳年齡 男														
不詳年齡 女														
合計 男														
合計 女														

解釋

一　死亡者病類別ハ左ノ細目ニ據ルヘシ

一　死躰ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齡ヲ記載スヘシ

病類細目要領

（第一類）　傳染性病

（一）　腸窒扶斯
（二）　發疹窒扶斯
（三）　赤痢
（四）　亞細亞虎列刺
（五）　實布的里亞　格魯布　義膜炎
（六）　痘瘡（變痘水痘）
（七）　麻疹
（八）　猩紅熱
（九）　腳氣
（十）　間歇熱
（十一）　羅斯
（十二）　膿毒症敗血症
（十三）　病院脫疽
（十四）　百日咳
（十五）　產蓐熱
（十六）　流行性耳下腺炎　惡性唾腺炎

(十七) 流行性腦脊髓膜炎
(十八) 急性關節僂麻質私急性レウマチス
(十九) 花柳病淋病 梅毒 下疳
(二十) 動物性病恐水病 馬鼻疽 炭疽熱
其他傳染病疾患

(第二類) 發育及營養病

(發育的疾患 躰質的疾患)

(二十一) 初生兒ノ生活薄弱 產兒窒息
(二十二) 造搆誤常 畸形產
(二十三) 齒牙病 生齒ニ因スル諸病
(二十四) 腺病
(二十五) 佝僂病
(二十六) 小兒營養消耗症
(二十七) 癩病
(二十八) 全身水腫
(二十九) 糖尿病(密尿) 尿崩(無味尿)
(三十) 脫疽
(三十一) 癌及腫瘍
(三十二) 營養消耗
(三十三) 矢尚兒倍偏

(三十四) 貧血
(三十五) 白血病
(三十六) 甲狀腺腫
(三十七) 紫斑病(ウエルホフ井氏發斑病)
(三十八) アヂソン氏病(銅色病)
其他營養及發育ノ障害

(第三類) 皮膚及筋肉病

(三十九) 血瘍
(四十) 皮下結締織炎衝 筋肉炎 水脉炎
(四十一) 初生兒ノ結締織硬化症
(四十二) 臍諸患
(四十三) 漸進性筋肉萎縮
其他ノ皮膚及皮下結締織ノ疾患

(第四類) 骨及關節病

(四十四) 骨及關節炎 骨炎 骨膜炎 骨髓炎 骨瘍(カリエス) 骨疽(ネクローシス) 關節膿瘍 骨折

(四十五) 骨軟化
其他骨及關節ノ疾患

(第五類) 血行器病

(四十六) 心囊炎 心囊水腫ヲ含ム

(四十七) 心臟肥大　心臟膨大
(四十八) 辨膜病
(四十九) 心臟破裂
(五十) 心臟麻痺　心臟脂化
(五十一) 動脉疾患
(五十二) 靜脉疾患
其他血行器ノ疾患
(第六類) 神經系統及五官器病
(五十三) 腦膜炎
(五十四) 腦水腫
(五十五) 腦炎
(五十六) 卒中
(五十七) 腦麻痺　腦貧血　腦充血
(五十八) 精神病　癲狂
(五十九) 脊髓炎　脊髓膜炎
(六十) 脊髓勞
(六十一) 脊髓麻痺　脊髓軟化ヲ含ム
(六十二) 子癇
(六十三) 癲癇　舞踏病
(六十四) 破傷風　牙關緊急

(六十五) 其他ノ痙攣搐搦　驚癇
其他神經病ヲ含ム
(六十六) 耳病
(六十七) 眼病
(第七類) 呼吸器病
(六十八) 喉頭炎
(六十九) 喉頭氣管支勞
(七十) 急性氣管支炎　毛樣氣管支炎
(七十一) 慢性氣管支炎
(七十二) 肺炎
(七十三) 肺勞　肺結核
(七十四) 咯血
(七十五) 肺氣腫　喘息
(七十六) 肺壞疽
(七十七) 肺麻痺　肺水腫
(七十八) 胸膜炎　胸水ヲ含ム
其他呼吸器ノ疾患
(第八類) 消化器病
(七十九) 口舌疾患
(八十) 耳下腺疾患

（八十一）胃管疾患
（八十二）下腹炎　腹膜炎　下腹膿腫骨盤膿腫
（八十三）腹水
（八十四）脫腸
（八十五）腸管壅塞
（八十六）胃加答兒
（八十七）胃潰瘍
（八十八）胃狹窄
（八十九）吐血
（九十）腸出血
（九十一）腸破裂
（九十二）下痢　腸加答兒
（九十三）吐瀉病即霍亂
（九十四）胃腸炎
（九十五）疝痛
（九十六）腸勞
（九十七）腸間膜勞
（九十八）脾臟疾患
（九十九）膽石病
（百）黃疸

（百一）肝臟炎
（百二）急性肝臟消耗症
（百三）慢性肝臟消耗症
其他消化器ノ疾患
（第九類）泌尿生殖器病
（百四）尿道及膀胱炎
其他ノ膀胱疾患及男子生殖器ノ諸患ヲ含ム
（百五）尿毒
（百六）石淋
（百七）腎臟諸病
（百八）女子生殖器病
（百九）子宮外妊娠
（百十）流產
（百十一）子宮破裂
（百十二）妊娠及分娩　乳房膿腫ヲ含ム
（百十三）子宮ノ疾患　分娩產蓐ニ非サル者
（百十四）卵巢諸患
（第十類）外襲性變死
（百十五）火傷　凍傷　日射病　電擊　爆發　壓死及誤死　怪我　相擊
銃創　切創　刺創　咬創　手術出血　窒息縊死　絞殺　溺死

自殺

（第十一類）中毒病

（百十六）動物性及植物性毒

（百十七）鑛物性毒

（百十八）毒性瓦斯

（百十九）亞爾箇保見中毒

一　此類別中其他ノ疾患云々ト記載セシハ該類別中ニ列擧スヘキ各病名ヲ省畧セシモノナルカ故製表ニ當リ病名ヲ增加スルコトハ妨ケナシ

一　各病名ヲ增加セシトキハ第何類中某病ヲ挿入セシコトヲ附記スルコトヲ要ス

一　若シ類別中何レニ挿入スヘキカヲ確定シ難キモノアルトキハ別欄ヲ設ケテ之ヲ掲ケ其事由ヲ附記スルヲ要ス

◉縣令第二十一號　（明治三十一年三月十八日）

市町村衞生組合設置ニ關スル規程左ノ通相定ム

第一條　明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二十三條ニ依リ市町村ヲ以テ其區域トシ衞生組合ヲ設クヘシ但土地ノ狀況ニ依リ數箇ノ組合ヲ設クルモ妨ケナシ

第二條　衞生組合ニ於テ施行スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一　飲料水常用水ノ使用ニ關スルコト

一　飲食物ノ取締ニ關スルコト

一　清潔方法消毒方法ノ設備ニ關スルコト

一　清潔方法消毒方法實施ニ關スルコト

一　溝渠、下水、厠圊、芥溜等ノ掃除及改造ニ關スルコト

一　衞生上有害ト認ムル諸建造物ノ位置構造ニ關スルコト

一　不潔物等洗濯取締ニ關スルコト

一　傳染病患者ヲ隱蔽セントスルモノヽ取締ニ關スルコト

一　患者發生ノ際交互ニ於テ敏速通牒ニ關スルコト

一　保護者ナキ傳染病患者救治ニ關スルコト

第三條　組合規約ヲ以テ定ムヘキ事項左ノ如シ

一　組合ノ組織

一　會議ニ關スル規程

一　役員ノ選擧法及其職權限

一　組合費ノ收支方法

一　右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第四條　組合規約及役員ノ氏名ハ郡長ニ届出ツヘシ

附　則

第五條　衛生組合ハ本年五月三十日迄ニ之ヲ設ケ市ニ在ツテハ直ニ町村ニ在ツテハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

第二　病院

◉甲第九十八號　（明治十五年六月九日）

公立病院概則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

（別紙）　公立病院概則

第一條　公立病院ハ難病治療及貧民救療ヲ主トシテ設立スヘシ（明治十七年甲第七十三號ヲ以テ改正）

第二條　公立病院ノ職員ハ左ノ通リタルヘシ

院　長　壹人

副院長　壹人　缺員スルモ妨ケナシ

分支院長　每分支院一人ヲ置ク當直醫ヲ以テ之ニ充ツルモ妨ケナシ（明治十七年甲第三十九號ヲ以テ追加）

當直醫　定員ナシ

藥局長　壹人　副院長當直醫ヲ以テ兼ヌルモ妨ケナシ

藥劑生　定員ナシ

雜務係　定員ナシ

第三條　當直醫以上ノモノハ醫術開業許可ノ證所持ノモノニ限ルヘシ

第四條　當直醫藥劑生幷雜務係各々一人日々宿直ヲ爲スヘシ（明治十七年甲第百十九號ヲ以テ第三條第九條刪ヲ除シ以下順次繰上ク）

第五條　職員ノ進退及給料ノ增減ハ其都度届出ツヘシ

但當直醫以上ノモノ新任スルトキハ履歷書幷ニ免狀寫相添フヘシ

第六條　患者其他統計表ハ每年二期ニ分チ七月ヨリ十二月迄ヲ翌年一月限リ一月ヨリ六月迄ヲ七月限リ差出スヘシ

第七條　地方稅ノ補助ヲ受クル病院費ノ精算ハ前條ノ通リ每年二期ニ分チ差出スヘシ

第八條　醫事ニ關シ官署ヘ差出ス文書ハ病院長ノ名ヲ以テスヘシ

但診斷書幷死亡届ノ類ハ主治者ノ名ヲ以テスヘシ

第九條　院則ノ改正變更等ハ其都度伺出ツヘシ

第十條　公立病院ヲ設置セントスルトキハ左ノ件々ヲ記載シ伺出ツヘシ（明治十七年甲第七十三號ヲ以テ改正削除）

一　病院位置

何國何郡何町村何番地

一 名稱

公立何々病院

一 分支院位置

何國何郡何町村何番地

一 分支院名稱

公立何々病院何々分支院

一 院則

職員事務章程診察及貧困患者救療手續入院料藥價診察料等（明治十七年甲第七十三號ヲ以テ改正）

一 院長以下履歷

何某ニ從ヒ何科修業何々醫學校卒業何月日開業免狀受領或ハ何地ニ於テ醫術開業及官途出身賞罰等ノ類

一 院長以下給料

院長 一ケ月 金何圓 一ケ年

何々 一ケ年 一ケ月 金何圓

一 病院費用

書籍器械藥品等入費 一ケ月金何圓 一ケ年金何圓

營繕入費幷ニ諸雜費 一ケ月金何圓 一ケ年金何圓

雇人給料等 一ケ月金何圓 一ケ年金何圓

（明治十七年甲第三十九號ヲ以テ敎則ノ一項ヲ削除ス）

右費用總計 一ケ月金何圓 一ケ年金何圓 此内何々町村協議費金何圓有志寄附金何圓收入金何圓ヲ以テ出納遣拂ノ積々云

◉縣令第二十三號 （明治三十三年三月八日）

傳染病院及隔離病舍設置規程左ノ通定ム

但明治二十八年五月甲第十四號ハ廢止ス

傳染病院及隔離病舍設備標準

第一條 市町村ニハ傳染病院又ハ隔離病舍ヲ設クヘシ

第二條 傳染病院又ハ隔離病舍ハ力メテ患者運搬等便利ニシテ且衛生ニ適シタル地ヲ選定スヘシ

第三條 傳染病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ

一 重症患者室 若干棟

二　輕症患者室　若干棟
三　快復期患者室　一棟
四　醫員其他事務員詰所看護人室食堂及炊事場　一棟
五　消毒所　一ケ所
六　屍室　一ケ所
七　汚物置場及燒却所　一ケ所
八　物置　一ケ所

第四條　前條第一號乃至第六號ハ左ノ制限ニ據リ設計スヘシ

一　病室ノ廣サハ患者一人ニ付一坪半ノ割合ヲ以テ作リ各棟毎ニ厠ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フルコト
一　病室ハ床側壁トモ板張ト爲シ床下ハ傾斜ヲ附シ可成漆喰敲キト爲スコト
一　醫員其他事務員詰所等ノ建物ニハ浴室及厠ヲ備フルコト
一　消毒所ニハ洗濯場ヲ備フルコト
一　屍室ハ床ヲ漆喰敲キ又ハ板張ト爲スコト

第五條　隔離病舍ハ第四條ノ制限ニ據リ第三條一號乃至三號ヲ同一建物中ニ區劃シ設ルコトヲ得

第六條　傳染病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師調劑掛看護人及事務員ヲ置クヘシ

一　醫長　一人
一　醫員　患者二十名ニ付一人
一　調劑掛　二人
一　看護人　患者五名ニ付一人
一　事務員　若干

第七條　隔離病舍ハ醫長調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得但醫員ハ專任者ヲ定メ置クヘシ

第八條　傳染病院若クハ隔離病舍ヲ建設セントスルトキハ第三條ノ設計書豫算額及繪圖面ヲ添ヘ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出認可ヲ受クヘシ

第九條　傳染病院長醫長又ハ醫員ヲ置カントスルトキハ俸給若クハ手當額ヲ定メ履歷書ヲ添付シ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ願出認可ヲ受クヘシ（三十三年縣令第六十一號ヲ以テ追加）

附則

第十條　既ニ傳染病院長醫長又ハ醫員ヲ設置シアル市町村ニ於テハ速カニ第九條ノ手續ヲ爲スヘシ（仝上）

◉縣令第二十四號　（明治三十三年三月八日）

傳染病院及隔離病舍管理法左ノ通リ定ム

但明治二十八年八月甲第二十一號ハ廢止ス

傳染病院及隔離病舍管理法

第一條　醫長又ハ專任醫ハ院舍內ノ醫務衞生事務ヲ掌理シ醫員看護人ヲ監督スヘシ

醫長又ハ專任醫ハ毎日一回以上廻診シ治療並看護ノ方針ヲ醫員看護人ニ指示スヘシ

第二條　醫員ハ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ

第三條　入院患者ノ發病及轉歸届ハ醫長專任醫若ハ醫員之ヲ爲スヘシ但入院舍前已ニ治療醫ニ於テ届濟ミノ者ハ其事項ヲ詳記シ置クヘシ

第四條　調劑掛ハ醫長又ハ醫員ノ指揮ヲ受ケ調藥ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當スヘシ

第五條　院舍內ニ於テ消毒ニ從事セシムル爲メ擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ

第六條　看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ受ケ懇切ニ患者ノ看護ヲ爲スヘシ

看護人ハ院舍內ニ宿泊シ交番ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ

看護人ニシテ調劑所及賄所ニ往復スル者ハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ猥リニ出入セシムヘカラス

第七條　入院舍患者ノ親族等附屬看護ヲ出願スルトキハ院舍務ニ妨ケナキ限リハ之ヲ許可スルコ

トヲ得但院舍內ノ諸規則醫員以下ノ指揮ヲ遵守セシメ且猥リニ外出ヲ許スヘカラス

第八條　醫師及看護人病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出テタルトキハ之ヲ脫スヘシ

消毒所屍室汚物置場及燒却所ニ出入スルモ亦本項ニ準スヘシ

第九條　病室用衣ハ壹週二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキ又ハ疑ヒアルトキハ其都度消毒ヲ爲スヘシ

患者運搬人夫及運搬器具ハ其都度消毒ヲ行フヘシ

第十條　病室其他ニ於テ患者又ハ其被服寢具器具等ニ觸接シタルトキハ速ニ手足其他觸接シタル部分ヲ二十倍ノ石炭酸水又ハ二十倍ノ枯魯兒石灰水若ハ千倍ノ昇汞水ヲ以テ消毒スヘシ

第十一條　飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用フヘシ但醫師ノ指揮ニ依ルモノハ此限ニアラス

第十二條　飲食物ハ院舍內ニ於テ調理スルカ又ハ院舍指定若ハ醫師ノ指揮ニ依ルモノハ此限ニアラス

第十三條　患者用ノ飲食器具ハ毎回必ス之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ

第十四條　患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直ニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ

第十五條　患者ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取リ概ネ排泄物量二倍ノ石灰乳（十倍ノモノ）又ハ

格魯兒石灰水(二十倍ノモノ)ヲ混シ一時間以上放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス

第十六條　患者ヲ恢復期患者室ニ移サントスルトキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ

第十七條　患者全癒退院舍ノ際ハ先ツ千倍ノ昇汞水又ハ二十倍ノ石炭酸水ニテ全身ヲ拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身躰頭髮ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ヘ退院セシムヘシ

第十八條　患者ノ被服又ハ寢具器具其他病毒汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ院外ニ持出ルコトヲ禁スヘシ

第十九條　患者ノ寢具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸溜消毒又ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ但同法ヲ行フコト能ハサルトキハ二十倍ノ石炭酸水中ニ浸漬スヘシ

第二十條　革製ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水又ハ格魯兒石灰水ヲ以テ拭淨スヘシ

第二十一條　溜熱又ハ藥力ヲ以テ消毒シ能ハサルモノハ病室內ニ持チ入ルヘカラス

第二十二條　患者ノ排泄物ニ觸接シタル物品ハ可成之ヲ燒却スヘシ

第二十三條　床板側壁及ヒ器具中本製金屬製其他之ト類似ノ物品ハ二十倍ノ石灰酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石炭乳ヲ用フルモ可ナリ此場合ニ於テハ少クモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ

病室ハ消毒ヲ終リタル後可成二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十四條　死者アルトキハ直ニ二十倍ノ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速ニ之ヲ屍室ニ移スヘシ

埋葬スル爲メ死体ヲ他所ニ移サントスルトキハ前項ノ方法ニ據ルカ又ハ棺中ニ生石灰又ハ格魯兒石灰ヲ入レ其上ニ屍体ヲ置キ更ニ該藥ヲ撒布シテ之ヲ密閉スヘシ

第二十五條　院舍內ニハ寢具其他必要ナル器具藥品等ヲ備置ヘシ

院舍內ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置ヘシ

寢具ヲ用ヒサル場合ニ於テハ疊上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞ナキ物ヲ敷クヘシ

第三　醫事

醫師心得

◉縣令第十六號　(明治二十七年二月二十四日)

明治十七年六月本縣甲第七十八號布達醫師心得左ノ通リ改正ス(明治三十一年縣令第二十號傳染病豫防法施行細則發布ニ抵觸ノ廉ハ消滅)

第一條　醫師開業免狀所持ノ者本縣管內ニ入住シタルトキハ其原籍並ニ住所ヲ詳記シ履歷書及ヒ免狀寫ヲ添ヘ届出ツヘシ

第二條　管內ニ在テ住所ヲ轉シ又ハ他管下ヘ移轉スルトキハ寄留籍轉等ノ別ヲ詳記シ其都度届出

ツヘシ

但出張所ヲ設ケ又ハ之ヲ廢シタルトキモ同樣屆出ツヘシ

第三條　明治十六年第三十五號布告醫師免許規則第五條ニ依リ假免狀ヲ得醫術開業セシ者ハ其許可ノ區域外ニ至リ醫術ヲ施スヲ得ス

第四條　前條ノ醫師開業許可ノ區域ヲ去リ他ヘ移住セント欲スルトキハ其旨屆出テ免狀返納スヘシ

第五條　診察ヲ爲サヽル者ニ藥劑ヲ投シ又ハ處方箋ヲ與フヘカラス

第六條　醫術開業免狀所持ナキ者ヲ代診者トシテ專斷施療セシメ又ハ出張所ヲ設ケ本人自ラ出診セサルトキ若クハ出診日外ニ於テ該代診者ヲシテ診察治療セシムルヲ得ス

第七條　醫師ハ處方錄ヲ備ヘ患者ノ住所姓名年齡及其病名處方等ヲ登記シ置クヘシ

第八條　施治ノ患者死亡スルカ又ハ變死急病及妊娠四ケ月以上ノ死體分娩等死後檢案候節ハ別紙甲號又ハ乙號書式ノ書面ヲ製シ死者ノ家人ニ付與スヘシ若シ家人ナキトキハ直ニ其地ノ市町村長ニ差出スヘシ

但數名ノ醫師ニテ取扱ヒタル節ハ主任ノ醫師本文ノ手續ヲナスヘシ

第九條　處方箋ヲ請フモノアレハ藥劑分量用法年月日患者及自己ノ宿所姓名等ヲ詳記シ捺印シ與フヘシ

第十條　施治ノ患者事故アリテ轉醫セントスル者病名及ヒ處方記ヲ乞フトキハ之レヲ與フヘシ

第十一條　虎列刺腸窒扶私赤痢實布垤利亞（格魯布）發疹窒扶私及痘瘡ノ六病ヲ診斷シタルトキハ消毒豫防法ノ要件ヲ病家ニ懇諭シ且ツ成規ニ依リ市町村長ニ通知スルカ又ハ最寄警察署ニ屆出ツルノ外別紙丙號ノ屆書ヲ製シ遲クモ翌日迄ニ之ヲ患者所在ノ市町村長ニ差出スヘシ

但本文六病ノ外流行病アリテ其勢熾ナルノ兆アルトキハ本條ニ準シ取扱フヘシ

第十二條　前條ノ病者全快又ハ死亡シタルトキハ別紙丁號ノ屆書ヲ製シ之ヲ患者所在ノ町村長ヘ差出スヘシ若シ其病ノ終期ニノミ診斷スルトキハ發病ノ期日ヲ取調ヘ記入スヘシ

但本文屆出ノ外別ニ第八條ノ手續ヲナスヘシ

第十三條　流行病豫防法ニ付市町村長ヨリ協議ヲ受クルトキハ速ニ之ニ應スヘシ

第十四條　第三條第五條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條　第六條第八條第十一條第十二條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

◉郡第四號　（明治二十八年七月十一日）

郡役所　警察署

郡醫職務規程左ノ通相定ム

郡醫職務規程

第一條　郡醫ハ受持郡内公衆ノ健康ヲ保持シ傳染病ヲ豫防防遏スルノ目的ヲ以テ郡長及警察署長ヲ補佐シ左ノ各條ノ任務ヲ盡スヘキ責ヲ有スルモノトス

第二條　郡醫ハ衛生上ノ利害又ハ傳染病豫防ニ關シ郡長又ハ警察署長ヨリ通達アリタルトキハ左ノ事項ヲ視察シ意見ヲ復申スヘシ

一　道路、溝渠、井戸、下水、便所、芥溜等

二　學校、病院、製造場、市場、劇場、寄席、宿屋、湯屋、裏店等

三　飲食物、玩弄物等

四　前項ノ外衛生上又ハ傳染病豫防上有害ノ結果ヲ來スヘキ虞アル件

第三條　郡醫ハ受持郡内ニ傳染病又ハ流行病若クハ之ニ類似ノ病發生スルトキハ郡長又ハ警察署長ノ通達ニ依リ豫防救治ノ實況ヲ視察シ若シ不充分ト認ムルトキハ町村長及町村醫ト謀リ救療及豫防消毒上不行屆ナキ樣之カ指示等ヲ爲シ病毒ノ傳播ヲ防遏スヘシ

第四條　郡醫ハ受持郡内ノ町村衛生組合長ヲ指導シ清潔法ノ持續傳染病ノ豫防ニ付キ該組合員共同一致シテ實効ヲ擧クル樣盡力セシメ且質疑等アルトキハ懇篤説明ヲ爲スヘシ

第五條　郡長又ハ警察署長ニ於テ臨時必要アリト認メ受持郡内ノ出張ヲ命スルトキハ郡醫ハ何時ニテモ出張スルモノトス

第六條　郡醫ハ受持郡内傳染病豫防消毒其他公衆衛生及醫事上ノ景況ニ付必要ノ事項アルトキハ意見ヲ具シ其時々郡長及警察署長ヘ申發スヘシ

◉甲第十號　（明治三十年三月九日）

郡役所　市役所　町村役場

市町村醫設置規則左ノ通リ之ヲ定ム

市町村醫設置規則

第一條　市町村ニハ必ラス一名以上ノ市町村醫ヲ設置スヘシ

但都合ニ依リ數町村聯合シテ之ヲ置モ妨ケナシ

第二條　市町村醫ハ其市町村内傳染病其他公衆衛生ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

但一醫ニシテ數町村ノ町村醫タルヲ得

第三條　市町村醫ノ姓名給料若クハ報酬額ハ其市町村ヨリ縣廳ヘ届出ツヘシ

但市町村醫ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

第四條　市町村ニ於テハ本年五月三十一日迄ニ市町村醫ヲ定メ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

第五條　明治十七年七月號外達町村醫設置概則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

◉甲第二十一號　（明治二十四年四月二十八日）　郡役役　市役所　町村役場

醫會準則左ノ通リ相定メ候條本縣管内居住ノ醫師ニハ該準則ニ基キ本年六月中ニ組合ヲ設クシムヘシ

醫會準則

第一條　醫會ハ醫事及衛生ニ關シ左記各項ノ目的ヲ達セシカ爲ニ設クルモノトス

一　醫風ヲ改良シ醫術ノ進歩ヲ計ル事

一　醫師業務上ニ關スル事件ヲ協議スル事

一　傳染病及地方病ノ原因ヲ探究シ之レカ豫防法ヲ講究スル事

一、地方衛生上ノ利害得失ヲ講究シ其改良進歩ヲ計ル事

第二條　醫會ハ各郡市役所部内ヲ以テ一區域トス

但土地ノ形勢及道路交通ノ便否等ニ依リ醫會ノ區域ヲ分合スルノ必要アルトキハ便宜之ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　管内ニ居住シ公衆ノ診察治療ニ從事スル醫師ハ總テ醫會ニ加入スヘシ（三十年甲第八號ヲ以テ改正）

二ケ所以上ニ於テ其業務ヲ執ルモノ及他管下居住ノ醫師ニシテ本縣下ニ出張所ヲ設クルモノハ各醫會ニ加入スルモノトス

第四條　醫會ニ於テハ正副會長及幹事ヲ撰舉シ其人名及任期ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第五條　會員ハ毎年二回以上會合ヲナシ第一條ニ關スル事項ヲ議スルモノトス

但開會ノ場所及時日ハ豫メ郡市役所ニ届出ツヘシ

第六條　醫會ニ於テハ規約ヲ設ケ郡市役所ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　醫會ニ於テ決議セシ要件ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ報告スヘシ

第八條　縣知事又ハ郡市長ヨリ諮問ヲ受ケタル事項アルトキハ審議ノ上意見ヲ開陳スヘシ

第九條　醫會ニ於テ醫事及衛生ニ關シ意見アルトキハ縣知事又ハ郡市長ニ建議スルコトヲ得

第十條　醫會ニ關スル一切ノ費用ハ其會員ニ於テ負擔スヘシ

第十一條　醫會ノ氣脈ヲ通スル爲メ各醫會ヨリ委員ヲ撰出シテ縣下便宜ノ地ニ於テ毎年一回以上聯合會ヲ開クヘシ

但開會ノ場所時日等ハ開會前縣廳ニ届出ツヘシ

第十二條　聯合醫會ニ於テハ會長幹事ヲ撰定シ其人名及任期ハ縣廳ニ届出ツヘシ

第十三條　聯合醫會ニ於テハ規約ヲ設ケ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　聯合醫會ハ縣知事ノ諮問ヲ受ケ又ハ第一條ノ各項其他衛生上ニ關シ意見アルトキハ審議ノ上該會ノ意見トシテ具申スルモノトス

第十五條　聯合醫會ニ關スル費用ハ各醫會ヨリ支辨スルモノトス

附　則

第十六條　聯合醫會初回開設ニ關スルコトハ縣廳所在地ノ醫會ニ於テ各會長ニ協議シ之カ準備ヲ爲スモノトス

◉告示第百二號　（明治三十年十月二十三日）

醫師並藥劑師ノ登錄ヲ出願セントスルモノハ自今試驗及第證若クハ大學又ハ各學校ニ於ケル卒業證書ヲ其願書ニ添付スヘシ

但試驗及第證又ハ卒業證書ハ點檢ノ上返付ス

◉告示第三十號　（明治二十九年四月三十日）

本年三月法律第二十七號登錄稅法施行相成候ニ付テハ醫術開業免狀及藥劑師免狀新規下付又ハ登錄事項ノ變更ニ依リ免狀書換ヲ願出候モノハ自今願書ニ同法第八條ノ金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼付差出スヘシ

但免狀ヲ毀損シ又ハ亡失シタル爲メ書換ヲ乞フモノハ從前ノ通リ

◉縣令第十六號　（明治三十五年三月十四日）

明治十八年甲第七十一號鍼灸治營業取締規則左ノ通改正ス

鍼灸治營業取締規則

第一條　鍼治又ハ灸治ノ業ヲナサントスル者ハ左記樣式ニ依リ願書ニ履歷書及醫師又ハ仝業者二名以上ノ證明書ヲ添ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

第二條　前條出願者ニ對シテハ左記事項ヲ試問スルコトアルヘシ

一　鍼灸治學

二　解剖學大意

三　生理學大意

第三條　修業未熟其他不適當ト認ムルモノハ營業ヲ許可セサルコトアルヘシ

第四條　鍼灸治營業者ニ施術ヲ勸メ又ハ醫師治療中ノ病者ニ對シ主治醫ノ指圖ヲ受ケスシテ施術ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　鍼灸治營業者ハ本業以外ノ手術ヲ行ヒ又ハ藥劑ヲ與ヘ若クハ藥法ヲ指示スヘカラス

第六條　鍼灸治營業者他府縣ヘ轉住又ハ廢業セントスルトキハ鑑札ヲ添ヘ届出ヘシ

失踪又ハ死亡シタルトキハ届出義務者ヨリ十日以内ニ本條ノ手續ヲナスヘシ

前項ノ場合ニ於テ鑑札ヲ添付シ難キトキハ其旨附記スヘシ

第七條　鑑札記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ記シ書換又ハ再下付ヲ願出ツヘシ

第八條　不正ノ行爲又ハ業務不適當ト認ムルトキハ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第九條　本則ニ關スル願届ハ市役所町村役場警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第十條　本則第一條第四條乃至第七條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

（樣式略ス）

◉甲第六十五號　（明治十八年七月三日）

齒拔口中療治接骨等營業ノ者ハ明治十六年十月太政官第三十四號布達ニ據リ醫術會業試驗ヲ經ルニ非レハ新規開業不相成筈ニ付從前口中療治接骨等ハ明治十年三月十二日本縣無號布達齒拔ハ全十四年本縣甲第百十四號布達以前營業ノ者ハ此際ニ限リ試驗ヲ須ヒス營業許可候條志願ノ者ハ從前營業シタル證跡及修學履歷書相添明治十八年八月三十一日限リ鑑札下付願出ツヘシ若シ期日ヲ過キ出願候者ハ何等ノ事情アルモ不聞届候此旨布達候事

◉甲第七十號　（明治十八年七月九日）

入齒々拔口中療治接骨等從來營業者取締規則左之通相定候條此旨布達候事

入齒々拔口中療治接骨從來營業者取締規則

第一條　此規則ハ明治十八年七月本縣甲第六十五號及甲第六十六號布達ニ據リ鑑札ヲ得タル者ニ施行ス

第二條　入齒營業者ハ入齒ノ外他ノ術ヲ施スヲ許サス

第三條　齒扳營業者ハ齒扳ノ外入齒術ヲ施スヲ得ルト雖トモ其他ノ術ヲ施スヲ許サス

第四條　口中療治營業者ハ齒龈破血齲齒療治及ヒ入齒拔齒ノ術ヲ施スヲ得ルト雖トモ其他ノ術ヲ施スヲ許サス

第五條　接骨營業者ハ整骨術ヲ施スモノニシテ副木繃帶ヲ除クノ外醫術器械ヲ用ユルヲ許サス

第六條　各營業者ハ患者既ニ醫師ノ治療中ナルトキハ其醫ノ承諾ヲ受クルニ非レハ施術ス可ラス

第七條　各營業者ハ藥法ヲ指示シ或ハ藥劑ヲ用ユルコトヲ許サス

但止ヲ得サル場合ニ限リ明治十三年第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ノ藥品ヲ除クノ外ハ外用ニ限リ用ユルコトヲ得

第八條　他管下ヘ轉籍寄留スルカ又ハ廢業死亡シタルトキハ其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ又管内轉居之節ハ其旨届出ヘシ

但他管下ヘ轉住營業セントスル者ハ從來營業ノ證明書ヲ願受クヘシ

第九條　改姓名スルカ又ハ鑑札毀損シ或ハ亡失スルトキハ其事由ヲ詳記シ鑑札書換又ハ下付ヲ願出ツヘシ

第十條　本業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十一條　本則第七條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス（二十年縣令第百二號ヲ以テ改正）

第十二條　本則第六條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス（仝上追加）

第四　産婆及看護人

◉縣令第二十號　（明治三十三年三月八日）

産婆規則施行細則左ノ通リ定ム

産婆規則施行細則

第一條　産婆名簿登錄ニ關スル願書ハ別記第一號乃至第三號樣式ニ依リ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

第二條　産婆名簿登錄事項ノ謄本ヲ受ケントスル者ハ第四號樣式ニ依リ縣廳ニ願出ヘシ

第三條　産婆ハ業務ノ改良進歩ヲ計ルカ爲メ一郡市ヲ以テ一區ト爲シ組合ヲ設ケ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ但土地ノ形勢及道路交通ノ便否等ニ依リ區域ヲ分合スルノ必要アルトキハ便宜之ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ受ヘシ

第四條　産婆休業スルカ又ハ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者開業シタルトキハ組合長連署シ十日以内ニ縣廳ニ届出ヘシ

第五條　産婆ニ乏シキ地ニ於テハ産婆規則第十九條ニ據リ産婆ノ業ヲ許可スルコトアルヘシ

附　則

第六條　産婆規則第十八條ニ依リ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ第一號樣式ニ準シ所轄郡市役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

（樣式省畧）

◉縣令第二十一號　（明治三十三年三月八日）

産婆試驗規則施行細則左ノ通定ム

産婆試驗規則施行細則

第一條　産婆試驗ハ毎年二回四月十月之ヲ擧行シ其期日及場所ハ一ケ月前之ヲ告示ス

第二條　産婆試驗ヲ受ケントスルモノハ毎年三月九月中別記樣式ニ據リ修學履歴書添附所轄郡市

役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

第三條　病氣若ハ事故アリテ試驗ノ當日出頭セサル者及試驗中欠席シタル者ハ其期ノ試驗ヲ終ルコトヲ許サス

（樣式省略）

◉縣令第十四號　（明治三十五年三月十四日）

看護人取締規則左ノ通リ相定ム

看護人取締規則

第一條　本則ニ於テ看護人ト稱スルハ病者看護ノ業ヲ營ムモノヲ云フ

第二條　看護人ノ業ヲ營マントスルモノハ看護人試驗ニ合格シ免狀ヲ得タルモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　帝國大學醫科大學傳染病研究所日本赤十字社府縣立病院ニ於テ修業シタルモノ又ハ試驗法ヲ施行セル府縣試驗ニ及第シタルモノ府縣立若クハ府縣指定ノ看護人學校又ハ養成所ヲ卒業シタルモノ若クハ陸海軍現役滿期トナリタル看護手看護ハ其修業證若クハ證明スヘキ書類ヲ添付シ願出ルトキハ試驗ヲ要セス免狀ヲ下附スルコトアルヘシ

第四條　他府縣免許ノ看護人若クハ前條ノ資格ヲ有スル者一時本縣管內ニ於テ看護人ノ業務ニ從事セントスルトキハ其修業證若クハ證明スヘキ書類ヲ添ヘ左記事項ヲ具シ届出ツヘシ但特定ノ病者ト共ニ旅行中ノ者ハ此ノ限ニアラス

一　本籍住所氏名年齡

一　營業ノ場所及其期間

第五條　看護人ハ業務ノ範圍內ト雖モ主治醫ノ指示ヲ受クルニアラサレハ治療ニ關スル手術ヲ爲シ又ハ服藥ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第六條　看護人ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ト認ムルトキハ業務ヲ禁止シ若クハ停止スルコトアルヘシ

第七條　看護人ハ業務ノ依頼ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　看護人ハ法定ノ傳染病者ト他ノ病者トヲ全時ニ看護スルコトヲ得ス

第九條　看護人ハ病室內外ニ用ユヘキ着衣ヲ區別シ置クヘシ

第十條　免狀記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ記シ書換若クハ再下付ヲ願出ツヘシ

第十一條　看護人休業廢業又ハ他府縣ヘ轉居セントスルトキハ其旨届出ツヘシ

休業又ハ他府縣ヘ轉居ノ者復業セントスルトキハ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

失踪又ハ死亡シタルトキハ届出義務者ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第十二條　看護人會及看護人組合ヲ設ケントスルトキハ其會則又ハ規約書寫ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ

第十三條　看護人試驗ハ毎年二回縣廳ニ於テ之ヲ擧行ス其期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第十四條　試驗科目ハ左ノ如シ

第一　体格

第二　學說

一　看護法

二　解剖學、生理學ノ大意

三　劇毒藥ノ大意

四　傳染病豫防消毒法

第三　實地

學說試驗ハ体格檢査ニ合格シ實地試驗ハ學說試驗ニ合格シタルモノニ就キ之ヲ行フ

第十五條　看護人試驗ヲ受ケントスルモノハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ願出ツヘシ

第十六條　看護人ニ不適當ト認ムルモノハ試驗ヲ許可セサルコトアルヘシ

第十七條　本則ノ願届ハ市役所町村役場及所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

第十八條　本則第二條第四條第五條及第七條乃至第十一條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附則

第十九條　本則ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第二十條　二ヶ年以上看護人ノ業務ニ從事シ其業ニ堪ユヘキ醫師ノ證明書履歷書及修業證書ヲ添ヘ本則施行後三ヶ月以内ニ願出ルトキハ試驗ヲ要セス免狀下付スルコトアルヘシ

◉縣令第十七號　（明治三十年三月九日）

胞衣及産穢物取扱規則左ヘ通之ヲ定ム

胞衣及産穢物取扱規則

第一條　胞衣及産穢物ハ各町村ニ於テ便宜一ヶ所若クハ數ヶ所ノ場所ヲ定メ之ニ埋納スヘシ

前項埋納所ハ其字地番坪數並近傍ノ狀況ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

埋納所ヲ設定スル迄ノ間ハ水源其他衛生上有害ノ場所ヲ除クノ外家屋及飲料水ヲ距ル八間以上ノ場所ニ於テ深サ三尺以上ヲ穿チ之ニ埋納スヘシ

但便宜墓地ノ一隅ヲ區畫シ之ニ埋納スルコトヲ得

第二條　胞衣及産穢物取扱ノ營業ヲ爲サントスルモノハ埋納所又ハ燒却場ノ字地番坪數及周圍近

傍ノ狀況等ヲ詳記シタル繪圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　本則第一條第一項第三項及第二條ニ違フ者ハ十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五　種痘

◉縣令第三十三號　（明治二十六年四月一日）

明治十八年十二月本縣甲第百九號布達種痘細則左ノ通リ改正ス（三十一年縣令第二十四號ヲ以テ第十一條ヲ削除シ順次繰上ク）

種痘細則

第一條　市町村ニ於テハ病院又ハ開業醫ノ私宅若クハ其他適宜ノ場所ヲ選ヒ種痘所ヲ設置シ何市町村種痘所ト明記シタル標札ヲ掲ケ置クヘシ

第二條　種痘所ニハ一ケ所毎ニ其受持醫ヲ撰定シ之レカ種痘ヲ負擔セシムヘシ

但一名ニシテ數箇所ノ種痘所ヲ受持ツモ妨ケナシ

第三條　種痘所ノ地名番地及受持醫ノ氏名ハ市長ハ直ニ町村長ハ郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ届出ツヘシ

第四條　市町村長ハ第一號書式ニ依リ本籍寄留ヲ問ハス必ラス種痘人名簿ヲ製シ月々戸籍簿及寄

留簿ニ照シ之レニ增減訂正ヲ加ヘ種痘ノ用ニ供スヘシ

第五條　市町村長ハ毎年春（三月四月五月）秋（九月十月十一月）二季豫メ種痘所受持醫ト協議ノ上種痘日及檢診日ヲ定メ第四條種痘人名簿ニ據リ定日毎ニ接種スヘキ人員ヲ定メ其時日場所等ヲ種痘規則第七條ノ責任者ニ通知シ遺漏ナク接種及檢診セシムヘシ

但春秋二季種痘日ヲ定メタルトキハ其旨直ニ市長ハ縣廳ヘ町村長ハ郡役所ニ報告シ且ツ種痘所入口又ハ其他適宜ノ場所ニ種痘日檢診日ヲ掲示スヘシ（二十九年縣令第七號ヲ以テ改正）

第六條　種痘規則第一條第二條ニ該當スルモノハ市町村長ノ通知ニ從ヒ其種痘所ニ就キ接種スヘシ

但其望ニ依リ他ノ種痘所又病院若クハ開業醫ニ就キ接種スルモ妨ケナシ

第七條　種痘規則第三條ノ場合ニ於テハ種痘人名簿ニ記載ノ外滯在者ト雖モ普ク接種セシムヘシ

第八條　種痘規則第四條ニ依リ種痘延期シタルモノ病氣全快若クハ事故止ミタルトキハ速ニ其旨市町村長ニ屆出接種ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條　市町村長ハ種痘規則第六條ノ屆出ニ依リ證書ヲ檢閲シ初種再三種善感不善感或ハ天然痘濟ノ別ヲ種痘人名簿ニ記入シ割印ノ上本人ニ返付スヘシ

第十條　種痘規則第八條ノ種痘證及ヒ天然痘濟ノ證ハ第二號書式ニ依リ記載スヘシ

第十一條　種痘所受持醫ハ種痘者ノ族籍氏名年齡及初種再三種善感不善感ノ別ヲ記載シ種痘所ニ備ヘ置キ掛官吏ノ點檢ニ供スヘシ

但病院並ニ開業醫ニ於テ接種シタルモノモ亦本條ニ準ス

第十二條　轉籍者アリタルトキハ市町村長ハ種痘(初再三種善感不善感及年月日)或ハ天然痘濟ノ別ヲ取調入籍地市町村長ヘ通知スヘシ(三十一年縣令第五十七號ヲ以テ改正)

但寄留ノ者ハ寄留ノ節特ニ之ヲ原籍市町村長ヨリ寄留地市町村長ニ通達シ原籍ヘ復歸スルトキハ寄留地市町村長ヨリ原籍市町村長ヘ同樣通報スヘシ

第十三條　市町村長ハ第三號ノ書式ニ依リ種痘人員表ヲ製シ市長ハ毎年二月末日限リ縣廳ヘ町村長ハ仝二月十日限リ郡役所ヘ差出シ郡役所ニ於テハ之ヲ取纏メ一表ニ製シ二月末日迄ニ縣廳ヘ報告スヘシ

第十四條　種痘規則第一條第二條第三條ノ外ニ接種スルモノハ前各條ノ手續ヲ施行セス

第十五條　臨時掛官吏ヲ派出シ種痘ノ實況ヲ監視セシメ又ハ種痘人名簿等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

(書式略ス)

第六　藥業

◉縣令第八號　(明治二十三年二月十八日)

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第四十二條ニ依リ藥種商製藥者取締細則左ノ通リ之ヲ定ム

藥種商製藥者取締細則

第一條　藥種商又ハ製藥者ノ免許鑑札ヲ得ントスル者ハ族籍住所氏名ヲ詳記シ縣廳ヘ願出ツヘシ

第二條　藥種商又ハ製藥者ニシテ免許鑑札ヲ毀損亡失シ若クハ族籍氏名ヲ變換スル等鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以內ニ其事由ヲ記シ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ縣廳ヘ届出ツヘシ

第三條　藥種商又ハ製藥者廢業死亡若クハ他府縣ヘ轉住セントスルトキハ十日以內ニ其旨届出免許鑑札ヲ縣廳ヘ返納スヘシ

第四條　藥種商又ハ製藥業者管內ニ於テ轉住シタルトキハ十日以內ニ其旨縣廳ヘ届出ツヘシ

第五條　藥種商又ハ製藥者ノ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ左記雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

三尺

第何號　免許　　靜岡縣何市郡何町村何々何番地

藥種商(製藥者)　何之誰

八寸

第六條　製藥者ハ豫メ製造場位置ヲ縣廳ヘ届出ツヘシ

第七條　藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者（藥品製造會社ナレハ其所在地名及社名）若クハ外國藥品引取人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

藥種商ハ毒藥劇藥ノ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第八條　藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

但衛生試驗所ノ檢査印紙ヲ貼付シタルモノハ此限リニアラス

第九條　藥種商製藥者ニ於テ使用スル藥品容器封緘用紙ノ衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第十一條　製藥者ハ毎年其製造セシ各藥品ノ量數ヲ取調ヘ翌年一月三十日限リ縣廳ヘ届出ツヘシ

但製造セサル者モ本條ニ準ス（明治二十六年縣令第三十五號ヲ以テ改正追加）

第十二條　藥劑師ニシテ單ニ藥品ノ製造及販賣ノ業ヲ營ムモノハ十日以内ニ其旨縣廳ヘ届出ツヘシ

其轉住又ハ廢業ノトキモ亦同シ

第十三條　前條ノ場合ニ於テハ藥劑師モ第六條第七條第一項第八條第九條第十條第十一條ニ從フヘシ

第十四條　此細則ニ依リ差出ス願届書ハ所屬市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十五條　此細則第二條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第一項第十三條ニ違背シ又ハ第九條ノ命令ニ遵ハサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十六條　此細則施行以前ニ於テ内務省ヨリ製藥免許鑑札ヲ受クタルモノト雖モ更ニ縣廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十七條　此細則施行以前ニ於テ縣廳ヨリ藥舖並藥種商免許鑑札ヲ受ケタル者ハ共ニ藥種商タルノ効ヲ有ス

第十八條　明治十七年二月本縣甲第十二號布達藥種商規則同十七年四月本縣甲第三十八號布達製藥手續ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

◉告示第十三號　（明治二十三年三月一日）

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十八條ニ依リ監視員巡視ノ際左ノ證票ヲ

携帶セシム

紙製

曲尺二寸二分

表

藥品監視員之證

裏

静岡縣

縣印

◉告示第四十號　（明治三十年五月十三日）

左記ノ者阿片法第五條ニ據リ阿片卸賣人ニ指定ス

田方郡三島町百二十三番地平民　藥劑師　小出貫一

富士郡吉原町三百六十八番地平民　藥種商　望月惠作

安倍郡清水町三百二十番地平民　藥劑師　土谷善太郎

磐田郡見付町百九十七番地平民　藥劑師　加藤幸太郎

濱名郡濱松町連尺七十八番地平民　藥劑師　木村庫太郎

引佐郡氣賀町氣賀三百五番地平民　藥劑師　丸井源作

靜岡市吳服町四丁目二十五番地平民　藥劑師　秋山儀兵衛

◉告示第六十三號　（明治三十年六月十三日）

左記ノ者阿片法第五條ニ據リ阿片卸賣人ニ指定ス

志太郡藤枝町市部四十八番地平民　藥劑師　原儀三郎

駿東郡沼津町本五十四番地　藥劑師　鈴木篤平

駿東郡御厨町御殿場百九十五番地　藥劑師　岸澤信太郎

賀茂郡下田八百四十七番地平民　藥劑師　森斧治郎

賀茂郡松崎村松崎百七十二番地平民　藥劑師　近藤平八郎

◉甲第九十六號　（明治十六年十一月九日）

賣藥營業手續別紙之通リ相定候條此旨布達候事

賣藥營業手續

第一條　新ニ賣藥營業ヲ爲サント欲スルモノハ第一號書式ニ據リ願出檢査ヲ受クヘシ但シ二方以上同時ニ願出ルトキハ一方毎ニ本條ノ書式ニ據ルヘシ

第二條　浴劑(藥湯)營業ヲ爲サント欲スル者ハ第二號書式ニ依リ願出檢査ヲ受クヘシ

第三條　海水或ハ鑛泉ヲ汲採リ浴場ヲ開クハ賣藥規則外タリト雖モ鑛泉中ノ固形物(湯ノ花ト唱フル類)或ハ幾分ノ鑛泉ヲ混合シ或ハ藥物ヲ加フル者ハ別ニ湯名ヲ附シ前條ニ準シ願出ヘシ

第四條　賣藥營業許可ヲ得タルモノハ必ス願書面ニ記載ノ通リ方名用法服量主治効能及住所氏名ヲ明記シ藥品ニ付シ販賣スヘシ

第五條　藥湯營業許可ヲ得タルモノハ必ス願書面ニ記載ノ通リ温度一日ノ浴數一浴ノ時間主治効能等明記シ浴場ニ掲ケ置クヘシ

第六條　賣藥ヲ請賣及行商ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ第三號第四號書式ニ據リ願出ツヘシ

第七條　賣藥營業鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ其効ヲ有スルモノニ付別戸支店等ニテ調製發賣セントスルモノハ第五號書式ニ據リ願出ヘシ但請賣者ノ別戸支店ニ於テ請賣セントスルモ本文ニ準ス

第八條　賣藥營業請賣營業藥湯營業ノ許可ヲ得タルモノハ第十四號雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第九條　方名又ハ藥味分量用法服量主治効能等ヲ改正セント欲スル者ハ第六號書式ニ據リ願出ヘシ但方名ノ改正ニ係ル分ハ第八號ノ届書ヲ添フヘシ

第十條　免許鑑札ヲ他人ニ讓リ渡サント欲スル者ハ第七號書式ニ據リ第八號書式ノ届書ヲ添ヘ願出スヘシ但他管下ノ者ヘ讓渡シタルトキハ第八號第十號書式ノ届書ヲ差出ヘシ

第十一條　賣藥營業鑑札若クハ請賣及行商鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難等ニ因リ毀失シタルトキハ其事由顚末ヲ詳記シ第十一號書式ニ據リ鑑札書換(若クハ下付)願出ヘシ

第十二條　賣藥營業若クハ請賣營業中其相續人ニテ之ヲ相續シ又ハ改姓名若クハ他管下(請賣者ハ他郡管下)ヨリ入住スルモノハ第十二號書式ニ據リ鑑札書換願出ヘシ但管內(請賣者ハ郡役所所轄內)轉居ノモノハ鑑札裏書願出若シ郡役所所轄ヲ異ニスルトキハ前住地ノ郡役所ヘ其旨届出ヘシ(明治二十年縣令第二十三號ヲ以テ本條改正)

第十三條　賣藥營業者及請賣者他管下ヘ轉籍若クハ寄留スルトキハ其旨届出ヘシ

第十四條　賣藥營業者失踪又ハ死亡シタルトキハ八號ノ届書并鑑札相添家族ノ者ヨリ速カニ届出ヘシ但請賣者行商者失踪又ハ死亡ニ係ルモノハ郡役所ヘ届出ヘシ(明治二十年縣令第二十三號ヲ以テ本條改正)

第十五條　賣藥營業鑑札及請賣鑑札ハ他ヘ携帶スヘカラス(明治二十年縣令第二十三號ヲ以テ第十五條削除以下順次繰上ク)

第十六條　賣藥營業者請賣者廢業スルトキハ鑑札相添其旨届出ヘシ但行商者アルトキハ其鑑札ヲ返納スヘシ

第十七條　前條ノ場合ニ於テ營業者ハ八號ノ届書請賣者ハ九號ノ届書ヲ添フヘシ

但書式中行商人調ハ行商中ニテ鑑札返納シ難キ分ノミヲ記シ若シ請賣行商共之ナキトキハ其旨ヲ記スヘシ

第十八條　賣藥營業者廢業スルカ或ハ住所姓名ヲ變更シ又ハ相續人ニテ之ヲ相續シタルトキハ速ニ請賣者行商者ニ其旨通知スヘシ但失踪又ハ死亡ニ係ルモノハ家族ノモノヨリ其旨通知スヘシ

（明治二十年縣令第二十三號ヲ以テ本條改正）（明治二十年縣令第二十三號ヲ以テ第二十條削除）

（書式略ス）

◉乙第八號　（明治二十六年五月三十日）

賣藥行商鑑札ハ紙製ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ烙印ヲ朱印トナスヘシ

郡役所　市役所

◉縣令第五十九號　（明治二十年七月二十一日）

賣藥部外藥劑取締規則左ノ通相定ム

但從來請賣若クハ行商相營居候モノモ營業者ノ宿所姓名契約シタル年月日及友名等本年四月三十日迄ニ届出ツヘシ（二十九年四月縣令第四十二號ヲ以テ改正）

賣藥部外藥劑販賣取締規則

第一條　賣藥部外藥劑トハ鼠蠅虱其他有害ノ動物ヲ殺シ若クハ驅リ又ハ惡臭ヲ止ムル等ノモノニシテ効能書ヲ付シ之ヲ販賣シ人畜治病ノ目的ニ出テサルモノヲ云フ

第二條　前條ノ藥劑ヲ調製販賣セント欲スルモノハ第一號書式ニ據リ檢査願出鑑札ヲ受クヘシ

第三條　販賣許可ヲ得タルモノハ必ス願書面記載之通リ法名用法効能及住所氏名ヲ明記シ藥品ニ付シ販賣スヘシ

前項ノ藥劑又ハ他府縣免許ノ藥劑ヲ請賣若クハ行商セント欲スルトキハ營業者ト契約ヲ結ヒ其寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

但營業者又ハ請賣者自ラ行商セントスルトキハ其旨届出ヘシ（二十九年縣令第四十二號ヲ以テ追加）

第四條　方名又ハ藥品分量用法及効能等ヲ改正セント欲スルトキハ第二號書式ニ據リ願出許可ヲ受クヘシ

但藥品分量製法改正ハ製劑ヲ添ヘ方名改正ハ鑑札ヲ添フヘシ

第五條　既ニ許可シタル藥劑ト雖モ危害ヲ生シ易キ恐レアルヲ發見スルトキハ其販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第六條　營業者姓名ヲ改メ又ハ住所ヲ轉シタルトキハ其旨記載シ鑑札書換ヲ願出ヘシ但請賣者若クハ行商者姓名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ其旨届出ヘシ（二十九年縣令第四十二號ヲ以テ但書追加）

第七條　營業者住所姓名又ハ方名ヲ變更シタルトキハ速ニ請賣者及行商者ニ通知スヘシ

第八條　水火盜難過誤等ニ依リ鑑札ヲ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ願出更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第九條　營業者廢業死亡失踪又ハ管外ニ轉住スルトキハ其旨本人又ハ親族ノ者ヨリ請賣者行商者住所姓名書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

但契約ヲ結ヒタル他府縣居住ノ營業廢業者失踪等ノ場合ハ其請賣行商者ヨリ又請賣者行商者廢業死亡等ノ場合ハ本人又ハ親屬ノ者ヨリ本文ノ手續ニ依リ其旨届出ヘシ（二十九年縣令第四十二號ヲ以テ本條改正）

第十條　第九條ニ依リ鑑札ヲ返納スルカ又ハ禁止ノ處分ヲ受ケタルトキハ販賣相成ラサル旨請賣者及行商者ニ通知スヘシ

第十一條　本則第二條第四條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條　本則第三條第十條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

（書式畧ス）

第七　飲食物及中毒

◉甲第百二十一號　（明治十一年八月三十日）

性質不明ナル草木ノ果實ヲ猥リニ食スヘカラサルハ衆庶ノ熟知スル所ナリ然ルニ別紙圖面ノ毒樹當縣下各地方ニ繁生シ其果實ノ美麗ナルヲ以テ童生之ヲ玩弄シ動モスレハ生命ヲ害スル等往々有之趣ニ相聞ヘ右ハ不容易儀ニ候條自今該樹ヲ認ムルトキハ速ニ燒燼シ勉メテ被害者無之樣精々注意可致此旨布達候事（圖面略之）

通稱「ナベワリ」或ハ「ヲニウツキ」「シマウツキ」ト云フ

葉ハ尖長ニシテ三縱筋アリ夏ノ初メ紅色ノ芽ヲ生ス五六寸ナリ

實ハ圓ニ扁ク其大サ二三分計リ熟シテ赤色トナル

◉甲第百四十一號　（明治十一年十月二十六日）

食用ノ最モ注意スヘキハ掘生上ノ要點ニシテ苟モ不熟ノ物ヲ食ス可ラサル素ヨリ論ヲ俟タサル儀ニ候得共頃日市邑露店等ニ於テ不熟ノ青蜜柑ヲ販賣候者モ有之哉ニ相聞ヘ候右ハ掘生上甚タ不適切ノモノニシテ或ハ之レカ爲メ不時ノ疾病ヲ釀シ其害ヲ蒙ムル者往々有之憫然ノ至リニ候條右等ノ品食料ニ致候儀ハ堅ク可相慎就テハ青蜜柑賣買ノ儀自今差止メ候條此旨布達候事

◉甲第十五號　（明治十四年二月八日）

樟實幷樟油ノ義ハ有害ノ物ニ付若シ誤テ之レヲ食スルトキハ往々危險ノ症狀ニ陷リ候條該品取扱

候モノハ勿論各自ニ於テモ厚ク注意可致且運輸回漕ノ際ハ散逸セサル樣荷造ヲ爲シ之ニ（有毒物檳榔或ハ有害物檳油ト明記スヘシ）此旨布達候事

◉甲第百一號　（明治十六年十一月十六日）

飲食物藥品使用規則左ノ通相定候條此旨布達候事

飲食物藥品使用規則

第一條　飲食物ノ防腐防臭濁ノ下ケ色止メ等ノ爲メ藥品ヲ調製販賣セントスル者ハ製法製分量等ヲ詳記シ現品相添ヘ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ手續ヲ經サル藥品ヲ飲食物ニ使用シ販賣セントスルモノハ前同樣願出許可ヲ受クヘシ

第三條　前二ケ條ノ藥品トハ明治十三年太政官第一號公布藥品取扱規則記載ノ品ニ限ルヘシ

第四條　本則ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ處分ス（明治二十年縣令第百十號ヲ以テ改正）

◉縣令第三十四號　（明治二十六年四月一日）

蠅類ノ飲食物ニ止集スルハ飲食物ヲ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介ト爲ルノ虞アルニ付商店ニ露陳シ又ハ行商スル飲食物ニシテ其儘食用スヘキモノニハ適宜覆蓋ヲ設クヘシ

前項ニ違フ者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分ス（明治二十八年縣令第四十六號ヲ以テ追加）

◉甲第六十六號　（明治十六年七月二十四日）

中毒患者届出手續左之通相定候條此旨布達候事

中毒患者届出手續

第一條　何品ニ拘ハラス渾テ飲食セシ物ノ毒ニ中リ又ハ藥物ヲ誤用シ若クハ毒物ト知テ自殺ヲ謀ル爲メ用ヒタル中毒患者又ハ死者醫師ニ於テ診察撿案シタルトキハ第一號書式ニ依リ殘存ノ毒物アラハ之ヲ添ヘ速ニ其町村戶長ニ差出スヘシ（明治十九年縣令第二十七號ヲ以テ改正）（明治十八年甲第八十一號ヲ以テ衛生委員トアルヲ戶長ト改ム）

第二條　治療中ノ中毒患者死亡スルカ又ハ慢性症ニ歸スルトキハ第二號書式ニ依リ其町村戶長ニ差出スヘシ

第三條　戶長ハ前二條ノ屆書ヲ受クルトキハ之ニ撿印シ速ニ所轄郡役所ヲ經由シ縣廳ニ差出スヘシ

（書式略ス）

◉縣令第七十九號　（明治三十三年九月二十一日）

清涼飲料水營業取締規則施行細則左之通相定ム

清涼飲料水營業取締規則施行細則

第一條　清涼飲料水ヲ製造營業セントスル者ハ左ノ各號ヲ記シ製造原料水及使用水各五合以上ヲ

添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　營業ノ種類

二　住所氏名年齢但法人ニ係ルモノハ管理者ノ住所氏名及社名

三　製造場ノ地名番地圖面並ニ構造仕樣書

四　製造原料水及使用水汲取ノ場所但鑛泉ニ在テハ其湧出地及近傍見取圖並ニ試驗成蹟書

五　製造原料ノ品名及其配合量

六　製造方法及容器ノ洗滌方法

七　製造機械器具及容器ノ名稱品質

八　工事落成期日

第二條　製造機械ノ構造ニ依リ一定ノ製造場ヲ要セサルモノ又ハ製造販賣ノ方法ニ依リ容器ノ封緘ヲ要セサルモノハ前條ニ準シ認可ヲ受クヘシ

第三條　製造原料水及使用水ハ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

一　色濁臭味ナキモノ

二　重金屬　安莫尼亞　亞硝酸ヲ含マサルモノ

三、十萬分中蒸發殘渣五〇、〇格魯兒三、〇硝酸一、五「カメレオン」ノ消費量〇、八以内ノモノ

第四條　第一條又ハ第二條ニ依リ製造ノ認可ヲ得タル者ハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ一種毎ニ二個ノ成製品ヲ縣知事ニ差出スヘシ

第五條　清涼飲料水ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ製造販賣營業者ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但他府縣營業者ノ製造品ニ係ルモノハ一種毎ニ二個ノ成製品ヲ添ヘ本條ニ依リ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ届出ツヘシ

第六條　清涼飲料水製造場ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一　石煉瓦漆喰敲ノ類ヲ以テ地盤ニ敷設シ側壁ハ板張トナシ居室ト區劃スルコト

二　空氣ノ流通ヲ便ナラシムルコト

三　蠅類塵埃ノ侵入ヲ防キ得ル裝置ヲ爲スコト

四　汚水ヲ排泄スヘキ適當ノ溝渠ヲ設クルコト

五　製造原料品及成製品ハ日光ノ直射ヲ防キ一定ノ場所ニ於テ之レヲ區劃シテ貯藏スルコト但劇藥ニ屬スルモノハ鎖鑰アル場所ニ藏置スルコト

六　良水ノ供給ヲ充分ナラシムルコト

第七條　前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第八條　製造場及製造機械器具ハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第九條　臨時主務官吏ヲシテ製造場及製造機械器具又ハ成製品ノ檢査ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條　清涼飲料水ハ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第十一條　製造機械ノ壓力ヲ受タル局部及壜詰ヲ爲ス機械ノ局部ハ適當ナル危險豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ混合器ニハ安全瓣及壓力計ヲ備フヘシ

第十二條　炭酸含有ノ清涼飲料水製造ニ要スル炭酸瓦斯ハ適當ナル除害液ヲ貯ヘタル器中ヲ通過セシムヘシ但既ニ精製シタル炭酸瓦斯ヲ使用スルモノハ此限ニアラス

第十三條　正當ノ事由ナクシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一部又ハ全部ノ使用ヲ停止シ若クハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　落成期日ヲ經過シタルトキ

二　製造場又ハ機械ノ改修ヲ命セラレ之レニ應セサルトキ

第十四條　製造販賣營業ノ認可ヲ得タル事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ但製造場ノ改築ノミニ止マルモノハ製造原料水使用水ノ添付及第一條第一號第四號乃至第七號ノ事項ヲ記シタル書類並ニ成製品ノ提出ヲ要セス

第十五條　清涼飲料水製造販賣營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ休業シ若タハ廢業シタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ届出ヘシ

第十六條　清涼飲料水製造販賣營業者及他府縣營業者ヨリ買入レ轉賣スル營業者ハ前年內ノ製造及販賣高ヲ翌年一月十日迄ニ第一號又ハ第二號樣式ニ依リ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ届出ツヘシ

第十七條　本則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四號ニ依リ處分ス

附　則

第十八條　明治三十二年縣令第四十一號ニ依リ許可ヲ得タル嗜好飲料製造販賣營業者ニシテ本則ノ構造設備ニ抵觸スルモノハ明治三十三年十月二十日迄ニ改造シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

（樣式省略ス）

◉縣令第八十號　（明治三十三年九月二十一日）

牛乳營業取締規則施行細則左ノ通リ相定ム

牛乳營業取締規則施行細則

静内 80

第一條　牛乳搾取又ハ乳製品製造營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　營業ノ種類

二　住所氏名年齢但法人ニ係ルモノハ管理者ノ住所氏名及其社名

三　乳牛種牛ノ年齢毛色產地血統及種別

四　乳牛種牛犢牛ノ豫定頭數

五　搾取所又ハ乳製品製造場ノ地名番地圖面並ニ構造仕樣書但借地ニ在テハ其地主ノ承諾書

六　工事落成期日

第二條　搾取所ハ人家稀疎ノ場所ニアラサレハ許可セス

第三條　搾取所ハ適宜ノ圍ヲ爲シ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一　牛舍ハ隣地若クハ道路ヲ、距ルコト五間以上運動場ハ三間以上ニアラサレハ之ヲ設クルコトヲ得ス但隣地ニ家屋ヲ建設シ能ハサル場所ニ在テハ此限リニアラス

二　牛舍ハ屋棟ニ空氣抜ヲ設ケ周壁ノ下部ニ適當ノ窓ヲ設クルコト

三　牛室ハ一頭毎ニ幅四尺以上奥行八尺以上ノ區域ヲ爲シ前面ニ四尺以上後面ニ三尺以上ノ空地ヲ存スルコト

四　牛室ノ地盤ハ石煉瓦漆喰敲ノ類ヲ以テ敷設シ厚板ヲ張リ勾配ヲ附スルコト

五　尿樋ハ牛室ニ設ケ舍外ノ尿溜ニ排流セシムル裝置ヲ爲スコト

六　尿樋及尿溜ハ石煉瓦漆喰敲ノ類又ハ甎ヲ以テ作リ尿溜ノ位置ハ牛舍ヲ距ル三尺以外ノ地ニ設ケ適當ノ雨除ヲ附シ其周圍ハ地盤ヨリ高クスルコト

七　糞及不潔物溜ハ石煉瓦漆喰敲ノ類ヲ以テ牛舍ヲ距ル三尺以外ノ地ニ作リ掃除口ニハ挿蓋ヲ設クルコト

八　運動場ハ周圍ニ堅牢ナル柵ヲ設ケ一頭（犢牛ヲ除ク）ニ付五坪以上ノ面積ヲ要スルコト但十頭以上ハ一頭毎ニ二坪ヲ加フ

第四條　搾乳害牛乳殺菌室牛乳檢査場又ハ病牛隔離室ヲ設備セシムルコトアルヘシ

第五條　乳製品製造場ハ面積十坪以上トシ未製品成製品置場及釜場ヲ設ケ其地盤ハ石煉瓦漆喰敲ノ類ヲ以テ敷設スヘシ

乳製品ハ其容器ニ製造營業者ノ住所氏名及製造ノ年月日ヲ記入スヘシ

第六條　牛乳搾取所又ハ乳製品製造場ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第七條　正當ノ事由ナクシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一部又ハ全部ノ使用ヲ停止シ若クハ

認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　落成期日ヲ經過シタルトキ

二　搾取所又ハ乳製品製造場ノ改修又ハ移轉ヲ命セラレ之レニ應セサルトキ

第八條　牛舍又ハ運動場ハ常ニ清潔ニスヘシ

第九條　糞尿ノ爲メ浸潤シタル藁藁ハ時々新鮮ノモノト交換スヘシ

第十條　汚物溜ハ常ニ充溢セサル樣掃除スヘシ

第十一條　牛乳搾取所ハ乳牛種牛若クハ犢牛ノ外飼養スルコトヲ得ス

第十二條　牛乳搾取營業者ハ第一號樣式ノ牛籍簿ヲ作製スヘシ

乳牛種牛ニ增減アリタルトキハ年齡毛色產地血統及種別ヲ記シ五日以內ニ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ屆出ツヘシ但斃死ニ係ルモノハ獸醫ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第十三條　畜牛疾病ニ罹リタルトキハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ二十四時間以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但牛乳營業取締規則第五條第一號ノ疾患ナルトキハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條　吏員又ハ獸醫ヲシテ牛体ノ檢診牛乳又ハ乳製品ノ檢査ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第十五條　乳牛ニシテ牛乳營業取締規則第五條第一號ノ疾患アルトキハ乳汁ノ分泌スルト否トニ拘ハラス其搾取所內ニ飼養ヲ禁シ角及蹄ニ第二號樣式ノ烙印ヲ捺シ隔離セシムルコトアルヘシ

第十六條　乳牛結核病ノ疑アリト認メタルトキハ「ツベルクリン」ヲ注射スルコトアルヘシ

結核病ノ疑ヒアリト認メラレタル乳牛ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他ニ移轉シ又ハ其所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

第十七條　牛乳搾取及乳製品製造ノ際ハ清潔ナル衣　ヲ着シ手指牛体及容器ヲ清潔ニスヘシ但容器ハ使用ノ都度熱湯ヲ以テ洗滌スヘシ

第十八條　牛乳ノ脂肪量ハ左ノ程度ニ適合スルニアラサレハ販賣スルコトヲ得ス

全乳ニ在テハ百分中二、七分以上

脫脂乳ニ在テハ百分中〇、五分以上

第十九條　牛乳請賣營業ヲ爲サントスル者ハ其搾取營業者ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ屆出スヘシ

第二十條　牛乳配達人ニハ第三號樣式ノ標札ヲ携帶セシムヘシ

第二十一條　牛乳搾取又ハ乳製品製造ノ認可ヲ得タル事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ第一條ニ準シ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條　牛乳搾取營業者乳製品製造營業者又ハ請賣營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ休業シ若クハ廢業シタルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ屆出ツヘシ但死亡シタルトキハ屆

出義務者ヨリ其手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　牛乳搾取營業者又ハ乳製品製造營業者ハ第四號樣式ニ依リ其年ノ乳汁搾取高販賣高又ハ乳製品製造高ヲ翌年一月十日迄ニ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ届出ヘシ

第二十四條　本則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四號ニ據リ處分ス

附則

第二十五條　明治三十三年縣令第十七號ニ依リ許可ヲ得タル牛乳營業者ニシテ本則ノ構造設備ニ抵觸スルモノハ明治三十三年十月二十日迄ニ改造シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

（樣式省略）

◉縣令第八十一號　（明治三十三年九月二十一日）

氷雪營業取締規則施行細則左ノ通相定ム

氷雪營業取締規則施行細則

第一條　氷雪ヲ採收製造シテ販賣ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ記シ原水二升ヲ添付シ所轄警察官廳ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　營業ノ種類

二　住所氏名年齢但法人ニ係ルモノハ管理者ノ住所氏名及其社名

三　採收製造場所（町村大字番地）面積及周圍六十間以內ノ地形見取圖但借地ニ係ルモノハ當該官廳ノ使用許可證又ハ所有者ノ承諾書ノ寫ヲ添フヘシ

四　氷池及水道ノ構造並ニ圖面

五　原水ノ種別及所在町村字名地番

六　採收製造ノ方法

七　貯藏場ノ位置構造圖面及貯藏方法

八　工事落成期日

第二條　氷池ハ人家蓄舍道路鐵道ヨリ二十間以上墓地火葬場斃獸捨場獸類化成場工場其他不潔ト認ムル場所ヨリ六十間以上ノ距離ヲ有スルヲ要ス

第三條　氷池ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一　石煉瓦漆喰敲ノ類又ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ地盤ニ敷設排水溝ヲ設クルコト

二　池畔ハ池底ニ準シ地面ヨリ高クシ外方ニ向テ勾配ヲ付スルコト

第四條　氷道ハ陶、鐵又ハ木竹ノ材料ヲ以テ築造シ氷池トノ境界ニ濾過裝置ヲ設クヘシ

第五條　貯藏場ハ小石ヲ地盤ニ敷設シ編竹ヲ置キ其內壁ハ凡テ二重ノ板張トシ其間隙ニ木屑ヲ塡

充シ適宜ノ位置ニ搬出口ヲ設クヘシ

第六條　採收製造場及貯藏場ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第七條　正當ノ事由ナクシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ一部又ハ全部ノ使用ヲ停止シ若クハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　落成期日ヲ經過シタルトキ

二　氷池水道採收製造場若クハ貯藏場ノ改修又ハ移轉ヲ命セラレ之レニ應セサルトキ

第八條　氷雪採收製造營業者其貯藏シタル氷雪ヲ販賣セントスルトキハ其採收製造及貯藏ノ場所並ニ豫定ノ數量ヲ記載シ現品十斤ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ差出スヘシ其管外ヨリ輸入シテ貯藏セルモノ亦同シ

第九條　氷雪卸賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　貯藏場ノ位置構造圖面

二　貯藏ノ方法

三　採收製造營業者ノ住所氏名但管外ニ係ルモノハ營業認可書ノ寫

第十條　氷雪販賣營業ヲ爲サントスル者ハ採收製造營業者又ハ卸賣者ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十一條　氷雪ヲ飲用者ニ供給スル場合ニ於テ混和スル水及器具氷塊ヲ洗滌スル水ハ飲用ニ適スル可キ証明アルモノニアラサレハ用ウルコトヲ得ス

前項ノ混和水及洗滌水ハ其容器ニ塵埃ノ侵入セサル裝置ヲナスヘシ

第十二條　飲料ニ適セサルモ外用トシテ有害ノ虞ナキ凍氷ト認メタルモノニ限リ貯藏販賣ヲ許可スルコトアルヘシ

第十三條　外用氷ヲ販賣セントスル者ハ採收製造ノ場所數量並ニ貯藏場ノ位置ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　飲料ノ爲メ貯藏セシ氷質不良ニシテ外用氷販賣營業者ニ讓渡サントスルトキハ其授受日時ヲ定メ所轄警察官署ニ届出臨檢ヲ受クヘシ

第十五條　外用氷販賣營業者ハ飲料氷雪ノ販賣ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第十六條　外用氷ハ飲料氷雪ト共ニ貯藏スルコトヲ得ス

外用氷ハ行商スルコトヲ得ス

第十七條　氷雪採收製造販賣又ハ卸賣營業者ニシテ認可ヲ得タル事項ヲ變更セントスルトキハ更

ニ第一條又ハ第九條ニ準シ手續ヲ爲スヘシ

請賣營業者ニシテ届出事項ニ變更アリタルトキハ第十條ニ準シ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　氷雪採收製造販賣營業者又ハ卸賣營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣知事ニ届出ツヘシ

請賣營業者前項ノ場合ニ在テハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

營業者死亡シタルトキハ届出義務者ヨリ前二項ニ依リ届出ツヘシ

第十九條　本則ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四號ニ據リ處分ス

附　則

第二十條　本則ハ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ施行ス

◉縣令第八十二號　（明治三十三年九月二十一日）

明治三十三年法律第十五號同年内務省令第十號ニ依リ警察官署ハ其營業者ニ對シ行政廳ニ屬スル左ノ職權ヲ行フコトヲ得

一　販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若クハ營業上ニ使用スル飲食器割烹具ヲ檢査シ又ハ試驗ノ爲メ必要ナル分量ニ限リ無償ニテ收去スルコト

二　小賣店行商又ハ途上又ハ配達中ニ於テ前項物品ノ販賣使用ヲ停止シ又ハ廢棄セシメ若クハ直接廢棄スルコト但其所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之レヲ處置センコトヲ請フトキハ之レヲ許可スルコト

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第八　屠獸

◉縣令第十六號　（明治三十三年三月六日）

明治二十年十一月縣令第百十五號屠獸場取締規則左ノ通リ改正ス

屠獸取締規則

第一條　本則ニ於テ屠獸ト稱スルハ食用ノ爲メ販賣ニ供スル牛馬羊豚ヲ屠殺スルヲ云フ

第二條　屠獸營業者ニアラサレハ屠殺スルコトヲ得ス但特ニ許可ヲ受ケタル者ハ此限ニアラス

第三條　屠獸營業者ハ屠獸場ヲ設クヘシ屠獸場外ニ於テ屠殺スヘカラス

第四條　屠獸營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ屠獸場改築幷移轉ノ場合亦同シ

一　營業者ノ本籍住所族籍身分職業氏名年齡

二　屠獸場ノ地名番地圖面幷ニ構造仕樣書

三　落成期日

第五條　屠獸場ハ人家稀疎ノ場所ニアラサレハ許可セス

第六條　屠獸場ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　屠獸場ノ周圍ニハ墻塀ヲ設クヘシ

二　屠獸場內ニハ檢査所、檢査官控所、屠獸繫留所及屠室ヲ設クヘシ

三　屠獸繫留所及屠室ノ地盤并溝ハ適當ノ勾配ヲ附シ石又ハ敲キ若クハ不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ縫目ヲ「セメント」ニテ接合シ且石又ハ漆喰敲キ若クハ不滲透質ノ材料ヲ以テ汚物溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ

四　屠室ハ光線ノ射入空氣ノ流通ヲ善クスヘシ

五　汚物溜ハ甕又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ屠獸繫留所及屠室ヲ距ル三尺以外ノ地ニ設ケ且適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ

第七條　屠獸場落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第八條　屠獸場ノ入口ニハ左ノ標札ヲ掲クヘシ

屠獸場	住所姓名	年月日認可
	堅三尺五寸 横一尺二寸	

第九條　屠獸場落成期日ノ翌日ヨリ三ケ月以內ニ開業セス又ハ六十日以上休業セシトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス但正當ノ事故ニ依リ豫メ延期ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十條　屠獸場ハ常ニ清潔ニスヘシ

第十一條　內臟皮骨其他汚物ハ屠殺ノ都度直ニ一定ノ場所ヘ之ヲ取除クヘシ

第十二條　獸類ハ檢査ヲ受クルニアラサレハ屠室ニ牽入ルヘカラス

第十三條　屠殺シタル牛馬羊豚ニハ蹄又ハ適宜ノ所ヘ檢印ヲ受クヘシ

第十四條　屠殺セシ獸肉ヲ屠殺場外ニ運搬セントスルトキハ清潔ナル布類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十五條　檢査吏員ニ於テ病獸又ハ不良ト認ムルトキハ其屠殺若クハ食用ヲ禁止スルコトアルヘシ此場合ニ於テ病獸又ハ不良肉ノ處致ハ檢査吏員ノ指揮ニ從フヘシ

第十六條　屠殺ヲ禁シタル獸類ハ檢査官吏ニ於テ角及蹄ニ禁字ノ烙印ヲ押捺スヘシ但押捺シタル烙印ハ警察官署ニ願出許可ヲ受ルニアラサレハ之ヲ削除スルヲ得ス

第十七條　屠殺スヘキ獸類ハ屠殺ノ前日正午十二時迄ニ其所有者ノ住所氏名其種類年齡毛色牝牡特徵及買入先ヲ記シ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ（三十三年縣令第八十六號ヲ以テ改正）

第十八條　屠殺時限ハ午前六時ヨリ正午十二時迄トス但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第十九條　屠殺手數料ハ牛馬羊豚各一頭ニ付之ヲ定メ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ願出認可ヲ受ク

ヘシ

第二十條　正當ノ事由ナクシテ屠殺ノ依頼ヲ拒絶シ又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ定額手數料ノ外金錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十一條　營業者轉居改氏名死亡相續讓與休業又ハ廢業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ屆出ヘシ

第二十二條　屠獸場壞頽或ハ地勢ノ變動ニ因リ危險若クハ衛生上有害ト認ムルトキハ改修又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

前項命令ニ從ハサルトキハ許可ヲ取消スヘシ

第二十三條　本則第二條第三條第四條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十四條第十六條但書第十九條第二十條第二十一條ニ違フ者及第十五條ノ命令ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十六條第四號ニ依リ處分ス

附則

第二十四條　本則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第二十五條　從前許可ヲ得タル屠獸場ニシテ本則ニ牴觸スルモノハ本則施行ノ日ヨリ九十日以内ニ於テ更ニ本則ニ依リ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

◉縣令第二十二號　（明治三十三年三月八日）

獸肉販賣營業取締規則左ノ通定ム

但明治二十四年二月縣令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

獸肉販賣營業取締規則

第一條　本則ニ於テ獸肉販賣營業ト稱スルハ食用ノ爲メ牛馬羊豚ノ肉ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二條　獸肉販賣營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ明記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

行商者ハ特ニ鑑札ヲ受ケ容器ノ見易キ部分ニ結着シ置クヘシ

第三條　營業者轉居改氏名死亡休業又ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第四條　營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭見易キ場所ニ掲クヘシ

（牛）（馬）（羊）（豚）肉販賣營業　何郡（市）何町村番地　姓　名
年月日許可

第五條　一店頭ニ於テ二種以上ノ獸肉ヲ販賣スル者ハ各其置場所ヲ定メ置クヘシ

二種以上ノ獸肉ヲ行商スルトキハ各何肉ト明記シタル木札ヲ結繫スヘシ

第六條　他府縣ニ於テ屠殺シタル獸肉ヲ販賣セントスルトキハ其賣渡人ノ證明書ヲ添ヘ所轄官署

ニ屆出檢印ヲ受クヘシ

第七條　屠殺ノ際及前條ニ依リ受ケタル檢印ハ其肉ノ盡ル迄保存シ置クヘシ

第八條　不良ノ獸肉ハ勿論異種ノ肉ヲ混シタルモノ又ハ檢印ナキ獸肉ハ販賣スルヲ許サス

第九條　當該吏員ハ臨時店鋪ニ就キ又ハ行商ノ際獸肉ヲ檢査スルコトアルヘシ

檢査ノ爲メ消費シタル獸肉ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

第十條　本則第二條第三條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四號ニ據リ處分ス

附　則

第十一條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第九　死躰解剖及檢視

◉縣令第十七號　（明治三十五年三月十四日）

明治十七年十一月甲第二十二號死体解剖規則左ノ通改正ス

死体解剖規則

第一條　死体解剖ハ醫師ニシテ醫學研究ノ爲メニスルノ外之レヲ許サス

第二條　死体解剖ヲ行ハントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

一　死者住所氏名年齡

二　病名病歷及死亡ノ年月日時

三　解剖ノ部位

四　施行ノ場所及日時

五　死者生前ノ請願書若クハ親屬ノ承諾書

六　刑死者又ハ死亡囚ニ係ルトキハ死者生前ノ請願書若クハ承諾書及監獄署ノ承諾書

第三條　前條許可ヲ得タル解剖部位ノ變更ヲ爲サントスルトキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　解剖ヲ終リタルトキハ之レヲ縫理シ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第五條　解剖後十日以内ニ剖檢記事ヲ作リ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

第六條　解剖ハ醫師産婆及其學生並ニ死者ノ關係アルモノヽ外傍觀セシムルコトヲ得ス

第七條　當該吏員ヲシテ臨時臨檢セシムルコトアルヘシ

第八條　本則第二條第三條第四條第六條及附則第九條第十條第十一條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附　則

第九條　醫師又ハ產婆ニシテ學術研究ノ爲メ死胎兒若クハ其附屬物ヲ貯藏セントスルトキハ理由ヲ記シ其夫又ハ產婦ト連署シテ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　醫師醫學研究ノ爲メ病的臟器ヲ貯藏セントスルトキハ其理由ヲ記シ本人若クハ親屬ノ承諾書ヲ添ヘ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　從來貯藏セル死胎兒又ハ病的臟器ハ本則施行後一ヶ月以內ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

◉縣令第四十八號　（明治三十三年五月二十七日）

「ペスト」病豫防上必要アリト認ムルヲ以テ當分ノ內左記市町村ニ於ケル肺炎腦膜炎肋膜炎腦出血（卒中）脚氣衝心心臟麻痺マラリヤ窒扶私及其類症梅毒病名不詳ノ病死者其他必要ト認ムル病者ニ對シ死体檢案ヲ行フ（三十五年縣令第三十五號ヲ以テ改正）

靜岡市

濱名郡濱松町

駿東郡沼津町

庵原郡富士川町ノ內大字中ノ郷

◉甲第十二號　（明治三十三年五月二十七日）

郡役所　市役所　警察署　警察分署　町村役場

本年五月縣令第四十八號ニ依ル屍体檢案施行手續左ノ通リ相定ム

一　市役所及町村役場ニ於テ死亡届ヲ受領シタルトキハ埋火葬認許證交付前ニ於テ所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ

二　警察署又ハ警察分署ニ於テ前號ノ通牒ヲ領シタルトキハ直ニ檢疫委員（醫師）ヲシテ屍体ノ檢案ヲ行ハシムヘシ

三　前號檢案施行ノ結果異狀ナシト認ムルトキハ即時市役所又ハ町村役場ニ通報スヘシ

四　市役所又ハ町村役場ニ於テ前號ノ通牒ヲ領シタルトキハ成規ノ手續ヲ爲スヘシ

五　前各號ノ通牒ハ便宜口頭ヲ以テ之レヲ爲ス事ヲ得

◉丙第一號　（明治十七年一月七日）

郡　町　村

明治十六年十月本縣甲第九十三號布達ヲ以テ死亡届規則改正候處變死ニ係ルモノト雖モ右規則ニ依リ戶長又ハ衞生委員ニ届出ルノミニテ別ニ所屬警察署分署ヘ申告ニ不及儀ト誤解候者モ有之候哉ノ趣右ハ從前ノ通警察官ノ檢視ヲ受ケタル上死亡届規則ヲ履行スヘキ儀ニ付心得違無之樣戶長ヨリ其部內人民ヘ達示シ可置此旨相達候事

第十　墓地

◉甲第十六號　（明治十八年三月五日）

明治十七年太政官第二十五號布達墓地及埋葬取締規則第八條ニヨリ細則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

（別紙）　墓地及埋葬取締細則

第一條　墓地ハ從前許可シタルモノニ限ル

但已ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廢メ又ハ新設スル場合ニ於テハ其地ノ圖面ヲ添ヘ町村長（市ハ市長）ヨリ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ本廳ニ願出スヘシ（明治二十二年縣令第七十七號ヲ以テ更正追加）

第二條　前條ノ墓地ト雖モ第三條ニ抵觸スル場所ハ後來埋葬スルコトヲ得ス（明治十八年甲第六十七號ヲ以テ本條及但書追加以下順次樣下ク）

但已ムヲ得サル事情アルモノハ第一條但書ノ手續ニ依リ出願スヘシ

第三條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障害ナキ地ヲ撰ムヘシ

第四條　虎列刺發疹窒扶斯及痘瘡患者ノ死屍ハ埋葬地ノ内ヲ區劃シ第一條但書手續ニ據リ縣令ノ許可ヲ得タル場所ニアラサレハ埋葬スルコトヲ得ス

第五條　墓地ノ周圍（墓地ト墓地ニ非ラサル地トノ境界ヲ云フ）ニハ樹木ヲ栽ヱ其墓地内ニハ一丈以上ノ樹木塀墻ヲ存スヘカラス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第六條　火葬場ヲ新設セントスルトキハ人家稠密ノ地ヲ隔ル百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ミ第一條但書ノ手續ニ依リ願出ヘシ

第七條　火葬場ハ所轄警察署ノ指圖ヲ受ケ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀墻ヲ設クヘシ

但山林原野及村落等ニシテ人家稀疎ノ場所ナルトキハ此限ニアラス

第八條　墓地ヲ隔ル六十間火葬場ヲ隔ル百二十間以内ノ地ヘ人家ヲ新設スルヲ許サス（明治十九年甲第二十二號ヲ以テ本條及但書ヲ追加シ以下順次樣下ク）

但事情不得止者ハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第九條　墓地火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ埋火葬スルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第十條　墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ所轄警察署又ハ分署ニ届ケ置クヘシ（明治二十二年縣令第七十七號ヲ以テ更正）

第十一條　墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第十二條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クヘシ

醫師治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案書ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クヘシ

姙娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師ノ死産證ヲ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クヘシ（二十九年縣令第四十一號ヲ以テ修正）

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ差出シ戸長ノ認許證ヲ受クヘシ

火葬ノ遺骨ヲ墓地ニ埋葬セントスルモノハ別ニ證明書ヲ受クヘシ（明治十八年甲第六十七號ヲ以テ追加）

第十三條　傳染病者ノ死屍ハ二十四時間ヲ竢ツヲ要セス速ニ埋葬又ハ火葬スヘシ（明治十八年甲第百四號ヲ以テ本條追加以下順次繰下ク）

第十四條　戸長ハ前條ノ届書又ハ檢案書若クハ證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證及ヒ證明書ヲ與フヘカラス（十八年甲第六十七號ヲ以テ本條及但書改正）

但認許證及ヒ證明書ハ別紙書式ニ據リ付與スルモノトス

第十五條　前條ノ届書等ハ取纒メ保存スヘシ尤モ行旅人等總テ滯留中ニ係ル分ハ本人現住地戸長ヘ送付スヘシ

第十六條　改葬ヲナサントスルモノハ戸長衛生委員ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘシ（明治二十二年縣令第十五號ヲ以テ更正）

第十七條　火葬ハ日没後ヨリ日出前迄ヲ限リトス

但傳染病者ノ死屍ハ此限ニ非ス（明治十九年甲第十號ヲ以テ追加）

第十八條　擴穴ノ深サハ六尺（傳染病者ノ死屍ヲ埋葬スルハ八尺）以上タルヘシ若シ土地ニ依リ六尺以上ニ至リ難キトキハ戸長衛生委員ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ申出指揮ヲ受クヘシ（十八年甲第三十三號ヲ以テ改正）

但火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ此限ニアラス

第十九條　碑表ヲ建設セントスル者ハ其願書ニ位置ヲ詳記セル圖面及ヒ碑文案（歐文梵語等刻スルモノハ其翻譯文ヲモ）添ヘ管理者又ハ地主連署戸長ノ受印ヲ受ケ所轄警察署ヘ願出ヘシ

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マリ誌銘傳贊等ヲ

刻セサル墓標ハ此限ニアラス

第二十條　管理者ハ其都度認許證又ハ證明書ヲ收領シ之ヲ取纒メ毎三ケ月所轄警察署又ハ分署ノ檢閲ヲ受ケ戸長役場ヘ返戻スヘシ（明治十八年甲第六十七號ヲ以テ追加）

第二十一條　管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第二十二條　第一條第二條第四條第六條第七條第八條第十二條第十五條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス（二十年縣令第九十六號ヲ以テ追加）

第二十三條　第五條第九條第十條第十八條第十九條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス（仝上）

第二十四條　第十一條第二十條第二十一條ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス（仝上）

認許證書式　（○印ハ朱書）

埋（火）葬　認許證

何府縣何國何町村何番地寄留ナレハ寄留

何府縣華士族平民職業　姓　名

年　齡

何年月日時病死又ハ死胎變分娩

戸長役場印

届書證書役場之印ト割印

表

裏

靜岡縣

何郡何町村

戸長役場印

證明書々式

證明書

何府縣何國郡何町村何番地寄留ナレハ寄留

何府縣華士族平民　姓　名

年　齡

何年月日時病變死

戸長役場之印

届書又ハ證書ト割印

右ハ何地ニ於テ火葬ノ上遺骨ハ何地墓地ヘ埋藏ナシタキ旨實子（父母又ハ親戚等）何某ヨリ申出ニ付火葬認許證ト共ニ此證明書ヲ付與スルモノ也

裏面認許證ニ同シ

認許證記載例

一　戸主ニ非ラサレハ何某父母兄弟妻子姉妹等ト肩書スヘシ

一　死胎分娩ハ姓名年齢ヲ省キ何某妻妾又ハ長二女姉妹等誰死産見ト記スヘシ

一　四人ハ何年月日時某監獄ニ於テ病死又ハ刑死變死ト記スヘシ

一　病死ノモノハ認許證ヘ其病名ヲ記入スヘシ（明治十八年甲第六十七號ヲ以テ追加）

◉甲第七十五號　（明治十八年七月二十八日）

墓地火葬場新設取廣ノ爲メ官地拂下ヲ要スル節ハ明治十七年四月本縣甲第三十三號布達ニ準シ本年三月甲第十六號布達第一條但書ノ手續ニ依リ願出ヘシ此旨布達候事

郡　町　村

◉丙第十四號　（明治十九年二月二十三日）

共葬墓地火葬場ニ關スル費用ハ協議費若クハ有志金等其町村ノ便宜ニ依リ戸長ニ於テ收支ノ方法ヲ調査シ不都合無之樣可致此旨相達候事

郡役所　戸長役場

◉丙第五十九號　（明治十九年六月一日）

明治十八年三月本縣甲第十六號布達墓地及埋葬取締細則ニ依リ墓地ヲ新設シ又ハ取廣メントスルモノハ自分一戸ニ付凡ソ二坪以内ノ割ヲ以テ出願セシムヘシ

◉告示第四十二號　（明治二十六年八月二十三日）

墓地火葬場及斃牛馬捨場（官有ニ係ルモノハ此限ニアラス）廢止願ハ自今所轄警察官署ヲ經由シテ出願スヘシ但共用墓地（火葬場及斃牛馬捨地トモ）ヲ除クノ外其墓地ノ關係者（數十名ニ及フモノハ惣代ヲ以テスルモ不苦）並ニ地主アルモノハ地主連署シ及市町村ニ於テ連署外ニ祭祀等ノ關係者ナキコトヲ證明スル等ハ從前ノ通リ

◉告示第九十六號　（三十四年五月十日）

古墳又ハ古墳ト認ムヘキ箇所ヲ發掘セムトスルトキハ其土地ノ官民有ニ拘ハラス由緒及口碑等詳記シ現場圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ豫メ申出ヘシ

第十一　傳染病

◉縣令第四十五號　（明治二十九年五月一日）

市町村清潔規則左ノ通相定ム

市町村清潔規則

第一條　市町村ハ常ニ清潔ヲ保持シ傳染病毒ノ發生ヲ豫防スヘシ

第二條　市街並ニ準市街地ニ於ケル下水溝及下水溜ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　下水溝ハ可成汚水ノ滲漏セサル樣構造シ且ツ適當ノ勾配ヲ付スヘシ

但大下水ハ汚水ノ滲漏セサル樣構造スルニ及ハスト雖モ適當ノ勾配ヲ付シ汚水ノ疏通ヲ良クスヘシ

二　下水溜ハ汚水ノ滲漏セサル樣構造シ且ツ蓋ヲ備フヘシ

三　下水溝及下水溜ハ成ルヘク飲料水ト隔リタル場所ニ設クヘシ

四　埋込下水溝ニハ金網其他ノ材料ヲ以テ芥除ヲ付スヘシ

第三條　市町村ハ毎年二回(三月十二月)以上下水溝及下水溜等ヲ浚渫シ市町村內一般ノ大掃除ヲ爲スヘシ

飲料水ニ供スル井戸、筧、水溜等ハ毎年一回以上浚渫又ハ掃除シ其近傍ハ常ニ清潔ニシ汚水滲透又ハ汚物混入等ノ虞ナカラシムルヘシ

第四條　市街地ニ於テハ掃除人夫ヲ置クカ又ハ他ニ適當ノ方法ヲ設ケ毎週一回以上準市街地ハ毎月三回以上各戸及街路溝渠等ノ塵芥及汚物ヲ取集メ衛生上無害ノ地ニ棄却又ハ燒棄スヘシ

旅人宿、料理店、飲食店、寄席、劇場、貸座敷、工業場ニ在テハ適宜散亂又ハ漏泄ノ虞ナキ蓋付ノ容器ヲ設ケ該容器ニ塵芥汚物ヲ集メ置キ前項末文ノ通リ棄却又ハ燒棄スヘシ

第五條　市街並ニ準市街地ニ於テ便所ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但路傍ノ肥溜ハ市街準市街地外ト雖モ堅牢ノ蓋ヲ備フヘシ

一　糞尿所ハ成ルヘク飲料水ヲ隔タル場所ニ設クヘシ

二　大便所數個ヲ並設スルトキハ各其糞池ヲ異ニスヘシ

三　糞尿池ハ甕、叩キ若クハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ汚液ノ滲漏セサル樣構造スヘシ

四　糞尿池周圍ノ地盤ハ叩キ、セメント等ヲ以テ汚液ノ滲漏セサル樣構造スヘシ

第六條　下水溝、下水溜、便所、芥溜等ハ傳染病流行ノ際ニ於テハ勿論傳染病流行セサルトキト雖モ夏期ニ在テハ時々適當ノ清潔法又ハ消毒法ヲ行フヘシ其清潔法又ハ消毒法執行ノ度數及方法ハ其土地ノ狀況ニ依リ所轄警察署長又ハ分署長之ヲ指示スルモノトス

第七條　此規則ニ對スル責任者ハ左ノ區別ニ依ル

一　一個人又ハ共有ニ屬スル井戸、筧、水溜、下水溝、芥溜、便所、肥溜等ハ其所有者又ハ設置者

一　宅地內ノ清潔法ハ居住者、居住者ナキトキハ家作主、家作ナキトキハ地主

一　右ニ列記スルモノヽ外ハ總テ其市町村

第八條　本則第二條及第五條ニ依リ下水溝下水溜又ハ便所ヲ新設改造シタルトキハ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第九條　警察官吏ハ常ニ清潔法實施ノ情況ヲ視察シ井戸、筧、水溜、下水溝、下水溜、便所、芥

溷、肥溜等ノ浚渫修理改造ヲ命シ又ハ塵芥汚物ノ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　第二條第三條第二項第四條第二項第五條第六條第八條ヲ犯シ又ハ第九條ノ命令ニ違ヒタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十一條　本則ニ市街並準市街ト稱スルハ明治二十七年十一月縣令第五十六條ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　從前造設シタル便所下水溝下水溷等ニシテ本則ニ適合セサルモノハ明治三十年三月限リ改造スヘシ但本條期限迄ニ改造スル能ハサル事情アルモノハ其事由ヲ具シ相當ノ期限ヲ定メ所轄警察官署ヲ經由シ官廳ニ申出テ特ニ猶豫ヲ請フヘシ

◉縣令第三十一號　（明治三十三年三月三十一日）

明治三十三年法律第三十一號汚物掃除法第五條ニ據リ靜岡市ニ汚物掃除監視吏員ヲ設置セシム其定員及俸給額ハ左表ニ依ル

吏員	定員	俸給額
掃除監督長	一人	貳拾圓以上參拾圓以下
掃除監督	二人	拾貳圓以上貳拾圓以下
掃除巡視	五人	九圓以上拾貳圓以下

◉縣令第三十二號　（明治三十三年三月三十一日）

明治三十三年三月内務省令第六號第七條ニ據リ掃除巡視採用規則左ノ通リ相定ム

掃除巡視採用規則

第一條　掃除巡視ハ試驗ノ上採用スヘキモノトス但左ノ各號ノ一ニ該當シタル者ハ此ノ限リニアラス

一　判任官以上ノ職ニ在リタル者又ハ文官任用令第三條ニ依リ判任官タルノ資格ヲ有スル者

二　巡査看守ノ職ニ在リタル者

三　陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士適任證書ヲ有スル者

四　一ヶ年以上廳府縣衛生課ノ傭員又ハ市吏員タリシ者

第二條　掃除巡視ハ品行方正身体强壯年齡二十歲以上五十歲未滿ニシテ各號ノ一ニ抵觸セサルヲ要ス

一　文官懲戒令巡査看守懲罰例ニ依リ免職ノ處分ヲ受ケ自後二ヶ年ヲ經過セサル者

三　新法又ハ舊法ニ依リ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレ若クハ單ニ監視ニ付セラレタル者但輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後三ヶ年ヲ經過シタル者ハ除ク

三　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

四　酒癖又ハ暴行ノ癖アル者
五　身分不相應ノ負債アル者
六　破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ了セサル者

第三條　掃除巡視ノ試驗科目ハ左ノ程度ニ據リ平均得点五十点以上ヲ以テ合格トス

一　衛生法規ノ大要
二　本邦歴史及地理ノ大要
三　假名交リ論説文及普通往復文
四　加減乘除比例
五　楷行草

附　則

第四條　現ニ市吏員ニシテ衛生係タル者ハ本則ノ規定ニ拘ハラス來ル四月三十日迄ニ掃除巡視ニ採用スルコトヲ得

◉縣令第三十三號　（明治三十三年三月三十一日）

明治三十三年三月内務省令第六條第八條ニ據リ掃除巡視服務規律左ノ通リ相定ム

掃除巡視服務規律

第一條　掃除巡視ハ常ニ市街清潔ノ保持ニ注意スルヲ怠ラサルヘシ

第二條　掃除巡視ハ監督吏員ノ指揮命令ヲ遵守シ職務ニ勉勵シ公平廉潔ヲ旨トシ苟モ偏頗ノ行爲アルヘカラス

第三條　掃除巡視タルモノ職務ニ服スルトキハ制服ヲ着シ其事務執行ニ關シテ懇切ナルト同時ニ嚴正ヲ旨トシ寛嚴其度ニ適スルヲ要ス

第四條　掃除巡視ハ其職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルニ不拘贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

但市長ノ認可ヲ經タルモノハ此限リニアラス

第五條　掃除巡視ハ職務上苟クモ機密ヲ漏洩スヘカラス

第六條　本規定ニ掲クルノ外服務上ニ關シテハ總テ公吏ノ規律ヲ準用ス

◉縣令第五十六號　（明治三十三年六月八日）

明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法第十一條ニ據リ濱松町ニ對シ同法ノ全部ヲ準用シ汚物掃除監視吏員ヲ設置セシム

汚物掃除監視吏員ノ定員及俸給額ハ左表ニ依ル

定員	俸給額
掃除監督　一人	拾貳圓以上拾五圓以下

掃除巡視　四人　拾圓以上拾貳圓以下

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

◉縣令第五十七號　（明治三十三年六月八日）

明治三十三年三月內務省令第五號汚物掃除法施行細則第二十一條ニ依リ靜岡市及濱松町沼津町ノ義務ニ屬スル汚物ノ處分ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ除外スルコトヲ得（三十三年縣令第五十九號ヲ以テ改正）

一　郡村ニ接近シタル地區ノ義務者ニ於テ掃除シタル汚物

二　面積一千坪以上ヲ有スル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物

前各號ノ町名及地番ハ市長及町長ニ於テ告示スヘシ

◉縣令第五十八號　（明治三十三年六月十三日）

明治三十三年三月法律第三十一號汚物掃除法第十一條ニ據リ沼津町ニ對シ全法ノ全部ヲ準用シ汚物掃除監視吏員ヲ設置セシム

汚物掃除監視吏員ノ定員及俸給額ハ左表ニ依ル

定員	俸給額
掃除監督　一人	拾貳圓以上拾五圓以下

掃除巡視　二人　拾圓以上拾貳圓以下

本令ハ發付ノ日ヨリ施行ス

◉縣令第三十五號　（明治三十二年六月三十日）

ペスト病虎列刺病及赤痢病ノ疑似症ニ對シ明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ全法ノ全部ヲ適用ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス（三十二年縣令第五十九號ヲ以テ追加更正）

但明治三十一年三月縣令第二十二號虎列刺病及赤痢病疑似症ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉縣令第四十七號　（明治二十八年七月二十八日）

虎列刺病發生シ流行ノ兆アルトキハ市街並準市街地（明治二十七年十一月縣令第五十六號ノ指定地ヲ云フ）ニ在ル左記營業者ハ一日一回以上便所ニ適法ノ消毒ヲ行フヘシ違フ者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分ス

一　宿屋（溫泉宿ヲ包含ス）料理店飲食店娼妓貸座敷引手茶屋劇場寄席觀物場

◉縣令第二十三號　（明治三十一年三月九日）

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第十九條ニヨリ虎列刺病、赤痢病、發疹窒扶私病及ペスト發生地交通遮斷手續左ノ通リ相定ム

但明治十六年七月甲第六十九號布達ハ廢止ス

虎列刺、赤痢、發疹窒扶私、ペスト病發生地交通遮斷手續

第一條　市街村落ニ於テ虎列刺病、赤痢病、發疹窒扶私病又ハペストヲ發生シ續テ數戸ニ傳播シタルトキ其他ノ部分ニ及ホサヽル樣遮斷シ得ヘシト認ムルトキハ其全部若クハ一部ヲ限リ他所トノ交通遮斷ヲ命令ス

第二條　交通遮斷ヲ命シタルトキハ警察官吏又ハ檢疫委員ハ直ニ之ヲ市町村長ニ通知シ及區域內一般ハ命令シ且明治三十一年三月縣令第二十號傳染病豫防法施行細則第二十五條ノ手續ヲ爲スヘシ

但交通遮斷ハ傳染病豫防法施行規則第六條第一項ノ時日間ニ限ル

第三條　市町村長ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ豫防委員等ニ通知シ共ニ警察官吏又ハ檢疫委員ヲ助ケ其事務ニ從事スヘシ

第四條　自己ニアラサレハ處分シ難キ要件若クハ農業等ノ爲メ遮斷區域ヲ出入セントスルモノハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ申出其指揮ヲ受クヘシ

但區域外ニ出テントスルモノハ十分ノ消毒法ヲ行フニアラサレハ之ヲ許サス

第五條　日要必需ノ物品購入其他要用ヲ辨セシムル爲メ使役者ヲ置クノ必要アルトキハ其市町村ニ於テ之ヲ定メ警察官吏又ハ檢疫委員ノ取締ヲ受ケシムヘシ

第六條　交通遮斷ノ爲メ自活シ能ハス救助ヲ願フモノアルトキハ市町村長ニ於テ篤ト調査ヲ遂ケ事實至當ト認ムルモノハ之ニ證明書ヲ付シ警察官吏又ハ檢疫委員ノ檢印ヲ受ケ市長ハ直チニ縣廳ヘ町村長ハ郡役所ヘ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ之ヲ調査シ至當ト認ムルトキハ之ヲ許可シ直ニ縣廳ヘ届出ツヘシ

第七條　前條自活シ能ハサルモノハ一人ニ付一日金拾五錢以内ノ生活費ヲ救與ス

但患家ニ對スルモノハ傳染病豫防法第二十一條七ノ例ニ據ル

第八條　交通遮斷ノ區域及終始ノ期日ハ之ヲ管内ニ告示ス

第九條　病毒他方ニ蔓延スルカ若クハ其區域内ニ於テ全ク撲滅スルトキハ交通遮斷ノ解除ヲ命令ス

前項ノ場合ニ於テハ警察官吏又ハ檢疫委員ハ市町村長及區域内ニ通シ且遮斷中ノ情況ヲ詳記シ縣廳ヘ報告スヘシ

◉縣令第五十一號　（明治二十八年九月十五日）

吐瀉又ハ下痢症ニ罹リタル患者ノ排泄物及其汚染シタルモノヲ河川溝渠池沼ニ投棄シ又ハ洗滌スヘカラス違フ者ハ刑法第四百二十六條第四ニ據リ處分ス

◉縣令第二十號　（明治三十一年三月十七日）

傳染病豫防法施行細則左ノ通相定ム

但明治十九年二月甲第十三號布達ヲ廢止ス

傳染病豫防法施行細則

第一條　傳染病豫防法第三條ノ届出ハ第一號乃至第三號書式ニ據ルヘシ

第二條　同法第三條第四條ノ届出ハ便宜口頭ヲ以テナスモ妨ケナシ

但シ第三條ノ届出ヲ口頭ヲ以テナシタルモノハ更ニ十二時間以内ニ書式ノ届書ヲ差出スヘシ

第三條　當該吏員ニ於テ傳染病タルノ疑アリト認ムルモ主治醫ニ於テ届出ヲ爲サヽル時ハ市町村醫若クハ他ノ醫師ヲシテ主治醫ト立會診斷ヲ爲サシムヘシ

第四條　市町村ハ傳染病豫防救治上必要ナル人夫器具消毒藥品等ヲ豫メ設備スヘシ

但其種類數量人員等ハ警察署長警察分署長ト協議スヘシ

第五條　左ノ各項ニ該當スルモノハ傳染病院又ハ隔離病舍ニ入ラシムヘシ

一　家屋内ニ隔離スヘキ病室ナキモノ

二　學校又ハ病院其他衆人群集ノ場所及交通頻繁ナル道路ニ接近スルモノ

三　看病人ナキモノ

四　主治醫ナキモノ

五　患者ニ專用スヘキ臥具什器其他消毒上必要ナル器具藥品ヲ備フルノ資力ナキモノ

六　宿屋飲食店其他多數ノ同居人等アリテ豫防法ノ行届キ難シト認ムルモノ

七　以上各項ノ外豫防方法ノ行届キ難シト認ムルモノ

第六條　前條各項ニ該當セサルモ近隣ノ狀況病勢ノ如何ニ依リ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ傳染病院又ハ隔離病舍ニ入ラシムルコトアルヘシ

第七條　自宅療養ノ場合ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一　病室ニハ醫師看護人ノ外出入スヘカラス

但當該吏員ノ指示ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

二　患者ノ用ヒタル飲食物ノ殘餘病室内ノ塵芥又ハ患者ノ排泄物其病毒汚染ノ虞アルモノハ總テ覆蓋アル器物ヘ收メ消毒又ハ燒却スヘシ

三　病室内ニハ蚊蠅ノ集ラサル樣防禦スヘシ

四　病室内ニ於テハ患者ノ外飲食スヘカラス

五　患者用ノ物品ハ他ニ使用スヘカラス

六　病室ニハ患者ノ飲食物ヲ調理スヘキ器具ヲ備ヘ廢水等ハ滲漏ノ虞ナキ容器ニ受ケヘシ

七　患者ノ沐浴シタル湯水並ニ患者用ニ供シタル汚水廢水ハ消毒ノ上無害ノ地ヲ撰ミ埋却スヘシ

八　病室ハ當該吏員ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ移轉スヘカラス

第八條　自宅療養中前條ノ各項ヲ遵守セス爲メニ病毒傳播ノ虞アリト認ムルトキハ當該吏員ハ即時傳染病院又ハ隔離病舍ニ入ラシムヘシ

第九條　當該吏員ニ於テ患者ノ傳染病院又ハ隔離病舍ニ入ラシメントスルトキハ途中患者ニ必要ナル藥品器具飲料等ヲ準備セシムヘシ

第十條　公私立學校劇場寄席其他興行場又ハ宿屋料理店貸座敷等多人數集合スル場所ニ傳染病患者發生シタルトキハ當該吏員ハ迅速豫防消毒ノ手續ヲ施行シ其病毒傳播ノ虞ナシト認ムル者ハ速ニ立退カシムヘシ

第十一條　患者又ハ死躰ヲ他ニ移轉セントスルトキハ其事由移轉先ヲ引受人ノ住所氏名移轉ノ月日及通路ヲ定メ屆出許可ヲ受クヘシ當該吏員前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ警察官吏市町村長ト協議ノ上其事由及移轉先引受人ノ諾否ヲ調査シ不都合ナシト認ムルトキハ之ヲ認可シ其旨移轉先警察署警察分署又ハ市役所、町村役場ヘ通報スヘシ

第十二條　死躰ハ總テ沐浴セシムヘカラス

第十三條　死躰ヲ土葬セントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ許可ヲ受クヘシ

一　棺ハ陶器又ハ木製ニシテ水分滲透ノ虞ナキモノヲ用ユルコト

二　棺ノ覆蓋ハ厚板ヲ用ヒ「チヤン」又ハ松脂ヲ以テ密閉スルコト

三　擴穴ノ深サハ八尺以上ヲ穿チ棺ノ四側上下ニ一尺以上ノ生石灰末又ハ石灰末ヲ塡充スルコト

第十四條　熱氣消毒又ハ煮沸消毒ヲ要スヘキ物品ニシテ患家ニ於テ消毒シ難キモノハ滲漏ノ虞ナキ器物ニ入レ消毒所ニ送ラシムヘシ

第十五條　患者死者排泄物若クハ病毒汚染ノ虞アル物品ヲ乘載シタル船車舁輿釣臺等ノ消毒法ハ清潔方法消毒方法第十一條第四項第八項第九項ノ例ニ依ルヘシ

第十六條　排泄物其他病毒汚染ノ物品ヲ燒却スルニハ病毒ノ地中ニ滲透セサル樣裝置ヲナスヘシ

第十七條　病毒非水ニ混入シ又ハ使用者中傳染病續發シ井水中病毒含有ノ虞レアルトキハ其水量百分ノ二ニ當ル塩酸又ハ粗製塩酸ヲ投入シ攪拌ノ後井戸蓋ヲ封鎖シ二十四時ノ後井戸浚ヲ爲シ尙ホ淨水ヲ以テ井側ノ內外ヲ洗滌シタル後ニアラサレハ使用スヘカラス

第十八條　患者ノ治癒シタル者並ニ看護人運搬人消毒人夫死躰取扱人ハ消毒法了リタル後ニアラサレハ外出若クハ他人ト交通スヘカラス

患者傳染病ハ治癒スルモ併發症等ノ爲メ消毒法ヲ行フコト能ハサルモノハ其消毒法ヲ了ル迄ハ傳染病患者ト同一ノ取扱ヲナスヘシ

第十九條　市町村ニ於テハ患者又ハ排泄物其他病毒汚染ノ物品ヲ運搬若クハ燒却シ又ハ死躰ノ運

搬埋葬ノ節ハ相當ノ看守者ヲ付スヘシ

第二十條　虎列刺、赤痢、發疹窒扶私、「ペスト」患者發生シ左ノ場合ニ該當スルトキハ患家又ハ其近隣ノ家ノ交通ヲ遮斷スヘシ

一　患者又ハ死躰アル間ニ於テ病毒傳播ノ虞アルトキ

二　患者ヲ移轉シ又ハ患者轉歸後家人同居人又ハ接近家屋ノ家人同居人ニシテ病毒潜伏ノ虞アルトキ

三　自宅療養ヲ許シタルトキ

第二十一條　交通遮斷中物品ヲ區域外ニ搬出セントスルモノハ當該吏員ニ申出指揮ヲ受クヘシ

第二十二條　交通遮斷ヲ命シタルトキハ市町村ニ於テハ相當ノ看守者ヲ置キ取締ヲナサシムヘシ

第二十三條　傳染病豫防法施行規則第二條第一項但書第三條第一項但書ノ報告書ハ第四號第五號樣式ニヨリ調製シ町村長ハ速ニ郡役所ヘ報告シ郡市長警察署長警察分署長ハ直ニ當廳ヘ報告スヘシ

第二十四條　左ノ場合ニハ郡長警察署長警察分署長ヨリ事實ヲ具シ報告スヘシ

但第三項ハ警察署長警察分署長ヨリ報告スヘシ

一　傳染病豫防法第一條列記以外ノ傳染病流行ノ兆アリテ豫防法施行ヲ必要ト認ムルトキ

二　同法第二條ノ疑似症ニ對シ法律ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムルトキ

三　同法第十二條第二項但書ニ依リ改葬ヲ許可シタルトキ

四　同法第十九條列記事項ノ一部又ハ全部施行ノ必要ヲ認ムルトキ

五　同法第二十七條ニ依リ地方長官ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ

第二十五條　傳染病豫防法第十九條ニ依リ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ交通遮斷ヲ行ヒタルトキハ速カニ其日時場所及遮斷內ノ戶數人口等ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ報告スヘシ

第二十六條　郡市役所警察署警察分署町村役場ニ於テハ別紙第六號樣式ノ患者名簿ヲ調製シ發病轉歸ノ都度記入スヘシ

第二十七條　傳染病豫防法第十五條ニ據リ豫防委員ノ設置ヲ命シタルトキハ市町村ハ直ニ適當ノ者若干名ヲ撰拔シ姓名及手當又ハ報酬額ヲ記シ市ニ在ツテハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

傳染病撲滅シ豫防委員ヲ置クノ必要ナシト認ムルトキハ市町村ニ於テ之ヲ解除シ其旨市ニ在ツテハ直チニ町村ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

（書式略ス）

◉縣令第三號　（明治三十五年二月五日）

麻疹及流行性感冒届出規程左之通リ相定ム

麻疹及流行性感冒届出規程

醫師麻疹及流行性感冒(インフルエンザ)ノ患者ヲ診斷シ又ハ死体ヲ檢案シタルトキハ別記樣式ニ依リ毎一ケ月分ヲ翌月五日迄ニ患者若クハ死体所在地ノ警察官署又ハ巡査駐在所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

(樣式略ス)

◉縣令第三十號　(明治三十一年四月六日)

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二十四條ニ依リ市町村傳染病豫防費補助規程左ノ通相定ム

市町村傳染病豫防費補助規程

第一條　市町村傳染病豫防費支出ニ對シ左ノ歩合ニ依リ縣税ヨリ補助ス

一　傳染病豫防法第二十一條第四ノ建設修繕費用ニ對シテハ其精算額ノ四分ノ一

二　同法第二十一條第六第七ノ費用ニ對シテハ其精算額ノ三分ノ一

三　其他同法ニ依リ支辨スル諸費ニ對シテハ其精算額ノ六分ノ一

第二條　支出ニ伴フ收入又ハ寄附金補助金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ扣除シ補助歩合ヲ計算

ス(三十四年縣令第五十九號ヲ以テ改正)

第三條　市町村ノ支出額其負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ又ハ特別ノ事由アルトキハ第一條ノ歩合制限ニ拘ラス支出全部迄ヲ補助スルコトアルヘシ

第四條　補助ハ物品ヲ以テ之ヲ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其代價ニ依リ金額ニ換算スルコトアルヘシ(三十四年縣令第五十九號ヲ以テ追加)

第五條　市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シ補助スル

◉甲第三十二號　(明治三十一年十一月十八日)　郡役所　市役所　町村役場

市町村傳染病豫防費補助規程施行細則左ノ通リ相定ム

市町村傳染病豫防費補助規程施行細則

第一條　市町村傳染病豫防費補助規程第一條ニ該當スル市町村會ノ議決ハ左記各項ヲ具シ即日當廳ニ報告スヘシ

一　項目ヲ區別シタル豫算金額但目内節アルモノハ其節ニ區別スルヲ要ス

一　市町村負擔ト縣費補助トノ歩合及金額

第二條　同規程第三條ニ依リ補助歩合ノ增加ヲ得ントスルモノハ左記事項ヲ具シテ當廳ノ認可ヲ

受クヘシ

一　前條第一項及第二項

一　傳染病豫防費總額

一　市町村內戶數及地租額

一　負擔ニ堪ヘサル事實

第三條　補助金ハ一年度分ヲ二回ニ分チ其年十月翌年四月十日迄ニ前六ケ月間ニ於テ支出シタル精算書ヲ添附シ之ヲ請求スヘシ

第四條　前各條ノ手續ヲ爲サヽル支出ニ對シテハ補助金ヲ交付セサルモノトス

附　則

第五條　明治三十一年度分ニ限リ三十二年三月三十一日迄ノ支出ヲ以テ打切一ケ年ヲ取纒メ翌月十日迄ニ精算明細書ヲ添附シ請求スヘシ

◉縣令第八十三號　（明治三十三年九月二十一日）

市町村ハ明治三十三年法律第三十號ニ準シ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケ施行スヘシ但其給料ヲ受ケサル者ノ手當金ハ別表ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ハ市ハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經由シテ縣知事ニ報告スヘシ

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

別表

	吊祭料	遺族扶助料
名譽職町村長	拾圓以上	百五拾圓以上
仝助役		
豫防委員	四拾圓以內	三百圓以內
衞生組合役員		

療治料ハ一日壹圓以上貳圓以內給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル額トス

◉檢第五號　（明治三十二年六月九日）

檢疫委員職務規程別紙ノ通リ相定メ候條其旨心得ヘシ

檢疫委員職務規程

第一條　檢疫委員長ハ知事ノ命ヲ受ケ檢疫委員ヲ監督シ檢疫豫防ニ關スル諸般ノ事務ヲ掌理ス副長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二條　檢疫委員長ハ左ノ各項ヲ專決スルヲ得

一　檢疫委員ヲ管內ニ出張セシムルコト

一　省府縣其他管廳ニ發病ノ上申報告及豫防消毒法執行ノ件ニ付文書ノ往復ヲ爲スコト

一　郡市役所警察署警察分署ニ對シ豫防消毒ノ施行方法ヲ通達スルコト

一　雇以下採用ニ關スルコト

第三條　檢疫委員事務所長ハ所屬檢疫委員ヲ指揮監督シ其所管內檢疫豫防ニ關スル事務ヲ處理ス

副長ハ事務所長ヲ補佐シ事務所長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第四條　檢疫委員事務所長ハ知事ノ認可ヲ得テ處務細則ヲ設クルコトヲ得

第五條　檢疫委員事務所長ハ左ノ事ヲ專決スルコトヲ得

一　所屬檢疫委員ヲ所管內ニ出張セシムルコト

第六條　檢疫委員ハ檢疫委員長又郡市ニ在テハ檢疫委員事務所長ノ指揮ヲ受ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任ス

第七條　檢疫委員出張ヲ命セラレタルトキハ法律命令ノ規程ニ從ヒ周密ニ監督注意ヲ爲シ飯廳ノ上ハ直ニ檢疫委員長又ハ檢疫委員事務所長ニ復命スヘシ但檢疫委員事務所長ハ更ニ縣廳ヘ報告スヘシ

第十二　斃牛馬等

◉縣令第四十二號　（明治二十二年三月二十八日）

斃牛馬羊豚取締規則左ノ通相定ム

斃牛馬羊豚取締規則

第一條　牛馬羊豚ニシテ疾病其他ニ斃死シタルモノハ凡テ此規則ニ據リ取扱フモノトス但傳染病ニテ斃レタルモノハ此限リニアラス

第二條　前條牛馬羊豚ハ肥料其他ニ化成スルヲ許スト雖モ着手前獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ（三十五年縣令第五十八號ヲ以テ改正追加）

第三條　警察官吏ハ時機ニ據リ其斃獸ヲ更ニ他ノ獸醫ニ診按セシムルコトアルヘシ（仝上）

第四條　第二條ノ化成所ヲ設置セントスルモノハ近隣地主並居住人ニ故障ナキ地ヲ撰ミ構造ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シテ願出許可ヲ受クヘシ

第五條　化成所ヲ設クスシテ單ニ剝皮及採骨ノミヲ爲サントスルモノハ斃牛馬捨場ノ外之ヲ爲スヘカラス

第六條　化成ニ供セサル死屍及ヒ化成殘餘ノ皮肉等ハ混物ト共ニ斃牛馬捨場ノ地下六尺以下ニ埋瘞スヘシ（二十五年縣令第五十八號ヲ以テ但書追加）

但化成ニ供セサル死屍ハ埋瘞前第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　斃牛馬捨場ノ設ナキ地ハ一村若クハ數村聯合シ人家ニ隔絶シ飲用水ニ障害ナキ地ヲ撰ミ願書ニ圖面ヲ添ヘ町村長（市長）ヨリ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シテ願出許可ヲ受クヘシ（明治二十七年縣令第七十八號ヲ以テ改正）

第八條　從前ノ斃牛馬捨場ニシテ濕地及飲用水ニ障害アル地ハ更ニ適當ノ地ヲ撰ミ前條ノ手續ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ

第九條　第二條第四條第五條第六條ニ違犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十三　娼妓檢黴

◉縣令第二十五號　（明治三十四年三月二十三日）

娼妓健康診斷規則左之通相定ム

娼妓健康診斷規則

第一條　娼妓ハ其所在地ノ娼妓健康診斷所ニ於テ警察醫ノ健康診斷ヲ受クヘシ

第二條　健康診斷ハ定日及臨時ニ之レヲ行フ

第三條　定日ノ健康診斷ハ毎週一回之レヲ行フ

施行ノ日割ハ別ニ定ムル處ニ依ル

第四條　臨時ノ健康診斷ハ左ノ場合ニ於テ之レヲ行フ

一　新ニ稼業ニ就カントスルトキ

二　疾患治癒シ稼業ニ就カントスルトキ

三　住居ヲ轉シ又ハ疾患以外ノ事故ニ依リ休業シタル者ニシテ稼業ニ就カントスルニ當リ前受診ノ日ヨリ起算シ一週日以上ヲ經過シタルトキ

四　疾患ニ罹リタルコトヲ申出タルトキ

五　當該官吏ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第五條　定日ノ健康診斷ハ午前九時ヨリ午後三時迄ノ間ニ於テ之レヲ行フ

第六條　娼妓休業中ト雖モ其貸座敷ニ在ル者ハ本則ニ依リ健康診斷ヲ受クヘシ

第七條　疾患ニ罹リ定日ノ健康診斷ヲ受クル能ハサル者ハ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ當日午前十時迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

但臨時健康診斷ノ場合ニ於テハ指定ノ時刻迄ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　娼妓ハ健康診斷證ヲ受領シ置キ受驗ノ都度警察醫ノ證印ヲ受クヘシ

第九條　第七條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條　本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第十一條　明治二十九年十一月縣令第七十七號娼妓身体檢査規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

◉告示第五十九號　（明治三十四年三月二十三日）

明治三十四年三月縣令第二十五號娼妓健康診斷規則第三條ニ依ル定日ノ健康診斷施行日割ハ左ノ如シ

靜岡警察署管内	毎週土曜日	
三島警察署管内	毎週土曜日	
沼津警察署管内	毎週土曜日	
御殿場警察分署管内	毎週金曜日	
吉原警察署管内	毎週土曜日	
大宮警察分署管内	毎週金曜日	
江尻警察署管内	毎週金曜日	（三十四年告示第百五十五號ヲ以テ更正）江尻町、興津町
藤枝警察署管内	毎週木曜日	（仝上）
島田警察署管内	毎週金曜日	
相良警察署管内	毎週土曜日	

金谷警察分署管内	毎週金曜日	
掛川警察署管内	毎週土曜日	
堀ノ内警察分署管内	毎週金曜日	（三十四年告示第百四十二號ヲ以テ追加）
大須賀警察分署管内	毎週土曜日	
森町警察署管内	毎週土曜日	
見付警察署管内	毎週土曜日	（三十四年告示第七月十六號ヲ以テ更正）見付町、山名町、中泉町、掛塚町
袋井警察分署管内	毎週土曜日	
二俣警察分署管内	毎週土曜日	
濱松警察署管内	毎週土曜日	
笠井警察分署管内	毎週金曜日	
新居警察分署管内	毎週木曜日	
氣賀警察署管内	毎週土曜日	

第十四　雜

◉縣令第十五號　（明治三十五年三月十四日）

理髮營業取締規則左ノ通相定ム

理髮營業取締規則

第一條　本則ニ於テ理髮營業ト稱スルハ頭髮鬚髯ヲ剪剃シ又ハ頭髮ヲ結束スル營業ヲ云フ

第二條　理髮營業ヲ爲サントスルモノハ本籍住所氏名年齡及ヒ其營業場ノ所在ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

家族徒弟雇人其他ノ者ヲシテ業務ニ從事セシムルトキ亦同シ

第三條　二ケ所以上ノ營業場ヲ設ケントスルトキハ管理者ノ住所氏名及營業場ノ所在ヲ記シ第二條ニ依リ届出ツヘシ

第四條　營業場ハ光線ノ射入空氣ノ流通ヲ佳クシ地盤ハ漆喰敲キ又ハ石煉瓦等ヲ以テ布設シ洗滌ニ便ナル樣裝置スヘシ但女髮結營業場ノ地盤ハ此ノ限リニアラス

第五條　營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一　精神病癲癇病者又ハ傳染性ノ疾患ヲ有シ就業上傳染ノ虞アルモノハ業務ニ從事スルコトヲ得ス

二　客ニ接セントスルトキハ毎回石鹼ヲ以テ洗手スヘシ

三　使用シタル器具中櫛剃刀剪刀「ヲヤキ」垢取等ノ類ハ客毎ニ消毒スヘシ

四　就業中ハ身体及衣服ヲ清潔ニシ清淨ナル白上衣ヲ着用スヘシ

五　客ニ供スル椅子手洗鉢布片等ハ清淨ナルモノヲ用ユヘシ

六　營業場ニハ二十倍石炭酸水ヲ盛レル唾壺ヲ備ヘ置クヘシ

七　營業場ハ常ニ清潔ナラシメ剪除シタル毛髮ハ飛散セサル樣一定ノ容器ニ收容スヘシ

第六條　消毒ノ方法ハ三倍ホルマリン液二十倍石炭酸水若クハ酒精ヲ以テ浸漬シ又ハ洗滌スルカ又ハ三十分以上煮沸若クハ蒸氣消毒ヲ行フヘシ

但他ノ方法ニ依リ消毒ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　傳染性疾患ヲ有シ理髮後消毒行届キ難シト認ムルトキハ之レヲ拒絶スヘシ

第八條　本則第二條第三條届出ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ死亡失踪等ノ場合ニ於テハ届出義務者本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條　當該官吏ハ隨時營業場ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十條　營業場ノ設備不充分ト認ムルトキハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　營業者ハ本則第五條ノ事項ヲ各營業場ノ見易キ所ニ掲示スヘシ

第十二條　本則ニ關シテハ第二條第二項ノ者ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十三條　本則第二條乃至第八條及第十一條ニ違背シ又ハ第九條ノ臨檢ヲ拒ミ若クハ第十條ノ命

令ヲ遵守セサルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條　本則ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

第七章　獄務

◉告示第五號　（明治二十六年一月二十日）

本縣監獄署來ル一月二十三日靜岡市追手町舊城內ニ移轉同日ヨリ同所ニ於テ事務取扱フ

◉告示第六號　（明治二十七年一月十六日）

看守志願手續左ノ通相定ム

但志願者資格ハ明治二十六年十二月十九日官報第三千百四十三號ヲ參照スヘシ

看守志願手續

第一條　看守志願ノ者ハ第一書式志願者ニ第二書式履歷書ヲ添ヘ監獄署ニ志願スヘシ

第二條　前條志願者ニシテ看守精勤證書ヲ有シ又ハ士官適任證書ヲ有スル者ハ該證書寫ヲ添付スヘシ

第三條　看守ノ試驗ハ毎月第一第三金曜日兩度之ヲ執行ス

第四條　身元保證人ハ本縣下ニ居住シ正確ナル者ニ限ルヘシ

但不相當ト認ルトキハ其人ヲ改メシムルコトアルヘシ

（書式略ス）

◉告示第二百十四號　（明治三十五年八月二十二日）

本縣看守退隱料及遺族扶助料年金並ニ給助年金ヲ受ル者ハ毎支給期月（死亡又ハ權利消滅若クハ停止ノトキハ其時々）ニ該年金証書ノ撿閲方ヲ現住地ノ市町村長（市町村制施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキモノ）ニ申出且別紙書式ノ年金請求書ニ其市町村長ノ証明ヲ受ケ靜岡縣典獄宛トシ仝縣監獄署ニ差出スヘシ

（別紙）　請求書

看守退隱料（遺族扶助料又ハ給助）年額金何圓

一金何程　請求高

但明治何年何月ヨリ何月迄三ケ月分

（給助年金ハ六ケ月分）

（若シ此期間ニ於テ支給停止其他ノ事由ニ依リ全額支給ヲ受クヘカラサル事實アルモノニ在テハ其請求金額ノ算出ヲ明記スヘシ）

右請求候也

何府縣何市町村番地